鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡

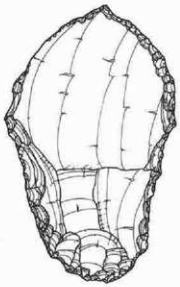
鳥取町土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡

鳥取町土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



D区出土　荒屋型彫器

1998

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

1．鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡調査区（D区）

2．鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土旧石器

3．鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土注口土器

4．鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土土器

はじめに

北に赤城山、西に榛名山、南西に妙義山の上毛三山がそびえ、その赤城山と榛名山の裾野の間を南北に利根川が流れる、水と緑にあふれた地に前橋市はあります。

前橋は古代より文化に富んだ地で、東国の奈良と称されています。今から二万八千年前の旧石器から９基を数える国指定の古墳、関東の華とうたわれた前橋城、明治からの発展を物語る群馬県庁などの近代化遺産を始めとして多くの文化財があります。

自然環境に恵まれたこの地では、人々が古代から生活を営んできた跡が市内いたるところに見られます。古代東国の中心としての生産力のある土地とも言え、埋蔵文化財の宝庫とも言えます。古代の遺跡の発掘調査による歴史を変える発見が毎年のようにあり、本年の発掘調査でも貴重な資料を得ることができました。

前橋市芳賀地区は市内でも遺跡の多い地区と言われ、古代から近世の史跡が残っています。縄文時代の土器も芳賀団地遺跡より数多く発見されており、貴重な資料となっています。また、中世の城跡である嶺城も良好な状態で残されています。

この芳賀地区の鳥取地区土地改良事業実施にともなう発掘調査が行われ、平成10年度は鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡で縄文の土器、古墳時代の住居跡、溝、奈良・平安時代の住居跡、掘立柱建物、等の調査を行いました。特に今回発見された旧石器は地区で初めての発見であるとともに、豊富な資料であり特筆すべき調査成果となりました。

芳賀鳥取地区にとっての初めての発見も多く、前橋市の歴史を解明する貴重な資料を得ることができました。発掘調査は今後も続きますが、また新たな発見が期待されます。

発掘調査にあたりまして、ご協力をいただきました農村整備課、地元関係者、酷暑の中調査に従事されました皆様方に感謝とお礼を申し上げます。

平成11年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団長　渡辺勝利

例　　言

1．本報告書は、鳥取町土地改良事業に伴う鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡発掘調査報告書である。

2．本遺跡は、群馬県前橋市鳥取町613－１他に所在する。

3．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。

4．発掘調査担当並びに調査期間は次のとおりである。

発掘・整理担当者　林　信也・福田貴之（前橋市埋蔵文化財発掘調査団調査係員）

発掘調査期間　平成10年７月９日～平成10年12月10日

整理・報告書作成期間　平成10年12月11日～平成11年３月26日

5．本書の原稿執筆・編集は林・福田が行った。なお、「Ⅴ　遺構と遺物」中の「５．工房址について」ならびに「６．掘立柱遺構について」は井上唯雄（前橋市教育委員会文化財保護課埋蔵文化財係史跡整備指導員）が執筆した。なお、旧石器時代細石器文化層については、ユニットの半分を調査にしたに留まった。今後、機会をとらえて残りの部分の調査を計画し、分析を必要とする。

6．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。

赤城美代子　栗岡エミ子　石原義夫　岩木　操　岩田敏子　内田カホル　生形かほる
大塚美智子　鬼塚成子　加藤恭江　岸フクエ　佐藤作子　佐藤花江　佐藤治吉
佐野貴恵子　柴崎まさ子　下田正衛　渡木秋子　戸丸澄江　中澤光江　名塚久枝
樋高紀美子　平林克己　平林クニ子　平林しのぶ　深沢由紀子　松津明美　松田富美子
湯浅たま江　湯浅道子

7．発掘調査で出土した遺物は、当調査団により前橋市教育委員会に保管責任を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。

2．挿図に建設省国土地理院発行の1/5万地形図（前橋）と1/2,500地形図（前橋）を使用した。

3．本遺跡の略称は、10C19である。

4．各遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。

J…縄文時代の住居址　H…古墳・奈良・平安時代の住居址　D…土坑　I…井戸址
W…溝址　P…柱穴・貯蔵穴　B…掘立柱遺構

5．遺構・遺物の実測図等の縮尺は次のとおりである。

遺　構　住居址・土坑・井戸址・溝址・掘立柱遺構・工房址…1/60
炉・竈断面図…1/30

遺　物　土器・石器（旧石器を除く）・石製品・鉄器・鉄製品…1/3・1/4
旧石器…礫器1/2、その他の旧石器…4/5

旧石器分布図　分布地形図…1/400、器種別平面分布図・垂直分布図…1/100

6．スクリーントーンの仕様は次のとおりである。

遺構平面図　粘土…斑、遺構断面図・構築面…斜線、炉址…淡点

遺物実測図　施釉範囲…霧、黒色処理…網、炭化物（煤付着等）…斑、須恵器断面…黒塗り、灰釉陶器断面…濃点、漆…朱…淡点

―― 目　　次 ――

はじめに …… i

Ⅰ 調査に至る経緯 …… 1

Ⅱ 遺跡の位置と環境
1 遺跡の位置 …… 1
2 歴史的環境 …… 3

Ⅲ 調査の経過
1 調査方針 …… 5
2 調査経過 …… 5

Ⅳ 層　　序 …… 8

Ⅴ 遺構と遺物
1 住居址 …… 9
2 土坑 …… 17
3 溝址 …… 19
4 井戸址 …… 20
5 工房址 …… 20
6 掘立柱遺構 …… 20

Ⅵ まとめ …… 39

付編　鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡の細石刃文化について

図　　版

口絵　1　鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡調査区（D区）
　　2　鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土旧石器
　　3　鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土注口土器
　　4　鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡出土土器

PL.　1　A区・住居址（H－44・48・49・50）全景
　　2　B区・住居址（H－51）全景、
　　遺物出土状態（H－48・50・51）
　　3　住居址（J－3・H－45·52·53）・工房址1・2全景
　　4　住居址（J－4・H－56·59）・D－123全景、
　　遺物出土状態（J－3・H－56·D－123·工房址1）
　　5　C・D区全景
　　6　住居址全景（J－7・H－54·60·61·63·64·66·68）
　　7　住居址（H－69・70）・竈（H－63）全景、
　　遺物出土状態（H－54・63・70・71・61貯蔵穴）
　　8　E区・住居址（J－6・H－73・76・74竈）全景
　　9　住居址（H－77・80・81・85）・掘立柱遺構全景、
　　遺物出土状態（H－82・74・85・86）
　　10　旧石器検出・出土状態、調査を終えて
　　11　H－43～46・48～51号住居址出土の土器
　　12　H－52～54・56·61号住居址出土の土器
　　13　H－61・63～66・68～70号住居址出土の土器
　　14　H－70・73・74・76・77号住居址出土の土器

PL.　15　H－77・78・81・82・85・86号住居址・
　　D－124・126・198号土坑・工房址1号・
　　W－3号溝址・A・E区出土の土器
　　16　J－3・H－60・77号住居址・
　　D－123・173号土坑出土の土器
　　17　縄文式土器
　　18　石器・石製品
　　19　鉄器・鉄製品・特殊遺物
　　20　旧石器（細石核・スキー状削片・稜付剥片）
　　21　旧石器（細石刃・彫器削片）
　　22　旧石器（彫刻刀型石器）
　　23　旧石器（削器・掻器）
　　24　旧石器（礫器）
　　25　旧石器（礫器）
　　26　旧石器（礫器・ストーンリタッチャー）

挿　　図

Fig.　1　鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡の位置 …… vi
　　2　鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡周辺図 …… 2
　　3　調査区位置図 …… 4
　　4　グリッド設定図 …… 7
　　5　標準土層図 …… 8
　　6　遺跡地形図 …… 43
　　7　遺構分布図（A区）…… 44
　　8　遺構分布図（B区）…… 45
　　9　遺構分布図（C区）…… 46
　　10　遺構分布図（D区）…… 47
　　11　遺構分布図（E区）…… 48
　　12　D区旧石器平面分布図 …… 49
　　13　D区旧石器器種別平面分布図 …… 51
　　14　D区旧石器垂直分布図 …… 52
　　16　遺跡・遺構全体図（B区）…… 53
　　19　遺跡・遺構全体図（E区）…… 55
　　15　遺跡・遺構全体図（A区）…… 57
　　17　遺跡・遺構全体図（C区）…… 58
　　18　遺跡・遺構全体図（D区）…… 59
　　20　H－43・44・46号住居址 …… 60
　　21　H－45・47号住居址 …… 61
　　22　H－48・49号住居址 …… 62
　　23　H－50・52号住居址 …… 63
　　24　H－51号住居址 …… 64
　　25　H－53・54・56号住居址 …… 65
　　26　H－55・57・58号住居址、W－3号溝址 …… 66
　　28　H－61号住居址、D－158号土坑 …… 67
　　27　H－59・60号住居址 …… 69
　　29　H－62・66・71号住居址 …… 70
　　30　H－63・64号住居址 …… 71

Fig.　31　H－65・68号住居址 …… 72
　　32　H－67号住居址、D－167号土坑 …… 73
　　33　H－69・70号住居址、D－140号土坑 …… 74
　　34　H－72・73・75号住居址、D－181号土坑 …… 75
　　35　H－74号住居址 …… 76
　　36　H－76・77号住居址 …… 77
　　37　H－78・79号住居址 …… 78
　　38　H－80・81号住居址 …… 79
　　39　H－82号住居址、D－213号土坑 …… 80
　　40　H－83・84・85・86号住居址 …… 81
　　41　J－3・4号住居址 …… 82
　　42　J－5・6号住居址、D－193号土坑 …… 83
　　43　J－7・8号住居址、D－233号土坑 …… 84
　　44　B－1・2・3号掘立柱遺構 …… 85
　　45　B－4号掘立柱遺構 …… 86
　　46　B－5・6号掘立柱遺構 …… 87
　　47　B－7・8号掘立柱遺構 …… 88
　　48　B－9号掘立柱遺構、工房址1・2号、
　　W－4号溝址 …… 89
　　49　D－87・93・96・97・101・102・104・107～
　　113・115～118・120・123～131号土坑 …… 90
　　50　D－132～134・136～139・141～146・148・
　　149・154・160～162・164・165・169・
　　170～173・175・182・184号土坑 …… 91
　　51　D－190～192・195・196・199・201～203・207・
　　208・224・225・227～231・233・236号土坑、
　　I－3号井戸址、W－1・2・5号溝址 …… 92
注記 …… 93
　　52　H－43～46・48～51号住居址出土の土器 …… 96
　　53　H－51～54・56・57号住居址出土の土器 …… 97

頁
Fig. 54 H－59～67号住居址出土の土器 …… 98
55 H－68～70・73号住居址出土の土器 …… 99
56 H－73・74・76～79・81・82・84号
住居址出土の土器 …… 100
57 H－85・86号住居址、工房址1号、
W－3号溝址、D－124・126・198号土坑、
A・E区出土の土器、縄文式土器（1） …… 101
58 縄文式土器（2） …… 102
59 縄文式土器（3） …… 103
60 縄文式土器（4） …… 104
61 縄文式土器（5） …… 105
62 縄文式土器（6） …… 106
63 石器・石製品（1） …… 107
64 石器・石製品（2）、特殊遺物、
鉄器・鉄製品 …… 108
頁
Fig. 65 旧石器（1） …… 109
66 旧石器（2） …… 110
67 旧石器（3） …… 111
68 旧石器（4） …… 112
69 旧石器（5） …… 113
70 旧石器（6） …… 114
71 旧石器（7） …… 115
72 旧石器（8） …… 116
73 旧石器（9） …… 117
74 旧石器（10） …… 118
75 旧石器（11） …… 119
76 旧石器（12） …… 120
77 旧石器（13） …… 121
78 旧石器（14） …… 122

表

頁
Tab. 1 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡遺構一覧表 …… 23
2 土器観察表 …… 26
3 鉄器・鉄製品観察表 …… 28
頁
Tab. 4 石器・石製品・特殊遺物観察表 …… 28
5 縄文式土器観察表 …… 29
6 旧石器観察表 …… 32

調査参加者 赤城美代子 粟岡エミ子 石原義夫 岩木 操 岩田敏子 内田カホル
生形かほる 大塚美智子 鬼塚威子 加藤森江 岸フクエ 佐藤作子
佐藤花江 佐藤治吉 佐野貴恵子 柴崎まさ子 下田正衛 波木秋子
戸丸澄江 中澤光江 名塚久枝 楢高紀美子 平林克己 平林タニ子
平林しのぶ 渓沢由紀子 舩津明美 松田富美子 湯浅たま江 湯浅道子

調査協力 前橋市鳥取土地改良事業共同施行 前橋市農政部農村整備課
加藤市郎 松本光好 前原 豊

（敬称略）

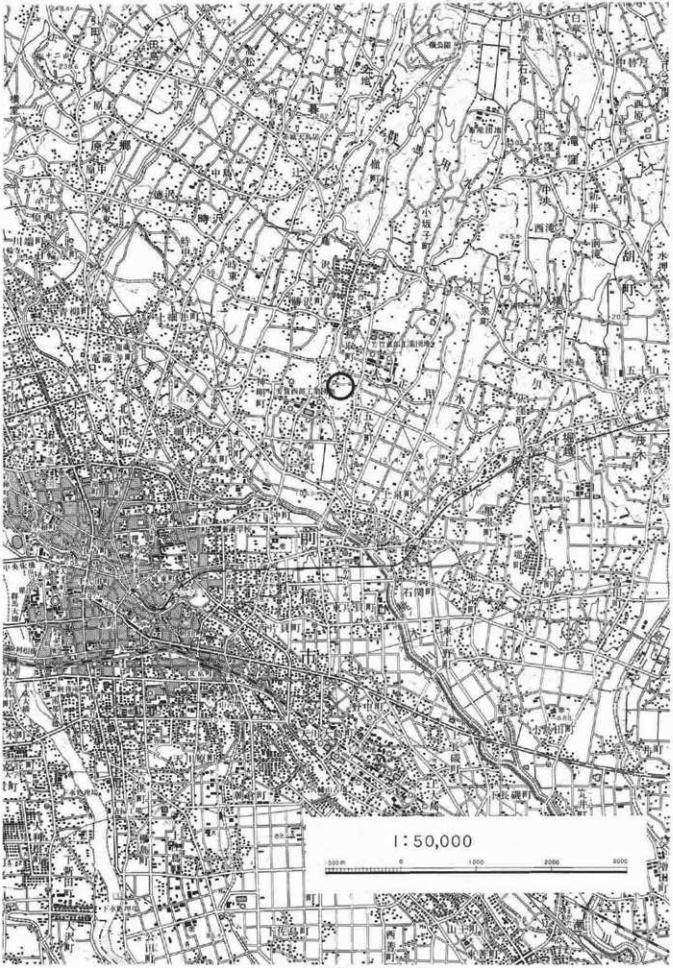


Fig. 1 鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡の位置

Ⅰ　調査に至る経緯

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡発掘調査は、鳥取町土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、平成10年７月から12月にかけて実施された。発掘調査に至る経緯は以下のとおりである。

本遺跡の発掘調査は、前橋市鳥取町を対象とした土地改良事業（２年次）実施に伴い行われた。平成10年６月23日付で鳥取土地改良事業共同施行（施行委員長　平林克己）より鳥取町の土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市教育委員会に提出された。これを受け、前橋市教育委員会文化財保護課が組織する前橋市埋蔵文化財発掘調査団（団長　渡辺勝利）との間で協議・調整を行い、平成10年７月９日に両者の間で本発掘調査の委託契約を締結、発掘調査を開始するに至った。実施方法は、前年度調査（鳥取福蔵寺遺跡）と同様に、平成元年４月３日締結の前橋工業団地造成組合と前橋市埋蔵文化財発掘調査団が取り交わした埋蔵文化財に関する覚書に準拠する。遺跡名称は「鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡」とし、遺跡略称は10C19とした。なお、遺跡名称の「福蔵寺」は旧地籍の小字名を採用している。

Ⅱ　遺跡の位置と環境

１．遺跡の位置

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡は、前橋市街地から北東へ約4.5kmの鳥取町613－１他に所在する。遺跡地の前橋市鳥取町は、昭和29年に前橋市に合併されたもので、それまでは勢多郡芳賀村字鳥取であった。このため、遺跡地を含んだ旧芳賀村の地域は、芳賀地区の呼称もある。旧芳賀村は赤城山南麓にあって、南北に細長い三角形状を呈している。頂点に当たる北端は標高620m、底辺に当たる南端は旧利根川の河川敷とされる沖積地で、その標高は110mを測り、平均斜度は約5/100である。本遺跡地は、赤城火山斜面と呼ばれる赤城山の裾野に属する傾斜地上にある。赤城火山斜面は台地上の地形であり、ところどころの山麓に源を発する中小の河川が南流し部分的に開析谷を形成している。そして、この斜面の末端部は比高差10m前後の直線的な段丘崖をなしており、旧利根川のつくった広瀬川低地に接している。本遺跡から南へ約１km下った県道前橋今井線付近（端気町）がこれに当たり、ここから南に関東平野が広がっている。なお、現在こうした地形上には、開析谷の低地には水田が、谷と谷の間の丘陵状の舌状台地には集落が、その周辺には畑が開かれ、人々の生活に深い係わりをもつ所となっている。

周辺は、台地部を中心に遺跡の濃密分布地域で、市内でも大規模な芳賀北部団地遺跡、芳賀西部工業団地遺跡、芳賀東部工業団地遺跡が指呼の間にあり、縄文、古墳、歴史時代の遺構が多数検出された。また、奈良三彩小壺を出土した桧峯遺跡、中世の嶺城跡なども含んで、古くから人々の生活の舞台となってきた地域である。

1．鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡
2．鳥取福蔵寺遺跡
3．鳥取東原遺跡
4．五代松峯Ⅱ遺跡
5．芳賀北部団地遺跡
6．芳賀西部工業団地遺跡
7．芳賀東部工業団地遺跡
8．東公田古墳
9．オブ塚西古墳
10．オブ塚古墳
11．青柳寄居遺跡
12．南田之口遺跡
13．小神明遺跡群（２ケ所）
14．芳賀北原遺跡
15．九料遺跡
16．倉本遺跡
17．西田遺跡
18．大神明遺跡
19．西新井遺跡
20．増気遺跡群Ⅰ・Ⅱ
21．大日塚古墳
22．茶木田遺跡
23．権峯遺跡
24．権峯古墳
25．新田塚古墳
26．館域跡
27．引切塚遺跡

Fig. 2　鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡周辺図

2．歴史的環境

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡が位置する赤城山南斜面の台地には、縄文時代から中近世に至る数多くの遺跡が存在し、文化財の宝庫として知られている。

芳賀地区は、昭和40年代後半から昭和50年代前半にかけて実施された芳賀遺跡群の発掘調査によって、縄文時代から近世に至るまで、ほぼ各時代の遺構が確認されたところである。周辺図をみても分かるとおり、このとき実施された芳賀団地遺跡群（芳賀北部団地遺跡、芳賀東部工業団地遺跡、芳賀西部工業団地遺跡）の発掘調査は芳賀地区の中心部約40万㎡を全面的に掘り返すものであり、前橋の発掘史のなかでも特筆されるものであった。ここでは、この昭和48年から昭和55年に及ぶ芳賀団地遺跡群の発掘調査を中心に、その後現在まで行われてきた中小の発掘調査の成果をふまえながら同地区の歴史を概観してみたい。

まず、芳賀団地遺跡群の概略であるが、調査面積約6.1haの芳賀北部団地遺跡（５）では、奈良・平安時代の竪穴住居址231軒を始め、縄文時代前期・中期の竪穴住居址、中期の敷石住居址、および中世の勝沢城址の一部が検出された。調査面積約33haの芳賀東部工業団地遺跡（７）では芳賀北部団地遺跡と同じく、奈良・平安時代の竪穴住居址420軒、掘立柱建物跡が194軒が検出されたのを始め、縄文時代前期の竪穴住居址39軒、後期の敷石住居址６軒等が検出された。調査面積約2.5haの芳賀西部工業団地遺跡（６）からは縄文時代前期の竪穴住居址、墳輪棺等のほか、古墳総覧記載漏れの古墳31基が検出された。昭和10年の古墳調査において芳賀地区では64基の古墳があるとされ、赤城山南麓では、旧荒砥村、粕川村、旧桂萱村についで古墳の多いところとされている。しかし、昭和50年、前述した芳賀西部工業団地遺跡（６）の調査では記載漏れの古墳が31基も確認されたほか、小神明遺跡群（西田遺跡）（17）、嶺町東公田地内（８）にもあり、これらの古墳を併せると芳賀地区には実に100基もの古墳が存在し、赤城山南麓における古墳の集中地域の１つである。周辺にはオブ塚西古墳（９）、オブ塚古墳（10）、桧峯古墳（24）、新田塚古墳（25）の存在が知られ、芳賀団地遺跡群を代表とする集落址と併せて、この地域の繁栄の様子がうかがわれる。

また、現在芳賀地区は「和名類聚抄」に記載されている「藤沢郷」に比定されている。奈良・平安時代の住居址群が多数検出されていることから、古墳時代に続き、奈良・平安時代においても、芳賀地区は赤城南麓における政治的、文化的に中心的な地域であったとみられる。

このように、昔から人々の生活の場であった台地上から今回の調査で新たに旧石器時代の石器が検出され、同地区における人々の営みは縄文時代以前に行われていたことが明らかになった。

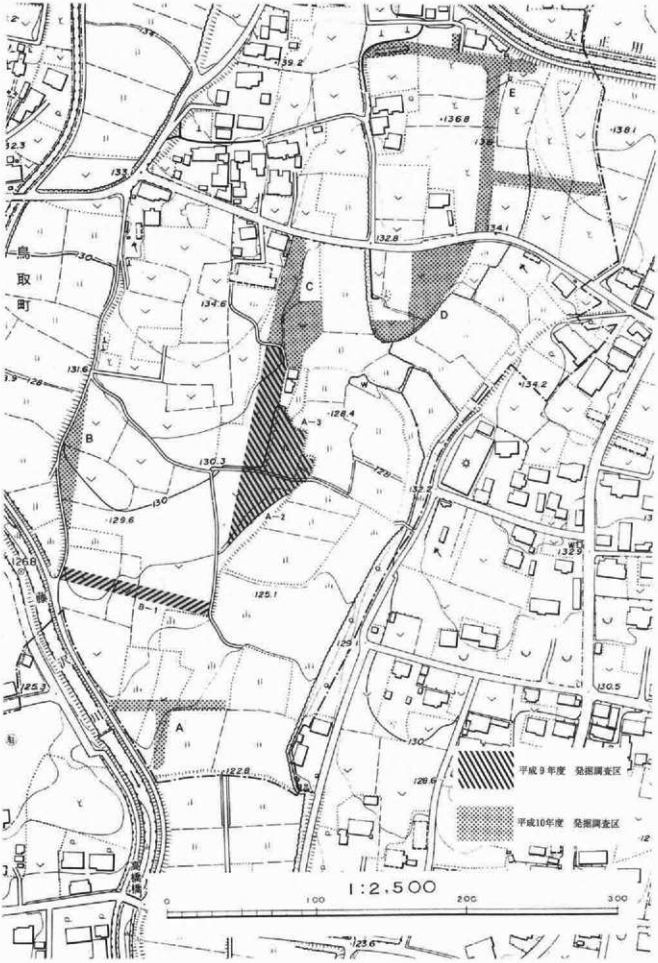

鳥取町
A
B
C
D
E
A-1
A-2
A-3
B-1
平成9年度 発掘調査区
平成10年度 発掘調査区
1:2,500
100
200
300

Fig. 3 調査区位置図

Ⅲ 調 査 経 過

1．調 査 方 針

委託された調査箇所は計画道路部分、切り土部分を中心とした7,000㎡である。調査範囲の形状から全体をA～E区の5調査区に区分した。なお、委託箇所のうち、水田、用水路等に緊密に接し、またそれらを毀損するおそれのある豚しい湧水を生ずる可能性が強い、幅員が極めて狭いため掘削機械等の投入ができず、また掘削した場合土砂崩落の危険性があるなどして、調査が困難な箇所については、必要に応じ可能な範囲内にミニトレンチを入れた。その結果、いずれも遺構は確認できなかったため、先の実状と勘案し本調査範囲より除外することとした。これにより、発掘調査面積は5,727㎡となった。実施に際しては、調査区ごとに4mグリッドを設定し、これを最小単位とした。各グリッドの呼称方法は南北方向をY軸とし、北から南へY1、Y2、Y3…、東西方向をX軸とし、西から東へX1、X2、X3…で表し、それぞれ北西の交点をグリッド名とした。その他、調査実施段階での方針は以下のとおりである。

1．土層観察は原則として遺構中央部で交差するセクションベルトを設けて行う。
2．10㎝四方以上の遺物は縮尺1/20にて図化し、それ以下についてはドット標記した平面図を作成し、取り上げに際しては、遺物台帳に諸属性を記録する。
3．竈は原則として縮尺1/10で図化し、遺構平面図は原則として縮尺1/20にて実施する。
なお、今年度の測量の基準点はX80、Y40グリッドで公共座標は第Ⅸ系（X＝+46,040m、Y＝−64,880m）である。

2．調 査 経 過

2年計画の最終年次となる本年度の調査は、7月9日付で委託契約を締結、開始の運びとなった。

本遺跡の調査区は5つに分かれており、それぞれをA～E区と呼称することとした。現地での調査態勢の整った21日より、まず最も南に位置するA区の調査に着手した。表土掘削に続きプラン確認・精査を開始した。また、並行して28日からそのほぼ北側に位置するB区の表土掘削を実施した。さらに盆明けの8月27日より、D区半面を除く残る3調査区の表土掘削を行い、9月の半ばには予定された全調査区の一通りのプラン確認をほぼ終えた。並行して進めてきたA区調査も8日に終了、同区の中央部東寄りからは、前年度調査区からの延長と見られる傾斜面整地箇所が認められた。

22日、D区より旧石器（荒屋型彫器、細石刃等）が検出された。これにより同調査区における旧石器分布域の精査が必要となった。また、30日からのD区残り半面の表土掘削及びプラン確認により、本遺跡の遺構等検出状況の全容がほぼ明らかになったため、10月2日付で想定遺構検出量減少に伴う発掘調査変更委託契約を締結した。

7日、B区の調査を終了、南北に細長く展開する同区では、その中央部より鉄製品に関する工房址と見られる土坑群が確認された他、掘立柱遺構3棟が検出された。また、縄文期の土坑よりほぼ原型をとどめた注口土器が出土した。19日、A・B両区の空中写真撮影を実施した。

30日には、B区北東に近接して位置するC・D両区の調査（旧石器を除く）を終了した。C区では、中央部から西の台地部分より相当量の遺構検出を想定していたが、案に反して検出量は微々たるものであった。また東側の谷地状部分北寄りについては湧水を伴い遺構も確認できなかったことから、ト

レンチを入れた後に埋め戻した。D区からは、住居址と重複して掘立柱遺構が1棟検出された他、墨書土器数点が出土した。

11月に入り残るE区の精査に着手した。道路幅の調査区であったが、東西南北に広がり、比較的多くの遺構を検出した。調査区南端近くに掘立柱遺構5軒が検出された他、中央部より南寄りの住居址からは竈が出土、また西寄りに検出された住居址の竈はことのほか残存状態が良好であった。しかし、トレンチを入れた東側の谷地状部分には遺構は認められず、湧水が広がりはじめたため一部を除いて埋め戻した。17日、同区の調査を終了、翌18日にC～E区の空中写真撮影を実施した。

20日よりD区における旧石器分布域の精査を開始した。上州名物「赤城おろし」が冷たく肌を突き刺しはじめ、霜の心配も出てくる時期に差しかかり、進捗を急がねばならない段階にきた。先の9月に数点が検出されたD区中央部西寄りを起点に放射状に2～4mのグリッドを組み、検出状況を見ながら徐々に精査域を広げていった。最終的には10箇所余りのグリッド内に300を越えるタワーが立ち並び、2箇所に集中した形で旧石器分布域が浮き彫りにされた。検出器種も細石核、細石刃、彫器、掻器、礫器など多岐に及んだ。12月4日、ハイライダーにより分布域全景を撮影、7日には旧石器に係る調査を終え、10日現地におけるすべての調査を完了するに至った。

11日から翌年3月26日まで文化財保護課城南収蔵庫にて整理作業を行い、本遺跡調査に係る全作業を完成させる運びとなった。

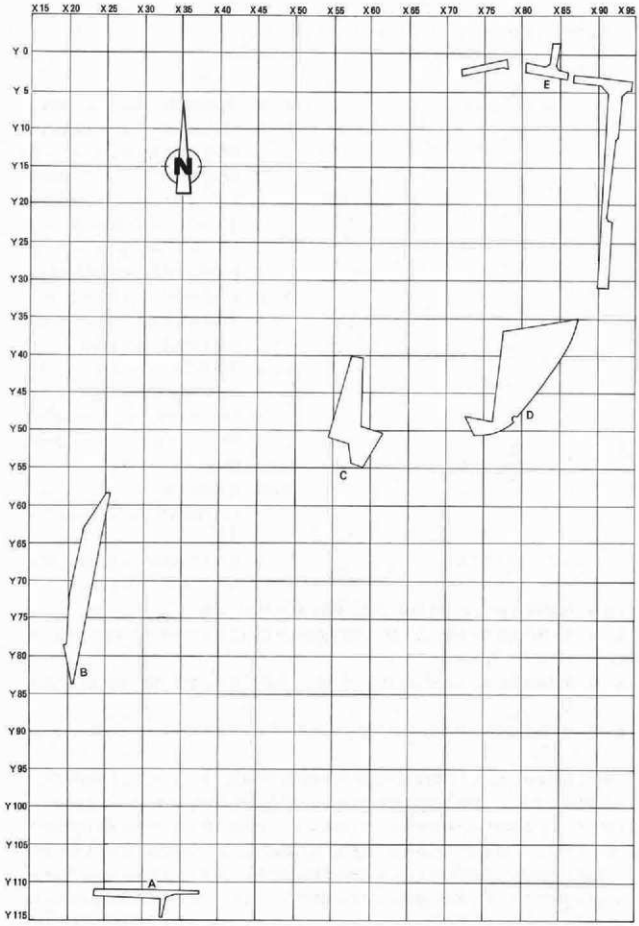


Fig. 4 グリット設定図

Ⅳ 層 序

本遺跡地内の地層の堆積は、基本的にはFig. 5のとおりである。

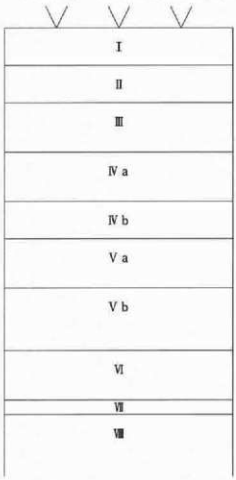


Fig. 5 標準土層図

Ⅰ 層 黒褐色粗砂層。耕作土。15～20cm。

Ⅱ 層 黒褐色細砂層。古墳～平安時代遺構構築面・遺物包含層。As－B（浅間B軽石：1108年）、As－C（浅間C軽石：4世紀中葉）、Hr－FP（榛名二ツ岳テフラ：6世紀中葉）を20～30%含む。部分的にロームとの漸移層が見られる。粘性、締まりあり。

Ⅲ 層 黄褐色細砂層。淡色黒ボク土。粘性は多少あるが締まりが弱い。縄文時代遺構構築面・遺物包含層。

Ⅳa層 明黄褐色硬質ローム層。As－YP（浅間板鼻黄色軽石：約1.3～1.4万年前）を10%、As－Sr（浅間白糸軽石：約1.8万年前）を5%含む微砂層。粘性を有し締まりが強い。

Ⅵb層 明黄褐色土層。As－Srを10%、As－YPを微量含む。粘性、締まりともに強い。

Ⅴa層 明黄褐色硬質ローム層。粘性、締まりともに強い。軽石を含む。

Ⅴb層 明黄褐色土層。As－Srを微量に含む。粘性は強いが締まりは弱い。

Ⅵ 層 明黄褐色硬質ローム層。As－BP（浅間板鼻褐色軽石：約1.6～2.1万年前）を40%含む。粘性、締まりともに強い。

Ⅶ 層 明黄褐色微砂層。AT（姶良丹沢パミス：約2.1～2.2万年前）含有層。粘性が強く締まりがある。

Ⅷ 層 明黄褐色粘土層。暗色帯。粘性は強いが、締まりはあまりない。

今回、各調査区において土層観察用の深掘を入れ基本層序を確認した。A～E区とも層厚等に若干の差はあるものの、ほぼ同様な層位が認められた。ここでは、旧石器が検出されたD区の土層（X76－Y44グリッド）を基に標準土層図を作成した。図のように、表土層（耕作土）から約20cm程度掘り下げたところでローム層を切り込む遺構面が表れる。旧石器が検出されたのはⅢ層下部からⅣ層にかけてである。各調査区とも南東に行くにつれⅡ層の堆積が厚くなることから、本遺跡の旧地形は北西から南東にかけてやや下がりぎみに傾斜していたと判断できる。またロームが落ち込む谷地状部分からは、遺構はほとんど確認されなかった。おそらくは、そこまでが居住域の限界であったのであろう。

V 遺構と遺物

本年度の調査区から検出された遺構は、竪穴住居址50軒、土坑84基、溝址5条、井戸址1基、工房址2軒、掘立柱遺構9棟である。竪穴住居址の時期概要は、縄文時代6軒、古墳時代12軒、奈良・平安時代29軒、不明3軒であり、その大半が粘性と締まりの弱い褐色ローム層を掘り込む形で構築されている。そのため確認は容易であったが、調査区によっては表土が浅いため耕作により削平を受けているところも見られた。また、各調査区における検出の内訳は、A区8軒、B区9軒、C区2軒、D区15軒、E区16軒である。昨年度の「鳥取福蔵寺遺跡」で報告されている住居址を合わせると93軒となる。掘立柱遺構はB・D・E区で確認された。工房址はB区のみで検出され、時期は9世紀後半と考えられる。土坑はA区以外の各調査区から検出され、溝址はA区、B区、E区から検出された。土坑、溝址は時代的に多岐にわたると考えられる。C区で検出された井戸址については、時期は不明である。

なお、A区は台地の南西端に、B区は台地西端の藤沢川による崖際に、C区は台地状地形東端部とその東に展開する谷地状に、D区は舌状台地末端に、E区は台地中央部から東端に位置している。

1．住 居 址

J－3号住居址（B区、Fig. 41、PL. 3・4・16）

（形状）隅丸不整形。（床面）平坦で堅緻。（柱穴）6基検出。P_1（30×29×10cm）、P_2（46×35×11.5cm）、P_3（47×34×14.5cm）、P_4（40×38×15cm）、P_5（36×32×15.5cm）、P_6（36×30×8.5cm）。（遺物）総数648点。石器8点。（備考）中央部北西寄りに焼土範囲を検出。出土遺物などから本住居址は縄文時代後期と思われる。

J－4号住居址（C区、Fig. 41、PL. 4）

（形状）住居東側が削平されており、全形は不明であるが隅丸方形を呈すると思われる。（床面）平坦で堅緻。（柱穴）1基検出。P_1（30×26×20cm）。（遺物）総数1点。石斧1点。（備考）判定の基準となる遺物もなく時期の特定は困難である。

J－5号住居址（E区、Fig. 42）

（形状）住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが隅丸不整形を呈するとみられる。（床面）平坦であるが堅緻面は認められない。（柱穴）1基検出。P_1（31×30×43cm）。（遺物）総数21点。（備考）出土遺物などから本住居址は縄文時代中期と思われる。

J－6号住居址（E区、Fig. 42、PL. 8）

（形状）住居東側が調査区外であり、また北側は削平を受けていることから、全形は不明であるが隅丸不整形を呈するとみられる。（床面）平坦であるが堅緻面は認められない。（柱穴）2基検出。P_1（26×25×21cm）、P_2（34×26×41cm）。（炉）石組みの炉がほぼ中央部に位置するとみられ、径65cmを測る。石組みはほぼ復原することができた。（重複）D－193と重複し、構築順は本遺構→D－193である。（遺物）総数87点。石斧2点・石錐1点・石器22点。

（備考）出土遺物などから本住居址は縄文時代中期と思われる。

J－7号住居址（D区、Fig. 43、PL. 6）

（形状）隅丸方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（炉）ほぼ中央部に位置するとみられ、長径50cm、短径42cmを測る。（柱穴）10基検出。P_1（27×24×36cm）、P_2（35×31×39.5cm）、P_3（26×20×21cm）、P_4（26×22×38cm）、P_5（27×22×48cm）、P_6（33×30×27cm）、P_7（28×22×12cm）、P_8（24×18×24cm）、P_9（22×20×21cm）、P_{10}（27×21×20cm）。（重複）D－233と重複し、構築順は本遺構→D－233である。（遺物）総数105点。石斧2点・石器29点。（備考）出土遺物などから本住居址は縄文時代前期と思われる。

J－8号住居址（D区、Fig. 43）

（形状）隅丸方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（柱穴）6基検出。P_1（28×26×20cm）、P_2（30×25×22.5cm）、P_3（30×28×15cm）、P_4（32×28×22.5cm）、P_5（32×33×19cm）P_6（90×87×58.5cm）。（遺物）総数2点。石器1点。（備考）出土遺物などから本住居址は縄文時代前期と思われる。

H－43号住居址（A区、Fig. 20・52、PL. 11）

（形状）住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁南寄りに位置すると思われる。北側が調査区外であり規模は不明。（重複）H－46・H－51と重複し、構築順はH－51→H－46→本遺構である。（遺物）総数351点。土師坏1点・灰釉陶器片2点・土錘1点・鉄滓1点。（備考）出土遺物などから本住居址は8世紀後半と思われる。

H－44号住居址（A区、Fig. 20・52、PL. 1・11）

（形状）住居北端が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置し、全長120cm、焚口部幅30cmを測る。（貯蔵穴）1基検出（93×58×39.5cm）。（重複）H－50・H－51と重複し、構築順はH－51→H－50→本遺構である。（遺物）総数477点。土師坏2点・灰釉陶器片1点。（備考）中央部に床下土坑1基を検出。出土遺物などから本住居址は9世紀中頃と思われる。

H－45号住居址（B区、Fig. 21・52、PL. 3・11）

（形状）長方形。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置し、全長90cm、焚口部幅53cmを測る。（柱穴）3基検出。P_1（100×52×32cm）、P_2（30×22×40cm）、P_3（115×86×7.5cm）。（重複）H－57と重複し、構築順はH－57→本遺構である。（遺物）総数363点。須恵高台埦1点・灰釉陶器片1点・陶磁器片4点・鎌・刀子各1点。（備考）周溝有り。出土遺物などから本住居址は8世紀後半～9世紀初頭のものと思われる。

H－46号住居址（A区、Fig. 20・52、PL. 11）

（形状）住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（柱穴）4基検出。P_1（75×60×115cm）、P_2（22×20×17cm）、P_3（76×65×109cm）、P_4（68×50×110cm）。（重複）H－43・W－1と重複し、構築順は本遺構→H－43・W－1である。（遺物）総数593点。土師坏・土師瓶各1点・土師甕2点・須恵坏1点・土錘1点。（備考）周溝有り。出土遺物などから本住居址は7世紀末～8世紀初頭のものと思われる。

H－47号住居址（A区、Fig. 21）

（形状）住居東側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（遺物）総数147点。（備考）床直上より検出された遺物もなく、年代特定は困難である。

H－48号住居址（A区、Fig. 22・52、PL. 1・2・11）

（形状）住居南端が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁南寄りに位置し、全長107cm、焚口部幅36cmを測る。（貯蔵穴・柱穴）3基検出。P1（30×26×21cm）、P3（28×26×13.5cm）、P5（貯蔵穴）（148×78×20cm）。（遺物）総数1,116点。土師坏・土師甕各1点・鉄器1点・鉄滓2点。（備考）周溝有り。出土遺物などから本住居址は8世紀末～9世紀初頭のものと思われる。

H－49号住居址（A区、Fig. 22・52、PL. 1・11）

（形状）住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（柱穴）3基検出。P1（55×48×64cm）、P2（32×32×94.5cm）、P3（83×73×131.5cm）。（遺物）総数130点。土師坏1点・鉄器1点。（備考）出土遺物などから本住居址は8世紀初頭と思われる。

H－50号住居址（A区、Fig.23・52、PL. 1・2・11）

（形状）住居西北隅が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置し、全長112cm、焚口部幅62cmを測る。（柱穴）5基検出。P1（38×35×15cm）、P2（30×28×7cm）、P3（36×28×11cm）、P4（43×40×20cm）、P5（116×92×29cm）。（重複）H－44・51と重複し、構築順はH－51→本遺構→H－44である。（遺物）総数1,107点。土師坏1点・須恵坏・須恵高台境各1点・砥石1点・鉄器1点・鉄滓3点。（備考）周溝有り。中央部西壁寄りに床下土坑1基検出。出土遺物などから本住居址は8世紀末～9世紀初頭のものと思われる。

H－51号住居址（A区、Fig. 24・53、PL. 2・11）

（形状）住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（炉）ほぼ中央部に位置すると思われる。長径30cm、短径（16cm）を測る。（柱穴）8基検出。P1（32×30×47cm）、P2（103×11×12cm）、P3（33×29×14cm）、P4（32×29×13cm）、P5（62×11×8cm）、P6（26×13×20cm）、P7（89×62×57cm）、P8（20×25×15cm）。（重複）H－43・44・50と重複し、構築順は本遺構→H－43→H－50→H－44である。（遺物）総数140点。坩・土師高坏・土師甕各1点・石製模造品1点。（備考）間仕切り溝2条を検出（ベッド状遺構とみられる）。出土遺物などから本住居址は4世紀中頃であると思われる。

H－52号住居址（B区、Fig. 23・53、PL. 3・12）

（形状）住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁南寄りに位置し、全長80cm、焚口部幅38cmを測る。（柱穴）2基検出。P1（68×60×50cm）、P2（77×70×35.5cm）。（遺物）総数549点。土師坏1点・須恵坏・須恵蓋各1点・鉄器1点。（備考）出土遺物などから本住居址は9世紀前半であると思われる。

H－53号住居址（B区、Fig. 25・53、PL. 3・12）
（形状）住居東側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（柱穴）1基検出。P1（44×36×16cm）。（重複）H－56と重複し、構築順は本遺構→H－56である。（遺物）総数280点。須恵耳皿・土師質須恵高台埦各1点・灰釉陶器片4点・鉄滓3点。（備考）周溝有り。出土遺物などから本住居址は9世紀後半であると思われる。

H－54号住居址（D区、Fig. 25・53、PL. 6・7・12）
（形状）正方形。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置し、全長97cm、焚口部幅49cmを測る。（遺物）総数1,371点。土師坏3点（墨書土器2点）・須恵坏4点・須恵皿2点・陶磁器片1点・鉄器1点・鉄滓2点。（備考）西辺北寄に床下土坑1基（160×88×42cm）検出。周溝有り。床面北東隅等にも周溝跡が認められ、存続中に住居規模を広げたものとみられる。また竈上部より煙道部煙出しに使用したとみられる甕が出土。出土遺物などから本住居址は8世紀末～9世紀前半のものと思われる。

H－55号住居址（B区、Fig. 26）
（形状）住居東側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（柱穴）2基検出。P1（96×72×40cm）、P2（80×68×25cm）。（遺物）総数78点。灰釉陶器片2点・陶磁器片1点。（備考）出土遺物などから本住居址は10世紀後半であると思われる。

H－56号住居址（B区、Fig. 25・53、PL. 4・12）
（形状）方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置し、全長70cm、焚口部幅62cmを測る。（柱穴）2基検出。P1（96×112×27.5cm）、P2（170×100×39cm）。
（重複）H－53・工房址1・2と重複し、構築順はH－53・工房址1・2→本遺構である。（遺物）総数544点。土師質須恵高台埦（墨書土器）1点・灰釉高台埦1点・灰釉陶器片25点・砥石1点・鉄鏃1点・鉄滓3点。（備考）南側に周溝有り。中央部に床下土坑1基検出。出土遺物などから本住居址は10世紀後半であると思われる。

H－57号住居址（B区、Fig. 26・53）
（形状）住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）ほとんど残っていないが一部に堅緻面。（竈）東壁南寄りに位置し、全長38cm、焚口部幅37cmを測る。
（柱穴）1基検出。P1（64×52×37cm）。（重複）H－45と重複し、構築順は本遺構→H－45である。
（遺物）総数52点。土師甕1点。（備考）出土遺物などから本住居址は8世紀前半と思われる。

H－58号住居址（B区、Fig. 26）
（形状）住居東側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦であるが堅緻面は認められず。（重複）W－3と重複し、構築順は本遺構→W－3である。（遺物）総数25点。（備考）出土遺物などから本住居址は11世紀初頭と思われる。

H－59号住居址（B区、Fig. 27・54、PL. 4）
（形状）正方形。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置し、全長63cm、焚口部幅36cmを測

る。（柱穴）2基検出。P_1（26×22×15cm）、P_2（34×24×12cm）。（重複）D－129・136と重複し、構築順はD－136→本遺構→D－129である。（遺物）総数231点。土師質須恵高台塊1点・灰釉陶器片5点。（備考）周溝有り。出土遺物などから本住居址は9世紀後半と思われる。

H－60号住居址（D区、Fig. 27・54、PL. 6・16）
（形状）正方形。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置し、全長74cm、焚口部幅37cmを測る。（柱穴）（壁面及び周囲に）8基検出。P_1（78×44×27cm）、P_2（37×37×24cm）、P_3（54×52×22.5cm）、P_4（35×46×20cm）、P_5（44×35×12cm）、P_6（30×28×36cm）、P_7（30×26×29cm）、P_8（34×32×36cm）。（遺物）総数193点。土師坏3点。（備考）周溝有り。出土遺物などから本住居址は9世紀後半と思われる。

H－61号住居址（D区、Fig. 28・54、PL. 6・7・12・13）
（形状）正方形。（床面）平坦で堅緻。（竈）西壁南寄りに位置し、全長98cm、焚口部幅46cmを測る。（貯蔵穴・柱穴）11基検出。P_1（48×45×57cm）、P_2（45×42×70cm）、P_3（86×60×60cm）、P_4（72×48×60cm）、P_5（隅丸方形の貯蔵穴）（130×100×93cm）、P_6（70×68×26cm）、P_7（62×57×36cm）、P_8（90×70×37cm）、P_9（25×22×51cm）、P_{10}（40×38×12cm）、P_{11}（50×46×28cm）。（重複）D－144・158・160・161・236・掘立柱遺構B－4号と重複し、構築順は本遺構→掘立柱遺構B－4号→土坑群である。（遺物）総数565点。土師坏・土師甕各2点。（備考）周溝有り。間仕切り溝9条検出。南辺中央部に馬蹄形の入口部有り。出土遺物などから本住居址は6世紀末～7世紀初頭のものと思われる。

H－62号住居址（D区、Fig. 29・54）
（形状）長方形。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁南寄りに位置し、全長132cm、焚口部幅33cmを測る。H－71竈の造り替えとみられる。（貯蔵穴・柱穴）5基検出。P_1（貯蔵穴）（140×110×64cm）P_2（105×77×32cm）、P_3（66×54×13cm）、P_4（50×28×21.5cm）、P_5（27×24×12cm）。
（重複）H－66・71と重複し、構築順はH－66→H－71→本遺構である。（遺物）総数986点。土師坏1点・陶磁器片2点・土錘2点・鎌・鉄製紡錘車・鉄斧各1点・鉄器2点・鉄滓1点。（備考）周溝有り。H－71の主軸を真東に変え造り替えたものとみられる。出土遺物などから本住居址は9世紀前半と思われる。

H－63号住居址（D区、Fig. 30・54、PL. 6・7・13）
（形状）正方形。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置し張出部を有する。全長102cm、焚口部幅25cmを測る。（貯蔵穴・柱穴）4基検出。P_1（37×34×35cm）、P_2（65×54×38.5cm）、P_3（32×32×33.5cm）、P_4（貯蔵穴）（68×50×65.5cm）。（遺物）総数107点。土師坏5点・土師小甕1点・陶磁器片1点。（備考）周溝有り。出土遺物などから本住居址は5世紀末～6世紀初頭のものと思われる。

H－64号住居址（D区、Fig. 30・54、PL. 6・13）
（形状）正方形。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置し、全長72cm、焚口部幅25cmを測る。（柱穴）5基検出。P_1（31×31×41.5cm）、P_2（36×30×40cm）、P_3（42×36×42cm）、P_4

(80×70×40cm)、P₃(95×68×38.5cm)。(遺物)総数167点。土師坏2点・陶磁器片3点・釘3点。(備考)周溝有り。出土遺物などから本住居址は9世紀初頭と思われる。

H－65号住居址(D区、Fig. 31・54、PL. 13)

(形状)住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面)平坦で堅緻。(柱穴)3基検出。P₁(26×26×68.5cm)、P₂(26×19×62cm)、P₃(15×15×27cm)。(遺物)総数379点。土師高坏脚部1点・鉄器2点。(備考)周溝有り。間仕切り溝3条検出。床面に火災を受けた痕跡とみられる炭化物が多く認められる。出土遺物などから本住居址は6世紀後半と思われる。

H－66号住居址(D区、Fig. 29・54、PL. 6・13)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)南壁西寄りに位置し張出部を有する。全長76cm、焚口部幅35cmを測る。(柱穴)6基検出。P₁(33×30×19.5cm)、P₂(28×28×33cm)、P₃(76×54×67.5cm)、P₄(35×34×49cm)、P₅(62×48×24cm)、P₆(33×28×25cm)。(重複)H－62・71と重複し、構築順はH遺構→H－71→H－62である。(遺物)総数194点。土師甕1点・鉄器1点。(備考)周溝有り。出土遺物などから本住居址は6世紀中頃と思われる。

H－67号住居址(D区、Fig. 32・54)

(形状)方形を呈するとみられる。(床面)平坦で堅緻。(柱穴)8基検出。P₁(30×22×51.5cm)、P₂(38×28×24.5cm)、P₃(46×40×86cm)、P₄(38×30×21cm)、P₅(98×88×102.5cm)、P₆(30×25×25cm)、P₇(29×27×21.5cm)、P₈(30×23×19.5cm)。(重複)J－7・D－167と重複し、構築順はJ－7→本遺構→D－167である。(遺物)総数97点。土師甕1点。(備考)周溝有り。間仕切り溝7条検出。床面に火災を受けた痕跡とみられる炭化物が多く認められる。出土遺物などから本住居址は7世紀後半と思われる。

H－68号住居址(D区、Fig. 31・55、PL. 6・13)

(形状)正方形。(床面)平坦で堅緻。(竈)東壁南寄りに位置し、全長54cm、焚口部幅35cmを測る。(柱穴)8基検出。P₁(30×30×33.5cm)、P₂(37×33×20.5cm)、P₃(22×18×17.5cm)、P₄(62×46×18.5cm)、P₅(40×20×29.5cm)、P₆(34×32×23cm)、P₇(44×12×50cm)、P₈(30×25×50cm)。(重複)D－162と重複し、構築順は本遺構→D－162である。(遺物)総数82点。土師坏1点・陶磁器片1点。(備考)周溝有り。出土遺物などから本住居址は8世紀初頭と思われる。

H－69号住居址(D区、Fig. 33・55、PL. 7・13)

(形状)住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。(床面)平坦で堅緻。(竈)東壁ほぼ中央に位置するとみられ、全長76cm、焚口部幅29cmを測る。(柱穴)8基検出。P₁(52×50×31cm)、P₂(27×22×18.5cm)、P₃(30×26×20.5cm)、P₄(37×25×18cm)、P₅(78×66×37.5cm)、P₆(80×56×27cm)、P₇(90×72×33.5cm)、P₈(120×88×42cm)。

(遺物)総数105点。土師坏1点・須恵高台塊2点・刀子1点。(備考)出土遺物などから本住居址は9世紀中頃と思われる。

H－70号住居址（D区、Fig. 33・55、PL. 7・13）
（形状）住居北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁南寄りに位置するとみられ、全長70cm、焚口部幅45cmを測る。（柱穴）3基検出。P_1（34×34×34cm）、P_2（35×30×26cm）、P_3（70×35×24cm）。（遺物）総数1,574点。土師甕2点・須恵坏・須恵高台埦各2点・灰釉長頸壺・灰釉高台埦各1点・陶磁器片1点・鉄器1点・鉄滓1点。（備考）出土遺物などから本住居址は9世紀末と思われる。

H－71号住居址（D区、Fig. 29、PL. 7）
（形状）正方形。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置し、全長134cm、焚口部幅54cmを測る。（柱穴）1基検出。P_1（36×32×19cm）。（重複）H－62・66と重複し、構築順はH－66→本遺構→H－62である。（遺物）総数143点。墨書土器1点・紡錘車1点。（備考）出土遺物などから本住居址は9世紀初頭と思われる。

H－72号住居址（C区、Fig. 34）
（形状）住居東側が削平されており、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（重複）D－181と重複し、構築順は本遺構→D－181である。（遺物）総数52点。（備考）床直上から検出された遺物もなく、年代の特定は困難である。

H－73号住居址（E区、Fig. 34・55・56、PL. 8・14）
（形状）住居西及び北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置するとみられ、全長98cm、焚口部幅40cmを測る。（柱穴）4基検出。P_1（28×27×23cm）、P_2（40×32×18.5cm）、P_3（52×50×31cm）、P_4（23×20×27.5cm）。（遺物）総数63点。土師甕1点・土師質須恵盤・土師質須恵足高高台埦各1点・灰釉陶器片2点・鉄器1点・鉄滓3点。（備考）出土遺物などから本住居址は10世紀後半～末のものと思われる。

H－74号住居址（E区、Fig. 35・56、PL. 8・14）
（形状）住居南及び北側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁南寄りに位置するとみられ、全長112cm、焚口部幅26cmを測る。両袖に袖石、天井部・焚口中央部に支柱石、焚口内部に甕3基を検出。（柱穴）6基検出。P_1（24×22×48.5cm）P_2（21×17×10cm）、P_3（22×21×21cm）、P_4（26×(13)×59cm）P_5（22×21×11cm）、P_6（19×18×37.5cm）。（遺物）総数199点。土師坏・土師小型広口甕各1点・土師甕2点。なお、土師小型広口甕出土位置最寄脇から顔料塊を検出。大きさ・位置から同甕が容器であった可能性が高い。（備考）周溝有り。壁際に盛土跡が認められる。出土遺物などから本住居址は6世紀後半と思われる。

H－75号住居址（E区、Fig. 34）
（形状）住居南側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置するとみられ、全長62cm、焚口部幅10cmを測る。（柱穴）1基検出。P_1（184×(138)×41cm）。（遺物）総数147点。（備考）出土遺物などから本住居址は6世紀後半～7世紀前半のものと思われる。

H－76号住居址（E区、Fig. 36・56、PL. 8・14）
（形状）正方形。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁南寄りに位置し、全長90cm、焚口部幅50cmを測る。（柱穴）1基検出。P1（70×52×22cm）。（重複）H－81と重複し、構築順はH－81→本遺構である。（遺物）総数175点。須恵高台塊1点。（備考）出土遺物などから本住居址は10世紀初頭と思われる。

H－77号住居址（E区、Fig. 36・56、PL. 9・14・15・16）
（形状）住居南側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁南寄りに位置するとみられ、全長104cm、焚口部幅45cmを測る。（柱穴）3基検出。P1（55×52×16cm）、P2（140×110×35.5cm）、P3（148×115×15.5cm）。（重複）H－80と重複し、構築順はH－80→本遺構である。（遺物）総数658点。土師甕1点・須恵坏・須恵高台塊各1点・鉄滓1点。（備考）周溝有り。H－80の造り替えとみられる。出土遺物などから本住居址は9世紀後半と思われる。

H－78号住居址（E区、Fig. 37・56、PL. 15）
（形状）住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁南寄りに位置し、全長135cm、焚口部幅40cmを測る。（貯蔵穴・柱穴）2基検出。P1（貯蔵穴）（38×32×38cm）、P2（(28)×24×23cm）。（遺物）総数254点。土師坏・土師甕各1点。（備考）出土遺物などから本住居址は8世紀末頃と思われる。

H－79号住居址（E区、Fig. 37・56）
（形状）住居東及び西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（柱穴）3基検出。P1（33×25×38.5cm）、P2（28×20×16.5cm）、P3（34×23×29cm）。（遺物）総数46点。土師坏1点。（備考）周溝有り。床面に炭化物検出。出土遺物などから本住居址は6世紀頃のもの思われる。

H－80号住居址（E区、Fig. 38、PL. 9）
（形状）住居南側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁南寄りに位置するとみられ、全長72cm、焚口幅35cmを測る。（重複）H－77と重複し、構築順は本遺構→H－77である。（遺物）総数95点。（備考）南側に周溝有り。出土遺物などから本住居址は8世紀頃のものと思われる。

H－81号住居址（E区、Fig. 38・56、PL. 9・15）
（形状）長方形。（床面）平坦で堅緻。（竈）東壁ほぼ中央に位置し、全長80cm、焚口部幅34cmを測る。（柱穴）4基検出。P1（30×26×19cm）、P2（30×24×22cm）、P3（32×28×18.5cm）、P4（30×25×22cm）。（重複）H－76と重複し、構築順は本遺構→H－76である。（遺物）総数348点。陶磁器片2点・鉄器1点。（備考）壁内側周囲に盛土部分検出、壁材とみられる。出土遺物などから本住居址は9世紀後半と思われる。

H－82号住居址（E区、Fig. 39・56、PL. 9・15）
（形状）住居北東側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦

で竪緻。（竈）南西壁ほぼ中央に位置し、全長118cm、焚口部幅18cmを測る。（貯蔵穴・柱穴）3基検出。P1（72×62×44.5cm）、P2（68×42×69cm）、P3（貯蔵穴）（114×92×85cm）。

（重複）D－213と重複し、構築順はD－213→本遺構である。（遺物）総数242点。土師坏・土師小甕各1点。（備考）周溝有り。出土遺物などから本住居址は6世紀後半と思われる。

H－83号住居址（E区、Fig. 40、PL. 9）
（形状）住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で竪緻。（竈）東壁に位置し、全長33cm、焚口部幅14cmを測る。（柱穴）1基検出。P1（44×(23)×36cm）。（遺物）総数14点。（備考）床直上から検出された遺物もなく、年代特定は困難である。

H－84号住居址（E区、Fig. 40・56）
（形状）住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で竪緻。（竈）東壁南寄りに位置し、全長50cm、焚口部幅35cmを測る。両袖は認められず。（遺物）総数91点。（備考）出土遺物などから本住居址は6世紀後半と思われる。

H－85号住居址（E区、Fig. 40・57、PL. 9・15）
（形状）住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で竪緻。（竈）東壁南寄りに位置し、全長60cm、焚口部幅36cmを測る。（遺物）総数73点。土師坏1点。（備考）出土遺物などから本住居址は6世紀中頃と思われる。

H－86号住居址（E区、Fig. 40・57、PL. 9・15）
（形状）住居西側が調査区外であり、全形は不明であるが方形を呈するとみられる。（床面）平坦で竪緻。（竈）北北東壁に位置するが、西側が調査区外であり規模については不明。（柱穴）1基検出。P1（28×26×16.5cm）。（遺物）総数37点。土師坏1点・須恵鬚（5世紀後半～）1点。（備考）出土遺物などから本住居址は6世紀初頭と思われる。

2．土　　坑

D－87号土坑（B区、Fig. 49）
B区南側で検出。形状は円形を呈する。遺物総数16点。縄文土器片を出土。構築時期は不明。

D－104号土坑（B区、Fig. 49）
B区北側で検出。東側が調査区外であり全形は不明であるが、楕円形を呈するものとみられる。遺物総数14点。滑石製の玦状耳環を出土。構築時期は不明。

D－108号土坑（B区、Fig. 49）
B区北側で検出。形状は円形を呈し、1段下がって底部が楕円形となる。遺物総数27点。灰釉陶器・陶磁器片を出土。焼土が検出され、火葬墓の様相を呈する。出土遺物などから構築時期は9世紀末頃とみられる。

D－123号土坑（B区、Fig. 49、PL. 4・16）
B区南側で検出。東側が調査区外であり全形は不明であるが、楕円形を呈するとみられ1段下がって底部になる。遺物総数329点。ほぼ原形をとどめた注口土器（堀之内Ⅱ式・縄文前期）1点のほか、硬質頁岩・頁岩製の打製石斧2点、縄文土器片を出土。出土遺物などから構築時期は縄文時代前期とみられる。

D－124号土坑（B区、Fig. 57、PL. 15）
B区南側で検出。東側が調査区外であり全形は不明であるが、円形を呈するとみられ2段下がって底部になる。遺物総数78点。ほぼ完形の坏を含む土師器が多量に出土。出土遺物などから構築時期は8世紀中頃とみられる。

D－125号土坑（B区、Fig. 49）
B区北側で検出。形状は円形を呈する。遺物総数31点。灰釉陶器片を出土。出土遺物などから構築時期は10世紀後半とみられる。

D－126号土坑（B区、Fig. 57、PL. 15）
B区北側で検出。形状は円形を呈し、1段下がって底部になる。遺物総数10点。土師質須恵高台埦1点、鉄滓を出土。出土遺物などから構築時期は9世紀前半とみられる。

D－127号土坑（B区、Fig. 49）
B区北側で検出。形状は円形を呈し、1段下がって底部になる。遺物総数30点。縄文土器・灰釉陶器片、鉄滓を出土。構築時期は不明。

D－138号土坑（D区、Fig. 50）
D区北端で検出。形状は円形を呈する。遺物総数11点。焼土が多量に残り、焼土坑と思われる。出土遺物などから構築時期は6世紀代とみられる。

D－143号土坑（D区、Fig. 50）
D区北側で検出。形状は楕円形を呈する。遺物総数8点。出土遺物などから構築時期は縄文時代とみられる。

D－173号土坑（C区、Fig. 50、PL. 16）
C区中央南側で検出。形状は円形を呈する。遺物総数61点。縄文浅鉢1点、縄文土器片を出土。出土遺物などから構築時期は縄文時代とみられる。

D－193号土坑（E区、Fig. 42）
E区西側北端で検出。形状は円形を呈し、J－6と重複する。構築順はJ－6→本遺構である。遺物総数24点。硬質頁岩製の石鏃・打製石斧各1点のほか、縄文土器片、石器を出土。構築時期は不明。

D－199号土坑（E区、Fig. 51）
E区南側で検出。形状は円形を呈する。遺物総数4点。安山岩製の打製石斧を出土。構築時期は不明。

D－213号土坑（E区、Fig. 39）
E区西側で検出。形状は南北1.96m、東西1.9mの隅丸長方形を呈し、H－82と重複する。構築順は本遺構→H－82である。両遺構とも主軸が同方向であることなどから、H－82の構築直前に構築しかけた住居の放棄掘土坑であると思われる。遺物総数3点。時期は6世紀後半とみられる。

D－233号土坑（D区、Fig. 43）
D区北側で検出。形状は円形を呈し、J－7と重複する。構築順はJ－7→本遺構である。遺物総数46点。縄文土器片を出土。構築時期は不明。

3．溝　　址

W－1号溝址（A区、Fig. 51）
A区西側で検出。調査区を南北に走るが、南側は調査区外、北側でH－46と重複する。構築順はH－46→本遺構である。H－46の南壁を切り、住居内で途切れるものと思われる。断面は不整形である。遺物総数196点。縄文土器・灰釉陶器片出土。構築時期は不明。

W－2号溝址（B区、Fig. 51）
B区中央寄りで検出。調査区東側で二股に分岐し東西に走る。東・西側とも調査区外に続くとみられる。断面はU字形を呈する。遺物総数55点。4面に使用痕の認められる砥石を出土。構築時期は不明。

W－3号溝址（B区、Fig. 26、PL. 15）
B区北側で検出。調査区を東西に走るが、西側は調査区外、東側でH－58と重複する。構築順はH－58→本遺構である。断面はU字形を呈する。遺物総数116点。土師質のカワラケを出土。出土遺物などから構築時期は11世紀初頭とみられる。

W－4号溝址（B区、Fig. 48）
B区ほぼ中央で検出。調査区を東西に走るが、西側は調査区外、東側で工房址1・2と重複する。構築順は本遺構→工房址1・2である。断面はU字形を呈する。遺物総数23点。縄文土器・灰釉陶器片を出土。構築時期は不明。

W－5号溝址（E区、Fig. 51）
E区西側で検出。調査区を南北に走る。南・北側とも調査区外に続くとみられる。断面はU字形を呈する。構築時期は不明。

4．井　戸　址

Ⅰ－3号井戸址（C区、Fig. 51）

C区中央北寄りで検出。規模1.6×1.25m、深さは確認可能範囲で1.32mを測る。形状は隅丸長方形を呈しローム層を掘り込み構築されているが、一部にカクランが認められる。遺物総数118点。硬質頁岩・頁岩製の打製石斧3点、縄文土器片を出土。構築時期は不明。

5．工　房　址

位　置　X21～22，Y73

遺　構　西側に道路が南北に走り、さらに遺構北側にはW－4の溝状遺構が走り、その上、遺構上面の土層がかなり削られていたため、詳細は不明である。にもかかわらず、これを工房址と認定したのは、焼土の入った円形土坑が集中してみられたこと、焼土に混じって鉄滓の小片を伴うものが2～3あったことによる。即ち、周辺の遺跡から発見される鍛冶工房址床面を何回も掘り返して滓を埋め込むものが多い事例から想定したものである。

当然、これら焼土を含む土坑は、竪穴状に掘りくぼめた中の床面に鍛冶炉を地床炉という形で掘り、その周辺に廃棄穴を掘ることが推定される。しかし、ここでは既に上の面が削りとられていて、竪穴の範囲を確認することはできなかった。

土　坑　東西6m、南北4mほどの範囲に14個ほどの小土坑が群在する。土坑の規模は大型で長径150cm、短径100cm、深さ30～40cm、小型で70cm×80cm、深さ30～40cmである。これらの埋土はロームブロックを多量に含むことから、意図的に埋められたことが確実である。

これらの中には重複して掘り込まれたものもあり、やや長期にわたって機能していたことが推察される。この土坑群が1つの竪穴状の範囲におさまるか、2つに分かれるかは、上面での確認が不確実であるため即断できないが、西に寄った部分に炉状の痕跡が認められることからすると2つに分かれることも考えられる。

重複関係　東側に竪穴住居H－53・55・56が検出されているが、特に土坑はH－56号住居の中までのびている。前後関係からみるとH－56号住居の床面が上にのる状況が明らかで、工房址が先行する。

時　期　H－56号住居の時期は10世紀後半で、工房址の土坑中から出土した皿状の土器は9世紀後半の須恵器であるので時期的な齟齬はない。

6．掘立柱遺構

B－1・2・3号

位　置　B区　X23～24，Y66～67

遺　構　全体的に柱穴状のピットがたくさん検出されたが、明らかに掘立柱建物とするには、

根拠が薄弱なものが多い。ここでは、とりあえず直線上にのる掘り方の類似するものをB－1～3号まで取り上げたが、それらを整理すると次のようである。

	柱間数	柱間寸法	径（cm）	深さ（cm）	主軸方位	備　考
B－1	2	280cm（140+140）	20 ～ 30	35 ～ 50	N－56°－W	
2	2	390cm（160+230）	30 ～ 50	75 内 外	N－67°－W	中央重複
3	2	620cm（310+310）	15 ～ 40	35 ～ 60	N－27°－E	穴がふぞろい

以上のB－1～3号については、積極的に掘立柱建物を想定することはできない。特にB－3号はピットの不整一さから考えにくい。B－1・2号については掘り方がしっかりしており、形状にもやや統一性がみられるから多少確度は高まるかもしれない。あえて可能性をいえば、B－2号の掘り方、形状などの共通性から、建物又は棚列状のものを想定してよいかもしれない。

時　期　各遺構とも積極的に時期を特定する出土遺物はないが、遺構（柱穴）の掘り方が小型・円形であること、規模の統一性に欠けること、方向がH－52・55・56号住居などと近似すること等から、10世紀頃のものと判断される。

B－4号

位　置　D区　X－81～83，Y－39～40

遺　構　H－61号住居（7世紀初頭）の上に重なる状態で検出された掘立柱建物で、規模もほぼ類似する。西・南側柱列が壁外にあるため比較的明瞭であるので、それを規準に柱間、ならびを考えることにする。

まず南側列のピットは4本、西側列にも同数で直交する角度をもつ。主軸方位はN－2°－E、各柱間は西側列600cm（南より180＋210＋210）、南側列710cm（西より250＋250＋210）の数値が得られた。これでみると、南・東側柱列がやや狭くなる傾向を指摘できる。しかし、他の部分は他遺構と重複するところから不明確であるが、西側列210cm等間2間、南側列250cm等間2間の身舎に南・東に庇をもつ二面庇建物とみることが妥当と考えられる。

また、柱穴の掘り方からみて、長方形気味の隅丸方形の掘り方の中に柱痕をもつ形の比較的古い形を残している。

時　期　奈良時代後半頃のものとみられる。

B－5号

位　置　E区　X－86～87，Y－22～23

遺　構　南北にのびる台地の東縁辺部に掘立柱建物の東側柱列とその西の2柱穴を検出したが、他は区域外のため未調査。東西棟、主軸方位はN－10°－E、柱穴掘り方は円形中型で、径は90cm、深さ60cm内外と一定している。現在検出されている柱穴の柱間はすべて200cmで等間である。比較的整った大型掘立柱建物の可能性がある。

時　期　周辺の竪穴住居との位置関係、柱穴からの出土遺物からみて、9世紀後半頃のものとみられる。

B－6号

位　置　E区　X－86～87，Y－27～28

遺　構　小型円形柱穴、2×3間の南北棟である。柱穴の規模は径50cm、深さ40cm内外で一定している。柱間寸法は東側柱列（桁行720cm（260＋210＋260））、北側柱列（梁行360cm（180＋180））。台地の東側からの方向を意識した中央の柱間を狭くとった間取りである。

時　期　柱穴のつくり、規模、出土遺物からみて平安期（9世紀後半）頃のものと考えられる。

B－7号

位　置　E区　X－86～87，Y－27～28

遺　構　B－6号と重複する遺構で、東西棟、径30cm、深さ30cmの小規模な柱穴で東側柱3、北側柱2の柱穴を検出したが、直交させるのに難があり、柱間も180・160・210cmとまちまちであるので掘立柱建物ではない可能性もある。

時　期　柱穴の掘り方が小規模で浅く、時期的には10世紀頃のものか。

B－8号

位　置　E区　X－86～87，Y－27～28

遺　構　B－6号と重複する遺構で、南北2間・東西1間を検出したが、B－7号同様な規模と柱穴配置の傾向が指摘される。南北2間420cm（210等間）、東西間260cmである。

時　期　建物とすれば10世紀後半頃のものとみられる。

B－9号

位　置　E区　X－81，Y－11

遺　構　東西方向2間、南北方向2間分の柱穴を検出した。建物として成り立つか否かは疑問。径30cm弱、深さ30cm内外の円形の掘り方をもつ。各柱穴間の寸法も100・130・90cmとまちまちである。

時　期　建物とすれば平安後期のものか。

Tab. 1　鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡遺構一覧表

住居址一覧表

遺構名(調査区)	位置	規模(cm)東西×南北	面積(㎡)・壁高(cm)		主軸方向	竈	備考	時期	Fig.
J−3 (B)	X22~23, Y64~65	321 × 390	10.42	32.5	N−17°−E	——	中央部北西寄りに焼土範囲。周囲に6基の柱穴。	縄文後期	41
J−4 (C)	X57, Y49~50	(137)× 357	(4.54)	38.5	N−12°−W	——	北西隅寄りに柱穴1基。床面・壁面残存一部。	縄文時代	41
J−5 (E)	X88~89, Y2~3	(354)×(226)	(5.60)	20.5	N-101°-E	——	東隅付近に柱穴1基。	縄文中期	42
J−6 (E)	X83~84, Y1~2	(348)×(450)	(12.29)	21.0	N−10°−E	——	D−193と重複。中央部に石組みの炉址。石鏃出土。柱穴2基。	縄文中期	42
J−7 (D)	X79~80, Y39~40	335 ×(300)	(10.14)	29.0	N-119°-E	——	D−233と重複。中央部~東西寄り・南東隅・南辺・北辺寄り等に柱穴10基。	縄文前期	43
J−8 (D)	X78~79, Y38~40	340 ×(248)	(7.40)	16.5	N-132°-E	——	北東隅~北辺・東辺隅に柱穴6基。	縄文前期	43
H−43 (A)	X31~32, Y111	(238)×(125)	(2.65)	20.0	N−91°−E	東辺南寄	H−46、51と重複。床面残存一部。	8 C 後	20
H−44 (A)	X33~34, Y111~112	(286)×(344)	(8.68)	16.0	N-123°-E	東辺中央	H−50、51と重複。東南隅に貯蔵穴・中央部に床下土坑各1基。	9 C 中	20
H−45 (B)	X20~21, Y78~79	341 × 434	13.12	45.5	N−91°−E	東辺中央	周溝。H−57と重複。東南・北西・中央付近に柱穴3基。	8C末~9C初	21
H−46 (A)	X31~32, Y111	474 ×(267)	(8.67)	38.0	N−73°−E	——	周溝。H−43、W−1と重複。南辺両隅及び中央部東西辺寄りに柱穴4基。	7C末~8C初	20
H−47 (A)	X37~38, Y112~113	(106)× 385	(3.50)	18.0	N−10°−E	——		不明	21
H−48 (A)	X35~36, Y111~112	434 ×(435)	(13.37)	53.0	N−66°−E	東辺南寄	周溝。竈南に一部カクラン。東辺竈南隅に貯蔵穴1基。北辺西隅に柱穴2基。	8C末~9C初	22
H−49 (A)	X30~31, Y111	433 ×(278)	(8.72)	31.0	N−70°−E	——	東南隅及び中央付近東西辺寄りに柱穴3基。	8 C 初	22
H−50 (A)	X33~34, Y111~112	396 × 452	15.58	27.0	N−93°−E	東辺中央	周溝。H−44、51と重複。東南隅から西辺寄りに柱穴5基。床下土坑1基。	8C末~9C初	23
H−51 (A)	X32~33, Y111~112	(631)×(483)	(28.21)	18.0	N-124°-E	——	H−43,44,50と重複。中央部に炉。間仕切溝2条(ベッド状遺構)。柱穴8基。	4 C 中	24
H−52 (B)	X21~22, Y64	(275)× 293	(7.08)	18.0	N-100°-E	東辺南寄	北東隅及び北辺寄りに柱穴2基。	9 C 前	23
H−53 (B)	X22~23, Y72~73	(305)× 385	(9.16)	26.0	N−85°−E	——	周溝。H−56と重複。南辺中央部寄りに柱穴1基。須恵耳皿出土。	9 C 後	25
H−54 (D)	X77~78, Y48~49	337 × 375	11.22	70.0	N-108°-E	東辺中央	周溝。西辺北寄りに床下土坑1基。床面に住居拡張の痕跡と見られる旧周溝。墨書土器出土。	8C末~9C前	25
H−55 (B)	X22~23, Y73~74	(95)× 370	(2.88)	17.0	N−5°−E	——	北西及び南西隅に柱穴2基。	10 C 後	26
H−56 (B)	X22~23, Y72~73	335 × 477	14.69	17.0	N−93°−E	東辺中央	南側に周溝。中央部に床下土坑1基。工房址1・2、H−53と重複。墨書土器出土。	10 C 後	25
H−57 (B)	X20~21, Y79~80	(167)×(384)	(5.14)	14.0	N−75°−E	東辺南寄	H−45と重複。床面残存一部。北辺寄りに柱穴1基。	8 C 前	26
H−58 (B)	X23, Y67~68	(110)×(375)	(3.52)	20.0	N−10°−E	——	W−3と重複。	11 C 初	26
H−59 (B)	X21~22, Y67~68	280 × 300	8.92	22.0	N-105°-E	東辺中央	周溝。D−129、136と重複。北辺及び南辺寄中央部に柱穴2基。	9 C 後	27
H−60 (D)	X78~80, Y46~47	398 × 414	15.35	38.0	N-100°-E	東辺中央	周溝。壁面隅及び周囲に柱穴8基。	9 C 後	27
H−61 (D)	X82~83, Y38~40	680 × 660	42.83	37.0	N−91°−W	西辺南寄	周溝。間仕切溝9条。南辺中央部に馬蹄形入口。南西隅に方形の貯蔵穴1基。柱穴10基。	6C末~7C初	28
H−62 (D)	X78~79, Y44~45	387 × 470	17.09	49.0	N−99°−E	東辺南寄	周溝。H−66、71と重複。71の造り替えか? 南東隅に貯蔵穴1基。柱穴4基。	9 C 前	29
H−63 (D)	X80~81, Y42~43	414 × 392	15.22	29.5	N−97°−E	東辺中央	周溝。南東隅に貯蔵穴1基。南西隅・中央付近東西寄りに柱穴3基。外面口縁土師坏出土。	5C末~6C初	30
H−64 (D)	X81~82, Y41	495 × 492	12.70	25.0	N−88°−E	東辺中央	周溝。北東・南西隅、南辺中央部に柱穴5基。	9 C 初	30
H−65 (D)	X77~78, Y39~41	(507)× 785	(29.14)	26.0	N−7°−W	——	周溝。間仕切溝3条。北東・南東隅寄りに柱穴3基。火災の痕跡と見られる炭化物あり。	6 C 後	31
H−66 (D)	X77~78, Y43~45	484 × 460	14.71	43.0	N-174°-W	南辺西寄	周溝。H−62、71と重複。中央部・南辺中央等に柱穴6基。	6 C 中	29
H−67 (D)	X80~81, Y38~40	577 ×(606)	(32.29)	14.0	N−15°−E	——	周溝。J−7、D−187と重複。間仕切溝7条。柱穴8基。床面に炭化物。火災住居か?	7 C 後	32
H−68 (D)	X81~82, Y37~38	370 × 380	13.28	17.0	N-107°-E	東辺南寄	周溝。D−162と重複。四方隅・南辺中央等に柱穴8基。	8 C 初	31
H−69 (D)	X83~84, Y35~36	372 ×(322)	(11.45)	2.5	N−93°−E	東辺中央	中央付近・南東隅・南辺南西寄り等に柱穴8基。	9 C 中	33
H−70 (D)	X86~87, Y35	350 ×(375)	(10.64)	30.5	N−99°−E	東辺南寄	南西・南東隅・北辺中央寄りに柱穴3基。灰釉長頸壺出土。	9 C 末	33
H−71 (D)	X78~79, Y44	330 × 304	9.16	32.5	N−97°−E	東辺中央	H−62、66と重複。主軸を真東に変え62に造り替えか? 北西隅に柱穴1基。墨書土器。	9 C 初	29
H−72 (C)	X56, Y49~50	(98)× 318	(2.92)	28.0	N−1°−W	——	D−181と重複。床面・壁面残存一部。	不明	34
H−73 (E)	X72, Y1~2	(197)×(228)	(3.60)	26.5	N−87°−E	東辺中央	北東・南東隅・南辺外側等に柱穴4基。土師質須恵盤・土師質須恵足高高台碗出土。	10 C 後~末	34
H−74 (E)	X73~74, Y1~2	(502)×(375)	(17.26)	39.0	N−82°−E	東辺南寄	周溝。竈両袖に礫。天井部に支柱石。周囲に盛土部。四方及びその延長上に柱穴6基。	6 C 後	35
H−75 (E)	X86~87, Y3	345 ×(294)	(8.97)	9.5	N−96°−E	東辺中央	南東隅寄りに柱穴1基。	6C後~7C前	34
H−76 (E)	X92~93, Y3~4	275 × 290	7.19	45.5	N−70°−E	東辺南寄	H−81と重複。南東隅に柱穴1基。	10 C 初	36
H−77 (E)	X89~90, Y3~4	420 × 426	14.43	55.0	N−77°−E	東辺南寄	周溝。H−80と重複。80の造り替えか? 中央北辺寄り・北東・南東隅に柱穴3基。	9 C 後	36
H−78 (E)	X90~91, Y4~5	(136)× 445	(4.62)	56.0	N−69°−E	東辺南寄	南東隅~南辺に柱穴2基。うち1基は貯蔵穴。	8 C 末	37
H−79 (E)	X83~84, Y0~1	(504)×(472)	(15.68)	23.0	N−76°−E	——	周溝。炭化物あり。西辺中央付近に柱穴3基。	6 C	37
H−80 (E)	X89~90, Y3~4	332 × 415	12.07	43.0	N−78°−E	東辺南寄	南側に周溝。H−77と重複。77に造り替えか?	8 C	38
H−81 (E)	X91~92, Y4~5	454 × 380	14.50	48.5	N−78°−E	東辺中央	H−76と重複。壁内側周囲の盛土部分は壁材か? 四方隅に柱穴4基。	9 C 後	38
H−82 (E)	X83~84, Y1~2	(510)× 606	(23.82)	56.0	N−54°−W	南西中央	周溝。D−213と重複。南隅に貯蔵穴1基。南・西隅付近に柱穴2基。	6 C 後	39
H−83 (E)	X90, Y19~20	(72)×(217)	(0.77)	24.0	N−78°−E	東辺	南東隅に柱穴1基。	不明	40
H−84 (E)	X89, Y24	(154)× 282	(3.70)	25.0	N−92°−E	東辺南寄	竈袖なし。	6 C 後	40
H−85 (E)	X89, Y27~28	(126)× 336	(3.44)	39.0	N−96°−E	東辺南寄		6 C 中	40
H−86 (E)	X90, Y14~15	(196)×(297)	(3.08)	24.5	N−33°−E	北北東辺	東隅に柱穴1基。須恵器出土。	6 C 初	40

土坑一覧表

遺構名(調査区)	位置	規模(m)	深さ(cm)	形状	重複・備考	時期	Fig.
D－87 (B)	X20～21, Y77	1.18 × 1.06	87.5	円形			49
D－93 (B)	X21, Y74～75	0.60 × 0.58	26.5	円形			49
D－96 (B)	X20～21, Y74	0.82 × 0.80	43.0	円形			49
D－97 (B)	X23, Y72	0.57 × 0.52	34.0	円形			49
D－101 (B)	X23, Y68	1.35 × 1.18	32.0	円形			49
D－102 (B)	X23, Y67	0.40 × 0.35	23.0	円形			49
D－104 (B)	X23～24, Y66～67	(1.57)× 1.36	31.0	楕円形	滑石製の玦状耳環出土。		49
D－107 (B)	X22, Y66	0.56 × 0.45	43.0	楕円形			49
D－108 (B)	X22, Y66	1.85 × 1.72	88.5	円形	焼土検出。火葬墓の様相を呈する。	9 C 末	49
D－109 (B)	X23, Y66	0.57 × 0.44	36.0	楕円形			49
D－110 (B)	X22～23, Y67	0.43 × 0.39	86.0	円形			49
D－111 (B)	X23, Y65～66	1.61 × 0.85	19.0	楕円形			49
D－112 (B)	X23, Y67	0.57 × 0.49	49.0	円形			49
D－113 (B)	X23, Y66	0.47 × 0.44	22.0	円形			49
D－115 (B)	X23, Y66	0.39 × 0.33	47.0	円形			49
D－116 (B)	X23, Y66	0.35 × 0.30	28.0	円形			49
D－117 (B)	X23, Y66	0.32 × 0.27	51.0	円形			49
D－118 (B)	X22, Y67	0.45 × 0.42	64.5	円形			49
D－120 (B)	X22, Y67	0.35 × 0.32	23.5	円形			49
D－123 (B)	X22, Y75～76	(1.27)×(1.00)	67.0	(楕円形)	(掘立内式Ⅱ) 注口土器、打製石斧出土。	縄文前期	49
D－124 (B)	X21～22, Y79～80	(3.02)×(1.46)	90.0	(円形)	土師器等多量に出土。	8 C 中	57
D－125 (B)	X23, Y67	0.51 × 0.42	68.0	円形		10 C 後	49
D－126 (B)	X22, Y66～67	0.42 × 0.36	44.0	円形		9 C 前	57
D－127 (B)	X22, Y67	0.34 × 0.32	24.0	円形			49
D－128 (B)	X22, Y67	0.41 × 0.36	43.0	円形			49
D－129 (B)	X22, Y68	1.65 × 0.98	50.0	隅丸長方形	H－59		49
D－130 (B)	X23, Y67	0.36 × 0.27	16.0	円形			49
D－131 (B)	X23, Y67	0.40 × 0.34	17.0	円形			49
D－132 (B)	X23, Y67	0.46 × 0.38	20.0	円形			50
D－133 (B)	X23, Y67	0.32 × 0.29	10.0	円形			50
D－134 (B)	X23, Y68	0.27 × 0.21	16.0	円形			50
D－136 (B)	X22, Y68	0.56 × 0.53	24.5	円形	H－59		50
D－137 (B)	X21, Y66	0.36 × 0.29	28.0	円形			50
D－138 (D)	X81, Y36	1.16 × 1.13	8.0	円形	焼土坑	6 C	50
D－139 (D)	X82, Y35～36	0.60 × 0.55	18.0	円形			50
D－140 (D)	X84, Y36	0.41 × 0.54	9.5	円形			33
D－141 (D)	X82～83, Y36	1.70 ×(1.42)	40.0	円形			50
D－142 (D)	X82, Y37	1.60 × 1.40	49.0	円形			50
D－143 (D)	X80～81, Y37～38	0.77 × 0.55	56.0	楕円形		縄文	50
D－144 (D)	X83, Y38	1.06 × 0.86	42.0	楕円形	H－61		50
D－145 (D)	X83～84, Y39～40	1.32 × 1.00	59.0	楕円形	中に小穴が2つあく。		50
D－146 (D)	X83, Y40	1.42 × 1.26	34.0	円形			50
D－148 (D)	X83, Y40～41	1.58 × 1.40	39.5	円形			50
D－149 (D)	X82, Y38	0.92 × 0.64	33.0	楕円形	D－162		50
D－154 (D)	X82, Y40	1.38 × 1.28	25.5	円形			50
D－158 (D)	X83, Y39	1.43 ×(1.35)	25.0	円形	H－61		28
D－160 (D)	X83, Y38	0.60 × 0.56	23.5	円形	H－61		50
D－161 (D)	X82～83, Y38	1.16 × 7.6	31.0	楕円形	H－61		50
D－162 (D)	X82, Y38	1.32 × 0.87	31.0	楕円形	H－68, D－149		50
D－164 (D)	X77, Y43	1.44 × 1.25	34.5	円形			50
D－165 (D)	X81, Y39～40	1.88 × 1.66	25.5	円形			50
D－167 (D)	X80～81, Y39	1.66 × 1.35	26.0	円形	H－67		32
D－169 (D)	X83～84, Y39	1.21 × 0.68	29.0	楕円形			50
D－170 (D)	X75, Y48	0.55 × 0.48	33.5	円形			50
D－171 (D)	X77, Y47	0.48 × 0.45	36.5	円形			50
D－172 (D)	X79, Y45	0.37 × 0.35	30.0	円形			50
D－173 (C)	X56, Y48	1.23 × 1.07	51.5	円形	縄文浅鉢出土。	縄文	50
D－175 (D)	X82, Y42	0.77 × 0.63	68.0	楕円形			50
D－181 (E)	X96, Y50	0.87 × 0.53	24.0	楕円形	H－72		34
D－182 (E)	X80, Y1～2	1.07 × 0.85	53.5	円形			50
D－184 (E)	X80, Y1	0.26 × 0.24	41.0	円形			50
D－190 (E)	X81, Y1～2	1.18 × 1.12	37.9	円形			51

遺構名(調査区)	位　置	規　模(m)	深さ(cm)	形　状	重　複・備　考	時　期	Fig.
D－191 (E)	X81, Y 2	0.44 × 0.43	36.0	円　形			51
D－192 (E)	X87～88, Y 3	2.13 × 1.87	102.0	円　形			51
D－193 (E)	X83, Y 1 ～ 2	1.62 × 1.43	44.5	円　形	J－6・石鏃、打製石斧出土。		42
D－195 (E)	X90, Y22	0.40 × 0.38	49.0	円　形			51
D－196 (E)	X91, Y22	0.62 × 0.46	32.0	楕 円 形			51
D－198 (E)	X90, Y23	0.83 × 0.78	56.5	円　形			57
D－199 (E)	X90, Y23	0.68 × 0.65	50.0	円　形	打製石斧出土。		51
D－201 (E)	X90, Y25	0.51 × 0.45	53.0	円　形			51
D－202 (E)	X89～90, Y25	0.55 × 0.48	46.0	円　形			51
D－203 (E)	X89, Y25	0.54 × 0.50	36.5	円　形			51
D－207 (E)	X90, Y27	0.30 × 0.28	36.0	円　形			51
D－208 (E)	X90, Y27	0.48 × 0.44	42.0	円　形			51
D－213 (E)	X84～85, Y 2	1.96 × 1.90	81.0	隅丸長方形	H－82・構築しかけた住居の放棄埋土坑か。	6 C 後	39
D－224 (E)	X89, Y27	0.41 × 0.40	38.5	円　形			51
D－225 (E)	X91, Y 4	0.37 × 0.35	33.5	円　形			51
D－227 (E)	X91, Y 3	0.62 × 0.42	40.0	楕 円 形			51
D－228 (E)	X91, Y 3	0.47 × 0.40	38.0	円　形			51
D－229 (E)	X91, Y 3	0.32 × 0.28	25.0	円　形			51
D－230 (E)	X91, Y 3	0.41 × 0.39	36.0	円　形			51
D－231 (E)	X91, Y 3	0.33 × 0.28	50.0	円　形			51
D－233 (D)	X79, Y39	1.34 × 1.08	88.5	円　形	J－7		51
D－236 (D)	X82, Y40	0.48 × 0.75	35.0	円　形	H－61		51

溝址一覧表

遺構名(調査区)	位　置	方　位	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	長さ(m)	備　考	時　期	Fig.
W－1 (A)	X31～32, Y111～112	N－86°-E	1.2～1.7	1.0～0.4	0.62	2.4	H－46と重複。	不　明	51
W－2 (B)	X20～23, Y68～71	N－72°-W	0.6～1.5	0.2～0.8	0.31	23.4	砥石出土。	不　明	51
W－3 (B)	X21～23, Y67～68	N－74°-W	1.0～1.1	0.5～0.7	0.29	9.9	H－58と重複。	11C初	26
W－4 (B)	X20～22, Y72～73	N－89°-W	0.6～1.1	0.3～0.8	0.28	6.0	工房址1・2と重複。	不　明	48
W－5 (E)	X79, Y 0 ～ 2	N-170°-W	0.8～1.3	0.4～0.9	0.31	4.2		不　明	51

井戸址一覧表

遺構名(調査区)	位　置	規　模(m)	深さ(cm)	形　状	備　考	時　期	Fig.
I－3 (C)	X46, Y56～58	1.60 × 1.25	1.32	隅丸長方形	一部カクラン。打製石斧出土。	不　明	51

Tab. 2 土　器　観　察　表

番号	出土位置	器形	大きさ(cm) 口径	大きさ(cm) 器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成・整形方法 口縁・胴部	成・整形方法 底部	備考	Fig.
1	H－43	土師坏	11.0	2.9	①中粒②良好③橙④1/4	外傾。横撫で。箆削り。	箆削り。	内外面にタール状の煤付着。雲母。	52
2	H－44	土師坏	12.0	3.3	①細粒②良好③橙④2/3	外反。横撫で。箆削り。	箆削り。	乾燥段階でひび割れになる。雲母。石英。	52
3	H－44	土師坏	12.0	3.1	①中粒②良好③にぶい橙④2/3	外傾。横撫で。箆削り。	箆削り。	内面にタール状の煤。雲母。石英。	52
4	H－45	須恵高台埦	(67.2)	7.6	①細粒②良好③灰白④1/3	外反。轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。		52
5	H－46	土師坏	10.2	3.2	①中粒②良好③橙④2/3	内湾。横撫で。箆削り。	箆削り。	雲母。石英。	52
6	H－46	須恵坏	10.8	3.4	①中粒②良好③灰④完形	外傾。轆轤撫で調整。	箆起こし。	口縁部から胴部にかけて歪み有り。	52
7	H－46	土師甑	22.4	14.1	①中粒②良好③にぶい黄橙④4/5	外反。横撫で。箆削り。	不明。	底部穿孔一穴。雲母。石英。	52
8	H－46	土師甕	23.0	34.2	①細粒②良好③黄橙④5/6	外反。横撫で。箆削り。	————	口縁部に最大径を持つ。雲母。石英。	52
9	H－46	土師甕	23.6	36.9	①細粒②良好③明黄褐④4/5	外反。撫で。たたき後箆削り。	箆削り。	口縁部に最大径を持つ。雲母。	52
10	H－48	土師坏	13.0	(3.5)	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外傾。横撫で。箆削り。	————	雲母。石英。	52
11	H－48	土師甕	(25.0)	(30.7)	①細粒②極良③明赤褐④1/2	外傾。横撫で。箆磨き。	————	胴部に最大径を持つ。雲母。	52
12	H－49	土師坏	10.3	3.1	①中粒②良好③橙④1/2強	直立。横撫で。箆削り。	箆削り。	雲母。石英。長石。	52
13	H－50	土師坏	11.8	3.3	①中粒②良好③にぶい橙④2/3	外傾。撫で。箆削り。	箆削り。	雲母。	52
14	H－50	土師坏	11.6	3.5	①中粒②良好③橙④2/3	外傾。横撫でによる弱い稜。箆削り。	箆削り。	雲母。石英。	52
15	H－50	須恵坏	11.7	4.2	①細粒②良好③灰④ほぼ完形	外反。轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。	雲母。石英。	52
16	H－50	須恵高台埦	(16.2)	7.1	①中粒②良好③オリーブ灰④1/2	外反。轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。	高台貼着部丁寧な仕上げ。雲母。	52
17	H－51	坩	(9.6)	9.7	①細粒②良好③にぶい黄橙④2/3	外傾。横撫で。丁寧な箆磨き。	箆削り。中央部に窪み。	雲母。	52
18	H－51	土師甕	16.2	17.5	①細粒②良好③にぶい赤褐④1/3	外反。横撫で。丁寧な箆磨き。	————	頸部に磨きとタール状の煤。雲母。石英。	52
19	H－51	土師高坏	(19.0)	(6.1)	①細粒②極良③にぶい黄橙④1/3	外反。撫で。刷毛目調整。	————	内面に刷毛目調整後暗文を施す。	53
20	H－52	土師坏	11.2	3.1	①中粒②良好③橙④1/2	やや直立。横撫で。箆削り。	箆削り。	雲母。	53
21	H－52	須恵蓋	(12.2)	2.7	①細粒②良好③オリーブ灰④1/3	轆轤撫で調整。つまみは細い輪状。		反りは弱い三角形を呈する。	53
22	H－52	須恵坏	(11.2)	4.1	①細粒②良好③オリーブ灰④2/3	轆轤撫で調整。	箆起こし。		53
23	H－53	土師質須恵高台埦	11.0	4.1	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外傾。轆轤撫で調整。	回転糸切撫で調整。高台後付け。	雲母。石英。	53
24	H－53	須恵耳皿	(9.6)	(2.1)	①細粒②良好③にぶい黄橙④1/2	轆轤撫で調整。	撫で調整。	雲母。石英。底部穿孔。	53
25	H－54	土師坏	11.5	3.6	①中粒②良好③にぶい橙④2/3	外傾。横撫で。箆削り。	箆削り。	雲母。石英。	53
26	H－54	土師坏	11.2	3.1	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外傾。横撫で。箆削り。	箆削り後指頭痕。	底部に指頭痕を有す。雲母。石英。	53
27	H－54	土師坏	12.0	(3.2)	①中粒②良好③にぶい橙④1/2	外傾。横撫で。箆削り。	————	墨書土器。胴部に「万」の字。石英。長石。	53
28	H－54	須恵皿	12.8	3.3	①中粒②良好③灰黄④1/2	轆轤撫で調整。	高台後付け。	石英。	53
29	H－54	須恵坏	12.9	3.6	①中粒②良好③灰白④完形	轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。	雲母。	53
30	H－54	須恵坏	12.4	4.0	①中粒②良好③にぶい黄橙④2/3	外傾。轆轤撫で調整。	回転糸切。弱い撫で。	墨書土器。胴部「万」の字。内面黒別磨き	53
31	H－54	須恵皿	14.0	3.4	①細粒②良好③明緑灰④2/3	轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。	雲母。石英。	53
32	H－54	須恵坏	12.8	3.3	①細粒②良好③灰④2/3	轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。		53
33	H－54	須恵坏	12.6	3.6	①細粒②良好③灰白④ほぼ完形	轆轤横撫で調整。	回転糸切り後撫で。	石英。	53
34	H－56	土師質須恵高台埦	11.4	4.4	①中粒②良好③にぶい橙④2/3	撫で外反。撫で調整。	箆削り。高台後付け。	胴部に「上」の字。雲母。石英。	53
35	H－56	灰釉高台埦	14.6	4.4	①細粒②良好③灰白④ほぼ完形	轆轤横撫で調整。	削り出し高台。	釉薬ドブづけ。	53
36	H－57	土師甕	(19.0)	(12.5)	①中粒②良好③にぶい褐④1/6	外反。横撫で。箆削り。	————	口縁部に一条の沈線。頸部に指頭痕。雲母。石英。	53
37	H－59	土師質須恵高台埦	(11.8)	4.6	①中粒②良好③明赤褐④1/2	外反。撫で。箆削り。	回転糸切未調整。高台後付け。	雲母。石英。	54
38	H－60	土師坏	—	—	①細粒②良好③明赤褐④口縁胴部	外反。撫で。箆削り。	————	墨書土器。「万」の字か。雲母。石英。	54
39	H－60	土師坏	—	—	①細粒②良好③にぶい橙④口縁胴部	外反。撫で。箆削り。	————	墨書土器。判読不能。雲母。	54
40	H－60	土師坏	—	—	①細粒②良好③にぶい橙④口縁胴部	外反。撫で。箆削り。	————	墨書土器。判読不能。雲母。石英。	54
41	H－61	土師坏	11.6	4.1	①中粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	撫で。箆削り。	箆削り。	内面に箆磨き。雲母。	54
42	H－61	土師坏	11.4	5.1	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	撫で。弱い稜線。箆削り。	箆削り。	雲母。	54
43	H－61	土師甕	18.8	34.7	①中粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	外反。横撫で。箆削り。	箆削り。	胴部に最大径をもつ。雲母。石英。	54
44	H－61	土師甕	(19.0)	36.1	①粗粒②良好③にぶい橙④1/2	外反。撫で。箆削り。	箆削り。	胴部に最大径をもつ。雲母。石英。	54
45	H－62	土師坏	11.8	30.0	①細粒②良好③橙④完形	外傾。横撫で。箆削り。	箆削り。	雲母。石英。	54
46	H－63	土師坏	12.4	4.7	①細粒②良好③にぶい黄橙④完形	外反。撫で。箆削り。	箆削り。	口唇部鋭く整形。雲母。	54
47	H－63	土師坏	13.0	5.1	①細粒②良好③にぶい黄橙④完形	口唇部鋭く外反。箆削り。	箆削り。	口唇部鋭く整形。雲母。	54
48	H－63	土師坏	10.4	4.6	①細粒②良好③橙④完形	直立。撫で。稜線。箆削り。	箆削り。	内面にタール状の煤。雲母。	54
49	H－63	土師坏	11.6	5.0	①細粒②良好③橙④4/5	直立。撫で。稜線。箆削り。	箆削り。	口唇部に一条の沈線。	54
50	H－63	土師坏	13.2	6.3	①細粒②良好③橙④2/3	直立。撫で。稜線。箆削り。	箆削り。	内面箆磨き。雲母。	54

番号	出土位置	器形	大きさ(cm) 口径	器高	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	成・整形方法 口縁・胴部	底部	備考	Fig.
51	H－63	土師小甕	12.6	11.0	①中粒②良好③淡黄④ほぼ完形	横撫で。たたき後篦削り。	篦削り。	底部に異体字。雲母。	54
52	H－64	土師坏	12.4	3.1	①中粒②良好③橙④ほぼ完形	外反。横撫で。篦削り。	篦削り。	墨書土器。「髙」の異体字か。雲母。石英。	54
53	H－64	土師坏	12.8	3.2	①中粒②不良③にぶい橙④ほぼ完形	外反。撫で。削り。	篦削り。	胴部に指頭痕。雲母。石英。	54
54	H－65	土師高坏脚部	—	(4.3)	①中粒②良好③にぶい橙④脚部		脚部撫で。	雲母。石英。	54
55	H－66	土師甕	16.0	34.9	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外反。横撫で。篦削り。	篦削り。	胴部に最大径をもつ。石英。	54
56	H－67	土師甕	(26.0)	11.5	①中粒②良好③にぶい橙④1/10	外傾。撫で。篦削り。	――	石英。	54
57	H－68	土師坏	12.6	3.6	①中粒②良好③橙④完形	内湾。撫で。	篦削り。	雲母。石英。	55
58	H－69	土師坏	(11.8)	3.3	①中粒②良好③橙④1/2	外反。撫で。篦削り。	篦削り。	雲母。石英。	55
59	H－69	須恵高台埦	10.8	4.5	①細粒②良好③黒④2/3	外反。撫で。轆轤撫で調整。	高台後付け。	内外面とも黒色を施す。雲母。	55
60	H－69	須恵高台埦	13.6	(5.4)	①中粒②良好③明褐灰④5/6	外反。轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。	雲母。	55
61	H－70	灰釉高台埦	16.8	5.5	①細粒②良好③明オリーブ灰④3/4	外反。轆轤撫で調整。	回転篦削り。	口縁部にうるし付着。光ケ丘1窯式。	55
62	H－70	須恵坏	13.9	4.0	①中粒②良好③明褐灰④2/3	外反。轆轤撫で調整。	回転糸切撫で調整。	雲母。長石。	55
63	H－70	須恵高台埦	14.8	5.1	①中粒②良好③灰白④ほぼ完形	轆轤撫で調整。	高台剥離一部残存。	雲母。	55
64	H－70	須恵坏	13.0	3.6	①中粒②良好③灰白④完形	轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。	石英。	55
65	H－70	須恵高台埦	(13.8)	4.8	①中粒②良好③明オリーブ灰④1/3	外反。轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。		55
66	H－70	灰釉長頸壺	—	(13.0)	①細粒②極良③オリーブ灰④1/3	轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。	自然釉付着。雲母。石英。	55
67	H－70	土師甕	19.0	20.0	①細粒②良好③にぶい褐④1/2	外傾。たたき後篦削り。	――	胴部に最大径をもつ。雲母。	55
68	H－70	土師甕	20.2	(24.0)	①細粒②良好③橙④1/3	外傾。撫で。篦磨き。	――	胴部に最大径をもつ。雲母。石英。	55
69	H－73	土師質須恵高台埦	(15.6)	5.7	①細粒②良好③にぶい橙④1/2	外反。撫で。轆轤撫で調整。	高台後付け。	石英。	55
70	H－73	土師質須恵盤	19.2	6.7	①中粒②良好③浅黄橙④2/3	外反。撫で。轆轤撫で調整。	高台後付け。入念な撫で。	口唇部内外面に朱塗り。雲母。石英。	55
71	H－73	土師甕	24.0	24.1	①中粒②良好③にぶい黄橙④1/3	外反。撫で。篦削り。	布目とみられる圧痕。	雲母。	56
72	H－74	土師小型広口甕	8.6	8.0	①細粒②良好③にぶい橙④ほぼ完形	口唇部横撫で。篦削り。	――	手捏ね。輪積痕。顔料を入れていたか。雲母。石英。	56
73	H－74	土師甕	—	(16.3)	①中粒②良好③浅黄④2/3	篦削り。	篦削り。	雲母。石英。	56
74	H－74	土師坏	(16.8)	7.5	①細粒②良好③橙④1/3	口唇部おさえ撫で。口縁部直立。撫で。明確な稜線。	篦削り。		56
75	H－74	土師甕	(20.5)	26.0	①細粒②良好③浅黄④1/2	外反。撫で。篦削り。	篦削り。	口縁部に最大径をもつ。雲母。石英。	56
76	H－76	須恵高台埦	(14.0)	5.7	①細粒②良好③灰黄④1/3	轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。		56
77	H－77	須恵坏	—	—	①細粒②良好③灰白④口縁胴部	轆轤撫で調整。	――	墨書土器。判読不能。雲母。	56
78	H－77	須恵高台埦	15.0	5.0	①細粒②良好③浅黄④1/2	轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。	胴部に粘土を補充した痕跡有り。雲母。	56
79	H－77	土師甕	18.4	(17.5)	①細粒②良好③橙④1/3	外傾。撫で。たたきしめ後撫で。	――	頸部に指頭痕。口唇部に一条の沈線。雲母。	56
80	H－78	土師坏	(11.6)	(3.3)	①細粒②良好③橙④1/3	外傾。横撫で。削り。	削り。	雲母。	56
81	H－78	土師甕	20.4	27.5	①細粒②良好③にぶい赤褐④3/4	外傾。撫で。篦削り。	篦削り。	頸部に指頭痕。胴部に最大径をもつ。雲母。	56
82	H－79	土師坏	12.0	4.1	①細粒②極良③明赤褐④1/3	直立。篦削り。	丁寧な篦磨き。	雲母。石英。	56
83	H－81	須恵坏	12.6	3.7	①細粒②良好③灰白④3/4	轆轤調整の横撫で。	回転糸切未調整。	石英。	56
84	H－82	土師坏	11.2	4.8	①細粒②良好③橙④1/2	外傾。横撫で。弱い稜線。篦削り。	篦削り。	石英。	56
85	H－82	土師小甕	15.4	13.9	①中粒②良好③灰赤④ほぼ完形	外傾。横撫で。篦削り。	篦削り。	石英。	56
86	H－84覆土	羽釜	(19.6)	(9.0)	①細粒②良好③にぶい褐④1/10	内湾。撫で。篦削り。	――	口縁部のタール状の煤。雲母。	56
87	H－85	土師坏	13.8	5.6	①中粒②良好③にぶい赤褐④完形	外傾。横撫で。弱い稜線。篦削り。	篦削り。	胴部にタール状の煤。雲母。	57
88	H－86	土師坏	12.4	5.3	①細粒②良好③橙④1/2	外傾。横撫で。稜線。削り。	篦削り。	口縁部～胴部にタール状の煤。雲母。	57
89	H－86	須恵𤭯	10.0	10.8	①細粒②極良③オリーブ灰④ほぼ完形	外反。口縁に一条の稜線。肩・胴部にくしかき文様。	たたき後丁寧な撫で。	稜線の下部に篦で刻み文様。	57
90	D－124	土師坏	11.5	3.5	①中粒②良好③橙④4/5	直立。横撫で。篦削り。	篦削り。	雲母。石英。	57
91	D－124	土師坏	11.0	3.5	①細粒②良好③橙④1/2	内湾。撫で。篦削り。	篦削り。	雲母。	57
92	D－124	土師坏	(16.2)	3.7	①中粒②良好③橙④1/2	外傾。横撫で。篦削り。指頭痕。	篦削り。	雲母。石英。	57
93	D－124	土師坏	16.2	4.2	①細粒②良好③橙④ほぼ完形	外反。横撫で。篦削り。	篦削り。	雲母。	57
94	D－126	土師質須恵高台埦	(13.8)	5.2	①中粒②良好③浅黄④1/2	轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。高台後付け。	雲母。	57
95	D-198覆土	土師坏	(13.4)	4.7	①細粒②良好③にぶい橙④1/3	外反。横撫で。篦削り。	――	雲母。	57
96	工房址1	須恵坏	10.3	3.4	①細粒②良好③にぶい橙④2/3	口唇部おさえ撫で。轆轤撫で調整。口縁部外傾。撫で。	回転糸切未調整。	口唇部と内面に朱。雲母。	57
97	W－3	土師質カワラケ	10.6	3.0	①細粒②良好③淡黄④1/2	轆轤撫で調整。	回転糸切未調整。	雲母。	57
98	A区覆土	灰釉高台埦	14.6	5.7	①細粒②良好③明オリーブ灰④2/3	轆轤撫で調整。	削り出しか。	内外面に釉。折戸53号窯式。	57
99	E区覆土	土師甕	(16.6)	15.8	①細粒②良好③にぶい褐④1/2	轆轤横撫で調整。	篦削り。	雲母。	57

注）表の記載は次の基準で行った。
① 胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm）とした。
② 焼成は、極良、良好、不良の三段階。
③ 色調は、土器外面で観察し、色名は新版標準土色帖（小山・竹原1976）に拠った。
④ 大きさは、復元値を（　）で示した。

Tab. 3　鉄器・鉄製品観察表

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	残存	備考
1	H－45	鎌	(3.7)	2.3	0.2	1 ／ 5	先端部のみ。
2	H－62	鎌	(4.9)	2.1	0.4	1 ／ 5	先端部のみ。
3	H－64	釘	(6.9)	0.7	0.7	3 ／ 4	頭部折り曲げ角釘。
4	H－64	釘	(7.2)	0.6	0.7	3 ／ 4	頭部折り曲げ角釘。
5	H－64	釘	8.9	0.6	0.6	完形	頭部折り曲げ角釘。
6	H－56	鏃	(8.4)	1.9	0.3	2 ／ 3	鍛造。有茎。長三角形。
7	H－62	紡錘車	(16.4)	6.4	0.4	1 ／ 2	鉄製紡錘車。軸部のみ。
8	H－62	斧	8.8	4.3	0.5	完形	袋状鉄斧。
9	H－45	刀子	(12.6)	1.1	0.3	2 ／ 3	使い込まれて細身。両茎。
10	H－69	刀子	(13.8)	1.5	0.5	3 ／ 4	使い込まれて細身。両茎。

注）表の記載で、大きさの単位はcmであり、現存値は（ ）で示した。

Tab. 4　石器・石製品・特殊遺物観察表

番号	出土位置	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石材等	備考
1	H－76覆土	石鏃	1.2	1.2	0.1	0.2	硬質頁岩	無茎。ワタグリ。
2	工房址覆土	石鏃	1.8	1.2	0.3	0.5	黒曜石	無茎。三角形。
3	H－54覆土	石鏃	1.8	1.2	0.4	0.7	黒曜石	無茎。三角形。
4	H－54覆土	石鏃	1.9	1.3	0.4	1.0	黒曜石	無茎。三角形。
5	H－52覆土	石鏃	1.6	1.7	0.3	0.8	チャート	無茎。ワタグリ。
6	H－54覆土	石鏃	2.7	1.5	0.4	1.4	硬質頁岩	無茎。ワタグリ。
7	H－77覆土	石鏃	(2.2)	2.1	0.4	0.7	—	
8	D-193覆土	石鏃	(2.5)	3.2	0.6	0.4	硬質頁岩	無茎。ワタグリ。大型。
9	I－3覆土	打製石斧	8.7	5.1	2.0	120.0	頁岩	撥形。
10	H－54覆土	打製石斧	10.2	4.2	1.4	79.0	頁岩	撥形。
11	H－52覆土	打製石斧	12.6	4.3	1.0	84.0	頁岩	撥形。
12	H－55覆土	打製石斧	13.0	4.6	1.3	120.2	安山岩	両刃形。
13	J － 6	打製石斧	(10.5)	5.1	1.4	87.0	頁岩	撥形。
14	D－123	打製石斧	11.2	7.3	2.1	210.0	硬質頁岩	中央に括れ。
15	J － 6	打製石斧	12.0	6.1	1.2	94.0	頁岩	撥形。
16	I－3覆土	打製石斧	10.5	4.1	1.6	77.0	頁岩	削器。
17	D－123	打製石斧	14.5	6.7	2.2	315.0	頁岩	中央に括れ。
18	J － 4	打製石斧	12.0	4.1	1.6	110.2	頁岩	撥形。
19	D-193覆土	打製石斧	13.0	5.4	1.3	128.0	硬質頁岩	撥形。
20	H－78覆土	打製石斧	(9.1)	4.7	1.1	61.0	頁岩	
21	H－78覆土	脂器	7.5	6.1	0.8	38.4	頁岩	石匙状。
22	I－3覆土	打製石斧	(6.2)	5.1	1.4	63.0	硬質頁岩	撥形先端。
23	H－75覆土	打製石斧	(9.2)	4.4	0.8	55.0	頁岩	撥形。
24	D-199覆土	打製石斧	(7.8)	4.5	1.5	67.0	安山岩	撥形。
25	J － 7	打製石斧	8.0	4.3	9.0	51.5	黒色粘板岩	撥形。
26	J － 7	打製石斧	7.3	4.6	0.6	35.8	頁岩	撥形。
27	J － 6	石錘	(5.8)	3.5	0.4	11.0	頁岩	先端欠損。
28	B区覆土	装飾品	3.0	3.4	1.1	6.4	角閃石安山岩	中央に孔。
29	H － 71	紡錘車	4.0	4.0	1.8	43.4	滑石	円錐台形。側面縦方向に削痕。
30	A区覆土	紡錘車	(4.7)	(2.6)	(1.2)	18.4	流紋岩	残存1／3
31	H － 62	土錘	4.4	1.7	1.6	8.2	土製	大型。黒色。
32	H － 43	土錘	(4.3)	1.7	1.7	11.6	土製	小型。黒色。
33	H － 62	土錘	5.8	2.9	2.9	44.0	土製	小型。褐色。
34	H － 46	土錘	6.3	3.1	(1.3)	29.0	土製	大型。黒色。
35	H － 51	石製模造品	2.3	1.2	0.2	1.0	滑石	剣形。2孔。
36	W－2覆土	砥石	(7.6)	2.6	2.1	60.5	泥岩	4面使用。
37	H － 56	砥石	11.3	3.2	1.4	74.5	泥岩	携帯砥。4面使用。
38	H － 50	砥石	(9.7)	(7.4)	(4.6)	380.0	泥岩	4面使用。
39	D-194覆土	玦状耳環	(2.0)	0.8	1.1	3.9	滑石	

注）表の記載で、大きさと重さについての単位はcm、gであり、現存値は（ ）で示した。

Tab. 5　縄文式土器観察表

番号	出土位置	①胎土　②焼成　③色調　④残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	備考
1	D－173	①粗粒②不良③にぶい橙④1/2	表面には縄文ＲＬによる不規則な施文。内面は横方向のナデ。	
2	J－3	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	無文。	堀之内
3	D－123	①中粒②良好③灰黄褐色④5/6	注口土器。把手橋状に２単位。胴部中央に稜。底部に網代痕。渦巻・三角形・楕円形等の幾何学文様。縄文（L）。	堀之内Ⅱ
4	J－3	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	口辺に１条の横方向の沈線。その下に幾何状の沈線。	堀之内
5	J－3	①中粒②良好③にぶい黄褐④胴部	３～４条の平行沈線。充填縄文ＬＲ。	堀之内Ⅰ
6	J－3	①繊維②良好③橙④口縁部	半截竹管によるコンパス文。０段多条の縄文ＲＬによるループ文。	関山
7	J－3	①中粒②良好③灰黄褐④胴部	凹線による微隆起文。充填縄文は０段多条のＬＲ。	加曽利E４
8	J－3	①中粒②良好③灰黄褐④胴部	平行する沈線による幾何状文。充填される縄文ＬＲは細かい。	堀之内Ⅱ
9	J－3	①細粒②極良③にぶい黄褐④口縁部	行する沈線による幾何状文。充填される縄文ＬＲは細かい。	堀之内Ⅱ
10	J－3	①細粒②良好③黄褐④注口部	注口土器の注口部。丁寧な磨きで仕上げられる。	堀之内Ⅱ
11	J－3	①粗粒②良好③にぶい褐④胴部	山形押型文。	押型文
12	J－3	①粗粒②良好③褐④口縁部	11と同一個体。口唇部にも押型文。口唇に横位に１条の押捺。	押型文
13	J－3	①細粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	沈線による幾何文。充填縄文ＬＲ。	堀之内Ⅱ
14	J－3	①繊維②良好③にぶい黄橙④口縁部	沈線と円形添付。胴部には縄文ＲＬ。	関山Ⅱ
15	J－3	①繊維②良好③明赤褐④胴部	半截竹管によるコンパス文。異条斜縄文。	関山
16	J－3	①細粒②極良③にぶい黄橙④口縁部	口辺に横走する鎖状の隆帯。	堀之内Ⅱ
17	J－3	①繊維②良好③明褐④口縁部	０段多条縄文によるループ文。	関山
18	J－3	①粗粒②不良③橙④口縁部	結束縄文。	
19	J－3	①中粒②良好③にぶい黄褐④胴部	平行沈線による幾何文。充填縄文ＬＲ。	堀之内Ⅱ
20	J－3	①中粒②良好③灰黄褐④胴部	平行沈線による幾何文。充填縄文ＬＲ。	堀之内Ⅱ
21	J－5	①繊維②良好③にぶい黄橙④胴部	０段多条縄文ＲＬによる菱形文。	関山
22	J－6	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	口辺に凹線による沈線。下部に縄文ＲＬ。	加曽利E３
23	J－6	①中粒②良好③にぶい褐④胴部	懸垂文。縄文ＲＬの磨消縄文。接合帯に刻み。	加曽利E３
24	J－3	①中粒②良好③褐④口縁～胴部	沈線による幾何文。縄文ＲＬが充填される。	堀之内Ⅱ
25	J－6	①粗粒②良好③にぶい褐色④胴部	懸垂文。縄文ＲＬによる磨消縄文。	加曽利E３
26	J－6	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	縦方向に並走する条線文。	加曽利E３
27	J－6	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	微隆起文。磨消縄文ＲＬが羽状構成をとる。	加曽利E３
28	J－6	①中粒②良好③にぶい褐④胴部	微隆起文と縄文ＲＬによって構成される。	加曽利E３
29	J－6	①中粒②良好③にぶい橙④口縁～胴部	微隆起文と縄文ＲＬによって構成される。	加曽利E３
30	J－6	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	沈線区画と縄文ＲＬ。	加曽利E３
31	J－6	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	微隆起文と縄文ＲＬ。	加曽利E３
32	J－6	①中粒②良好③にぶい赤褐④口縁部	沈線による逆Ｕ字文。０段多条の縄文ＲＬは羽状構成。	加曽利E４
33	J－6	①中粒②良好③暗赤褐④口縁部	隆帯による渦巻きと刻み。	勝坂
34	J－6	①中粒②良好③橙④口縁部	微隆起による文様区画。縄文ＲＬ。	加曽利E３
35	J－6	①中粒②良好③褐④口縁部	口縁に１条の沈線と平行する縦線文。	堀之内Ⅰ？
36	J－7	①中粒②良好③褐④胴部	半截竹管による平行沈線。縄文ＲＬ。	諸磯b
37	J－7	①中粒②良好③褐④口縁部	半截竹管による平行沈線や渦巻き。縄文ＬＲ。	諸磯b
38	J－7	①細粒②良好③にぶい黄橙④胴部	縄文ＲＬ。	諸磯b
39	J－7	①細粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	半截竹管による鋸歯状の沈線文。連続爪形文。縄文ＲＬ。	
40	J－7	①細粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	縄文ＲＬ。	諸磯b
41	J－7	①中粒②良好③にぶい赤褐④頸部	貝殻による鋸歯文。	浮島
42	J－7	①中粒②良好③赤褐④頸部～胴部	半截竹管による平行沈線。地文に縄文ＲＬ。	諸磯b
43	J－7	①粗粒②良好③にぶい赤褐④胴部	集合沈線。地文に縄文ＬＲ。	諸磯b
44	B区覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	太く浅い沈線区画と縄文ＬＲ。	加曽利E３
45	B区覆土	①粗粒②良好③灰黄褐④口縁部	口縁に平行する鎖状隆帯。沈線と縄文ＬＲ。	堀之内Ⅱ
46	D－87覆土	①細粒②極良③にぶい黄橙④口縁～胴部	口縁部に鎖状隆帯。胴部に沈線による幾何文。縄文ＬＲ。	堀之内Ⅱ
47	B区覆土	①中粒②良好③橙④胴部	縄文。	
48	D-108覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	縄文ＲＬ。	
49	D-108覆土	①中粒②良好③にぶい赤褐④底部	網代底。	
50	D－123	①中粒②良好③暗赤褐④口縁～頸部	鎖状隆帯。円形貼付文。平行沈線。充填縄文ＬＲ。	堀之内Ⅱ

番号	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	備考
51	D－123	①中粒②良好③浅黄④口縁部	口縁部に組状隆帯,胴部に沈線と充填縄文LR。	堀之内Ⅱ
52	D－123	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。三角形や円形を基調とする幾何学文。充填縄文LR。	堀之内Ⅱ
53	D－123	①細粒②良好③灰褐④胴部	深鉢。胴部。三角形や円形を基調とする幾何学文。充填縄文LR。	堀之内Ⅱ
54	D－123	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。太い沈線文。	堀之内Ⅱ
55	D－123	①中粒②良好③灰黄褐④口縁部	深鉢。口縁部。大波状部。	堀之内Ⅱ
56	D－123	①中粒②良好③赤褐④口縁部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯。8字状貼付文。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
57	D－123	①細粒②良好③褐灰④口縁部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯。8字状貼付文。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
58	D－123	①中粒②良好③にぶい灰褐④口縁部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯に円形刺突。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
59	D－123	①中粒②良好③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。円形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
60	D－123	①中粒②良好③灰褐④胴部	深鉢。胴部。沈線文。	堀之内Ⅱ
61	D－123	①中粒②良好③灰褐④口縁部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯。8字状貼付文。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
62	D－123	①中粒②良好③灰褐④口縁部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯。8字状貼付文。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
63	D-125覆土	①中粒②良好③にぶい橙④口縁部	深鉢。口縁部。鎖状隆帯。8字状貼付文。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
64	D-127覆土	①中粒②良好③灰褐④胴部	深鉢。胴部。微隆起線による区画。縄文RL。	称名寺Ⅰ
65	D-127覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縦位の沈線。	堀之内Ⅱ
66	D-233覆土	①中粒③良好④褐④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	諸磯 b
67	H－44覆土	①細粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縦位の沈線文。	
68	H－45覆土	①中粒②良好③にぶい褐④胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
69	H－45覆土	①細粒②良好③にぶい褐④胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
70	H－48覆土	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。条線文。	
71	H－49覆土	①粗粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
72	H－51覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
73	H－51覆土	①細粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
74	H－52覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。修状の肋状文に沿み。円形肋付文。集合沈線。	諸磯 c
75	H－52覆土	①粗粒②良好③にぶい橙①胴部	深鉢。胴部。縦位の結束縄文。	五領ヶ台
76	H－53覆土	①中粒②良好③にぶい橙③口縁部	深鉢。口縁部。8字状貼付文。	堀之内
77	H－53覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線。縄文LR。	堀之内Ⅱ
78	H－53覆土	①中粒②良好③灰褐④胴部	深鉢。胴部。沈線。縄文LR。	堀之内Ⅱ
79	H－56覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。鎖状隆帯。楕例学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
80	H－58覆土	①細粒②良好③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。沈線。縄文LR。	堀之内Ⅱ
81	H－59覆土	①粗粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。沈線と円形刺突。	称名寺Ⅱ
82	H－59覆土	①中粒②良好③にぶい褐④口縁部	深鉢。口縁部。横位の沈線文。	堀之内Ⅰ
83	H－64覆土	①中粒②良好③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。半截竹管による連続爪形文。縄文RL。	諸磯 a
84	H－66覆土	①細粒②良好③にぶい橙④口縁部	深鉢。口縁部。半截竹管による連続爪形文。	諸磯 a
85	H－66覆土	①繊維②不良③褐④胴部	深鉢。胴部。貝殻背圧痕。	黒浜
86	H－70覆土	①中粒②良好③褐④胴部	深鉢。胴部。半截竹管による平行沈線文。コンパス文。	関山Ⅱ
87	H－72覆土	①細粒②良好③にぶい橙④口縁部	深鉢。口縁部。口縁部に押圧による刺み。半截竹管による平行沈線文。	諸磯
88	H－72覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。太い沈線による渦巻文。	称名寺Ⅱ
89	H－76覆土	①中粒②良好③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	諸磯 b
90	H－80覆土	①中粒②良好③褐④胴部	深鉢。胴部。円形刺突。横位の沈線。縄文RL。	加曽利E3
91	H－78覆土	①中粒②良好③にぶい褐④口縁部	深鉢。口縁部。大波状部。内外に太い渦巻文。	加曽利E3
92	H－82覆土	①中粒②良好③にぶい橙④口縁部	深鉢。口縁部。微隆起線文による横位1条の区画。	加曽利E4
93	工房址覆土	①細粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	深鉢。口縁部。大波状部。円孔。	堀之内Ⅰ
94	工房址覆土	①細粒②堅良③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。三角形を基調とした幾何学文。充填縄文LR。	堀之内Ⅱ
95	W－2覆土	①中粒②不良③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	諸磯 b
96	W－2覆土	①中粒②不良③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縄文LR。維絡文。	諸磯 b
97	W－3覆土	①中粒②良好③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。微隆起線による区画。縄文RL。	加曽利E4
98	W－3覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。太く素縄に盛り上がりをみせる沈線。縄文LR。	中津？
99	I－3覆土	①中粒②良好③灰黄褐④胴部	深鉢。胴部。棒状貼付文には押圧。集合沈線。	諸磯 c
100	I－3覆土	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	諸磯 b
101	I－3覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線文。	堀之内Ⅱ

番号	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調 ④残存	文様要素・文様構成・器形の特徴	備考
102	I－3 覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縄文。	
103	X 79 Y 39	①中粒②不良③赤褐④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	
104	B 区 覆土	①中粒②良好③褐④胴部	深鉢。胴部。浮線文。	諸 磯 b
105	B 区 覆土	①繊維②良好③褐④胴部	深鉢。胴部。異条斜縄文。	関 山
106	B 区 覆土	①粗粒②不良③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	
107	B 区 覆土	①中粒②良好③灰褐④胴部	深鉢。胴部。沈線文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
108	B 区 覆土	①細粒②良好③灰褐④口縁部	深鉢。口縁部。横位の微隆起線。縄文RL。	加曽利E4
109	B 区 覆土	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	
110	B 区 表採	①中粒②良好③灰褐④胴部	注口?。胴部。沈線。	堀之内Ⅰ
111	B 区 表採	①中粒②良好③橙④胴部	深鉢。胴部。棒状貼付文に刻み。集合沈線。	諸 磯 c
112	B 区 表採	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線。	
113	B 区 表採	①中粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。三角形を基調とする幾何学文。縄文LR。	堀之内Ⅱ
114	B 区 表採	①中粒②不良③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縄文。	
115	B 区 表採	①粗粒②良好③にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。沈線。縄文RL。	
116	B 区 覆土	①粗粒②不良③にぶい橙④口縁～胴部	深鉢。口縁～胴部。縄文。	
117	C 区 覆土	①粗粒②不良③にぶい赤褐④胴部	深鉢。胴部。沈線。地文に縄文RL。	諸 磯 b
118	C 区 覆土	①中粒②良好③橙④胴部	深鉢。胴部。半截竹管による横位の沈線。縄文RL。	諸 磯 b
119	C 区 覆土	①中粒②良好③灰赤褐④口縁部	深鉢。口縁部。横位の沈線。	堀 之 内
120	C 区 覆土	①中粒②良好③灰黄橙④口縁部	深鉢。口縁部。大波状部。沈線。	
121	C 区 表採	①中粒②良好③赤褐④口縁部	深鉢。口縁部。沈線。円形刺突。	加曽利E3
122	D 区 覆土	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。太く浅い沈線。	堀之内Ⅰ
123	D 区 覆土	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。円形貼付文。	
124	D 区 覆土	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。縄文RL。	
125	D 区 覆土	①中粒②良好③橙④胴部	深鉢。胴部。地文に縄文RL。半截竹管による横位平行沈線。	諸 磯 b
126	D 区 覆土	①細粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。地文に縄文RL。浮線文。	諸 磯 b
127	D 区 覆土	①中粒②良好③灰黄褐④口縁部	深鉢。口縁部。口管部に刻み。変形爪形文。半截竹管による爪形文。平行沈線文。	浮 島
128	D 区 表採	①中粒②良好③にぶい橙④口縁部	深鉢。口縁部。付加条による縄文。	諸 磯 b
129	D 区 表採	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。地文に縄文RL。浮線文。	諸 磯 b
130	D 区 表採	①中粒②良好③暗赤褐④口縁部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。半截竹管による連続爪形文。	諸 磯 a
131	D 区 表採	①中粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。擬歯状工具による平行線と波状文。	諸 磯
132	D 区 表採	①中粒②良好③にぶい橙④口縁部	深鉢。口縁部。太く浅い沈線文。	
133	D 区 表採	①粗粒②良好③灰黄橙④口縁部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。半截竹管による連続爪形文。	諸 磯 a
134	D 区 表採	①中粒②良好③橙④口縁部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。浮線文。	諸 磯 b
135	D 区 表採	①中粒②良好③浅黄橙④胴部	深鉢。胴部。逆U字形の沈線。縄文RLを充填。	加曽利E3
136	D 区 表採	①中粒②良好③赤褐④胴部	深鉢。胴部。半截竹管による木の葉文。円管文。連続爪形文。縄文RL。	諸 磯 a
137	D 区 表採	①中粒②良好③灰黄橙④胴部	深鉢。胴部。渦巻き。縄文LR。	称名寺Ⅰ
138	D 区 表採	①中粒②良好③明赤褐④口縁部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。口縁部に4条の横位沈線。下部に複秒沈線。	諸 磯 b
139	D 区 表採	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。半截竹管による平行沈線文。	諸 磯 b
140	E 区 覆土	①中粒②良好③にぶい黄橙④把手	深鉢。把手。横状把手の一部。微隆起によって文様が付けられる。	加曽利E4
141	E 区 覆土	①中粒③不良④にぶい黄橙④胴部	深鉢。胴部。縄文LR。	
142	E 区 覆土	①中粒②良好③灰褐④口縁部	深鉢。口縁部。地文に縄文RL。2列の円形刺突。	加曽利E3
143	E 区 表採	①粗粒②良好③にぶい橙④胴部	深鉢。胴部。沈線と縄文LR。	加曽利E3
144	E 区 表採	①中粒②良好③灰赤褐④胴部	深鉢。胴部。沈線による区画文と縄文LR。	加曽利E3
145	E 区 表採	①中粒②良好③暗赤褐④胴部	深鉢。胴部。条線文。	加曽利E3
146	E 区 表採	①中粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	深鉢。口縁部。太く浅い沈線と縄文LR。	加曽利E3
147	E 区 表採	①中粒②良好③にぶい黄橙④把手	深鉢。把手。沈線と縄文RL。	加曽利E3
148	E 区 表採	①中粒②良好③灰黄褐④口縁部	深鉢。口縁部。沈線と縄文RL。縄文は羽状構成。	加曽利E3
149	E 区 表採	①粗粒②良好③にぶい黄橙④口縁部	深鉢。口縁部。太く浅い沈線と縄文RL。	加曽利E3

注）表の記載は以下の基準で行った。
① 胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とした。
② 焼成は、極良、良好、不良の三段階。
③ 色調は、土器外面で観察し、色名は新版標準土色帖（小山・竹原1976）に拠った。

Tab. 6 旧石器観察表

番号	出土位置	層位	レベル値	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考	Fig.
1	D区表採	−	−	細石刃	1.7	0.6	0.1	0.2	硬質頁岩		
2	D区覆土	−	−	彫刻刀型石器	7.2	4.4	1.4	29.6	硬質頁岩	荒屋型彫器。	70
3	D区表採	−	−	細石刃	1.4	0.5	0.1	0.2	硬質頁岩		
4	D区覆土	−	−	削器	11.8	3.6	1.1	44.6	硬質頁岩		71
5	D区覆土	−	−	彫刻刀型石器	4.7	2.6	0.7	10.4	硬質頁岩		70
6	D区覆土	−	−	彫刻刀型石器	6.7	2.6	0.7	11.0	硬質頁岩		70
7	D区覆土	−	−	細石刃	2.5	0.75	0.25	0.2	硬質頁岩		68
8	D区覆土	−	−	細石刃	9.2	0.65	0.45	0.4	硬質頁岩		68
9	D区表採	−	−	細石刃	2.65	0.8	0.3	0.3	硬質頁岩		68
10	X76Y44	Ⅳa	87.5	剥片	2.5	2.4	0.4	6.4	硬質頁岩		
11	X76Y44	Ⅳa	80.5	細石刃	2.2	0.6	0.35	0.2	硬質頁岩		68
12	X77Y45	Ⅳa	90.0	破片	0.6	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
13	X77Y45	Ⅳa	87.0	破片	0.7	0.6	0.1	0.07	硬質頁岩		
14	X77Y45	Ⅳa	99.0	礫器	12.2	10.1	4.5	790.0	頁岩		
15	X77Y45	Ⅳa	104.0	掻器	4.7	3.6	0.9	10.8	頁岩		73
17	X77Y45	Ⅳa	99.0	剥片	2.5	2.0	0.3	2.0	硬質頁岩	被熱有り。	
18	X77Y45	Ⅳa	98.0	剥片	3.5	2.2	0.7	5.0	硬質頁岩		
19	X77Y45	Ⅳa	106.5	剥片	4.0	2.5	0.4	4.7	硬質頁岩	被熱有り。	
20	X77Y45	Ⅳa	107.0	剥片	2.4	1.5	0.3	1.3	硬質頁岩	被熱有り。	
21	X77Y45	Ⅳa	108.5	細石刃	1.1	0.5	0.1	0.1	硬質頁岩		
22	X77Y46	Ⅳa	107.5	剥片	1.1	0.8	0.1	0.1	硬質頁岩		
23	X77Y45	Ⅳa	104.0	彫器削片	0.6	1.8	0.35	0.3	硬質頁岩		70
24	X77Y46	Ⅳa	114.5	剥片	1.0	1.1	0.2	0.3	硬質頁岩		
25	D区表採	−	−	破片	0.7	0.5	0.1	0.05	硬質頁岩		
26	X78Y46	Ⅳa	113.5	破片	0.5	0.4	0.1	0.04	硬質頁岩		
29	D区表採	−	−	破片	1.5	0.4	0.2	0.05	硬質頁岩		
32	X77Y45	Ⅳa	108.5	細石刃	2.9	0.75	0.45	0.4	硬質頁岩		68
35	X76Y45	Ⅳa	91.5	細石刃	1.5	0.4	0.1	0.09	硬質頁岩		
36	X76Y45	Ⅳa	111.5	彫器削片	1.3	0.4	0.1	0.1	硬質頁岩		
37	X77Y45	Ⅳa	88.0	細石刃	2.7	0.8	0.4	0.4	硬質頁岩		68
40	X76Y45	Ⅳa	103.0	剥片	3.5	1.6	0.3	0.2	硬質頁岩		
41	X77Y45	Ⅳa	103.0	剥片	3.5	3.1	0.5	7.1	硬質頁岩		
42	X77Y45	Ⅳa	103.5	破片	1.0	0.8	0.1	0.1	硬質頁岩		
44	D区表採	−	−	破片	1.7	0.7	0.1	0.2	硬質頁岩		
45	X76Y45	Ⅳa	105.0	細石刃	2.9	0.6	0.45	0.5	硬質頁岩		68
48	X77Y46	Ⅳa	119.0	細石刃	0.9	0.5	0.1	0.1	硬質頁岩		
49	X77Y45	Ⅳa	113.0	細石刃	3.1	0.8	0.5	0.4	硬質頁岩		68
51	X77Y45	Ⅳa	102.0	細石刃	1.2	0.7	0.1	0.1	硬質頁岩		
52	X77Y46	Ⅳa	90.0	彫刻刀型石器	4.2	1.9	1.0	6.8	硬質頁岩		69
53	X77Y45	Ⅳa	90.5	彫刻刀型石器	3.8	1.9	0.7	4.3	硬質頁岩		69
54	X77Y44	Ⅳa	75.5	調整痕ある剥片	2.4	1.2	0.2	1.1	硬質頁岩		
55	X76Y44	Ⅳa	75.5	剥片	2.4	1.4	0.2	0.7	硬質頁岩	被熱有り。	
56	X77Y45	Ⅳa	99.0	細石刃	2.6	0.5	0.1	0.3	硬質頁岩		
57	X77Y45	Ⅳa	106.0	細石刃	1.8	0.6	0.1	0.2	硬質頁岩		
58	X77Y45	Ⅳa	111.0	削器	2.1	2.1	0.4	2.8	硬質頁岩		
60	X77Y45	Ⅳa	113.0	剥片	2.3	1.3	0.1	0.2	硬質頁岩		
61	X77Y45	Ⅳb	114.5	剥片	2.2	1.6	0.1	1.0	硬質頁岩		
62	X77Y45	Ⅳb	112.5	剥片	1.2	0.6	0.1	0.08	硬質頁岩		
63	X77Y45	Ⅳb	111.0	彫刻刀型石器	3.45	1.75	0.6	3.5	硬質頁岩		69
64	X76Y44	Ⅳa	72.5	剥片	4.0	3.4	0.5	6.8	硬質頁岩		
65	X77Y45	Ⅳa	90.0	細石刃	1.9	0.7	0.1	0.3	硬質頁岩		
66	X77Y45	Ⅳa	90.0	細石刃	1.4	0.5	0.1	0.05	硬質頁岩		

番号	出土位置	層位	レベル値	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考	Fig.
67	X77Y45	Ⅳa	101.0	削器	2.0	1.2	0.3	1.5	硬質頁岩		
70	X77Y46	Ⅳa	123.5	細石刃	2.0	0.5	0.2	0.1	硬質頁岩		
71	C区覆土	−	−	削器	3.5	2.6	0.5	5.3	硬質頁岩		
72	D区表採	−	−	細石刃	2.0	0.7	0.2	0.08	硬質頁岩		
80	X77Y45	Ⅳa	97.0	細石刃	2.0	0.5	0.1	0.1	硬質頁岩		
82	X76Y44	Ⅳa	85.0	剥片	3.5	2.5	0.3	3.3	硬質頁岩		
83	X77Y45	Ⅳb	116.5	彫器削片	1.8	0.4	0.2	0.1	硬質頁岩		70
84	H−64覆土	−	−	剥片	2.6	2.2	0.3	2.0	硬質頁岩		
85	X77Y46	Ⅳa	119.0	破片	1.1	1.0	0.1	0.05	硬質頁岩		
87	X77Y45	Ⅳa	98.5	細石刃	1.6	0.5	0.1	0.08	硬質頁岩		
88	X77Y45	Ⅳa	97.0	細石刃	2.1	0.7	0.1	0.1	硬質頁岩		
89	H−60覆土	−	−	剥片	2.7	2.2	0.5	2.8	硬質頁岩		
90	X77Y46	Ⅳa	134.0	剥片	2.5	2.2	0.3	1.7	硬質頁岩		
92	X77Y45	Ⅳa	98.0	細石刃	2.3	0.6	0.25	0.2	硬質頁岩		68
95	X77Y45	Ⅳa	91.5	細石核	2.1	4.2	1.8	16.8	硬質頁岩		65
98	X76Y44	Ⅳa	78.0	剥片	2.5	1.5	0.2	0.9	硬質頁岩		
99	X76Y44	Ⅳa	81.0	細石刃	2.2	0.6	0.3	0.2	硬質頁岩		68
100	X77Y45	Ⅳa	106.0	剥片	3.5	2.5	0.2	2.6	硬質頁岩		
102	X77Y45	Ⅳa	98.0	細石刃	2.8	0.7	0.5	0.5	硬質頁岩		68
105	X76Y45	Ⅳb	98.5	細石刃	1.4	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
106	X77Y44	Ⅳa	73.0	削器	4.5	3.5	0.5	12.2	硬質頁岩		
108	X77Y45	Ⅳa	110.5	彫器削片	0.5	1.95	0.35	0.2	硬質頁岩		70
109	X77Y45	Ⅳa	111.0	剥片	1.9	1.5	0.2	0.6	硬質頁岩		
112	X77Y45	Ⅳb	111.5	剥片	1.5	1.0	0.2	0.3	硬質頁岩		
113	X77Y46	Ⅳb	114.0	彫器削片	0.6	1.8	0.25	0.3	硬質頁岩		70
114	X77Y45	Ⅳb	108.5	破片	0.9	0.3	0.1	0.01	硬質頁岩		
116	X76Y44	Ⅳa	70.0	スキー状削片	0.8	4.7	0.8	3.0	硬質頁岩		66
117	X77Y44	Ⅳa	80.0	礫器	13.1	9.45	5.2	900.0	閃緑岩		74
118	X76Y44	Ⅳa	80.0	剥片	1.1	1.1	0.1	0.05	硬質頁岩		
119	X77Y45	Ⅳb	95.0	剥片	4.0	3.0	0.5	2.7	硬質頁岩		
120	X77Y45	Ⅳb	111.0	剥片	1.9	1.3	0.2	0.7	硬質頁岩	被熱有り。	
121	X77Y44	Ⅳa	86.0	細石刃	1.5	0.3	0.1	0.05	硬質頁岩		
122	X76Y44	Ⅳa	78.5	剥片	1.8	0.9	0.2	0.5	硬質頁岩		
123	X77Y46	Ⅳa	127.0	細石刃	1.5	0.5	0.2	0.1	硬質頁岩		
125	X77Y46	Ⅳa	132.0	剥片	2.7	2.2	0.3	2.2	硬質頁岩		
126	X77Y47	Ⅳa	143.5	剥片	1.1	1.0	0.1	0.05	硬質頁岩		
127	X77Y47	Ⅳa	142.5	破片	1.0	0.5	0.1	0.05	硬質頁岩		
128	X75Y44	Ⅳa	88.0	細石刃	2.0	0.6	0.1	0.2	硬質頁岩		
129	X76Y44	Ⅳa	83.5	剥片	2.2	1.0	0.1	0.2	硬質頁岩		
132	X77Y44	Ⅳa	88.0	細石刃	2.7	0.85	0.4	0.4	硬質頁岩		68
133	X77Y45	Ⅳb	109.0	細石刃	2.75	0.75	0.3	0.3	硬質頁岩		68
134	X77Y45	Ⅳa	112.5	彫器削片	0.3	1.4	0.25	0.05	硬質頁岩		70
135	X77Y45	Ⅳb	120.0	細石刃	2.2	0.7	0.2	0.2	硬質頁岩		
136	D区表採	−	−	細石刃	1.2	0.5	0.1	0.05	硬質頁岩		
138	X77Y45	Ⅳb	103.5	細石刃	2.0	0.6	0.1	0.2	硬質頁岩		
139	X76Y45	Ⅳa	96.5	剥片	2.5	1.5	0.2	1.0	硬質頁岩		
143	X77Y45	Ⅳa	101.0	破片	0.6	0.6	0.1	0.05	硬質頁岩		
144	X77Y46	Ⅳa	129.5	剥片	4.3	1.5	0.6	4.9	硬質頁岩		
146	X77Y45	Ⅳa	115.0	彫刻刀型石器	3.5	2.0	0.7	5.5	硬質頁岩		69
147	X77Y44	Ⅳa	88.5	細石刃	2.5	0.6	0.3	0.2	硬質頁岩		68
148	X76Y44	Ⅳa	89.5	細石刃	1.1	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
150	X77Y46	Ⅳa	131.0	剥片	1.2	0.6	0.1	0.05	硬質頁岩		
152	J−8覆土	−	−	剥片	1.8	1.5	0.2	1.2	硬質頁岩		

番号	出土位置	層位	レベル値	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考	Fig.
156	X77Y45	Ⅳb	114.5	細石刃	1.1	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
157	X77Y45	Ⅳb	111.5	調整痕ある剥片	1.3	1.1	0.3	0.8	硬質頁岩		
159	X77Y45	Ⅳb	121.0	彫器削片	0.45	1.05	0.2	0.1	硬質頁岩		70
160	X77Y45	Ⅳb	121.0	剥片	2.1	1.2	0.3	1.6	硬質頁岩		
161	X77Y45	Ⅳb	123.5	剥片	3.9	2.8	0.8	11.8	硬質頁岩		
162	X77Y45	Ⅳb	119.0	剥片	2.0	1.6	0.2	0.9	硬質頁岩		
165	X77Y45	Ⅳb	119.5	剥片	1.6	1.1	0.1	0.3	硬質頁岩		
166	X77Y45	Ⅳb	118.0	破片	0.5	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
167	X77Y45	Ⅳb	113.5	破片	0.5	0.3	0.1	0.05	硬質頁岩		
168	X77Y45	Ⅳb	109.5	破片	0.5	0.5	0.1	0.05	硬質頁岩		
170	X77Y45	Ⅳb	91.0	剥片	3.0	2.4	0.3	2.6	硬質頁岩		
171	X77Y45	Ⅳb	101.0	細石刃	2.3	0.8	0.4	0.3	硬質頁岩		68
172	X77Y45	Ⅳb	98.0	細石刃	2.95	0.85	0.5	0.5	硬質頁岩		68
174	X77Y45	Ⅳb	99.0	細石刃	1.5	0.5	0.1	0.1	硬質頁岩		
175	X77Y44	Ⅳa	86.5	剥片	4.5	2.0	0.3	3.6	硬質頁岩		
177	X77Y45	Ⅳb	103.5	剥片	1.7	0.9	0.1	0.2	硬質頁岩		
178	X77Y44	Ⅳb	96.5	細石刃	2.1	0.5	0.1	0.3	硬質頁岩		
179	X77Y44	Ⅳb	97.5	礫器	14.0	10.6	7.1	1250.0	細粒安山岩		74
182	X76Y44	Ⅳb	81.0	礫器	12.5	8.3	6.3	1110.0	閃緑岩		75
183	X77Y44	Ⅳa	79.0	細石刃	1.5	0.4	0.1	0.1	硬質頁岩		
184	X76Y44	Ⅳb	89.5	細石刃	2.0	0.4	0.1	0.1	硬質頁岩		
185	X76Y44	Ⅳb	86.5	剥片	1.8	1.2	0.2	0.6	硬質頁岩		
186	X76Y44	Ⅳb	91.0	調整痕ある剥片	2.1	1.6	0.3	1.3	硬質頁岩		
187	X76Y45	Ⅳb	105.0	細石刃	2.2	0.6	0.1	0.08	硬質頁岩		
188	X78Y45	Ⅳb	101.5	細石刃	1.3	0.5	0.1	0.05	硬質頁岩		
189	X76Y45	Ⅳb	104.5	彫器削片	0.55	0.8	0.2	0.1	硬質頁岩		70
190	X76Y45	Ⅳb	103.0	彫器削片	1.2	0.3	0.1	0.05	硬質頁岩		
191	X76Y45	Ⅳb	106.0	彫器削片	1.0	0.55	0.2	0.1	硬質頁岩		70
192	X76Y45	Ⅳb	110.0	使用痕ある剥片	5.0	2.0	0.6	8.0	硬質頁岩		
193	X76Y45	Ⅳa	110.5	削器	5.8	4.4	0.8	12.0	硬質頁岩		71
194	X77Y45	Ⅳb	120.5	彫器削片	2.4	0.5	0.35	0.4	硬質頁岩		70
195	X76Y45	Ⅳb	106.5	破片	0.9	0.5	0.1	0.05	硬質頁岩		
196	X76Y44	Ⅳb	87.0	細石刃	2.2	0.6	0.35	0.2	硬質頁岩		68
198	X77Y45	Ⅳb	118.5	調整痕ある剥片	2.6	1.5	0.4	2.3	硬質頁岩		
199	X77Y45	Ⅳb	107.5	細石刃	2.3	0.65	0.3	0.2	硬質頁岩		68
200	X77Y45	Ⅳb	101.5	細石刃	1.9	0.5	0.1	0.3	硬質頁岩		
201	X77Y44	Ⅳb	96.0	細石刃	2.1	0.65	0.25	0.2	硬質頁岩		68
203	X77Y44	Ⅳb	91.0	細石核	1.9	5.9	1.7	18.6	硬質頁岩		65
204	X77Y44	Ⅳb	78.0	剥片	2.2	1.6	0.1	0.8	硬質頁岩		
206	X76Y45	Ⅳb	109.0	細石刃	2.6	5.5	2.5	0.2	硬質頁岩		68
211	X77Y45	Ⅳb	103.0	細石刃	2.7	0.7	0.45	0.3	硬質頁岩		68
212	X77Y47	Ⅳb	158.0	剥片	2.8	2.1	0.2	1.9	硬質頁岩		
215	X77Y44	Ⅳa	86.0	剥片	2.0	2.0	0.1	0.8	硬質頁岩		
216	X77Y45	Ⅳb	109.5	細石刃	1.5	0.4	0.1	0.1	硬質頁岩		
217	X77Y45	Ⅳb	111.0	破片	0.8	0.5	0.1	0.05	硬質頁岩		
218	X77Y44	Ⅳb	98.5	細石刃	3.0	0.9	0.1	0.7	硬質頁岩		
219	X76Y44	Ⅳb	102.0	細石刃	1.9	0.9	0.2	0.5	硬質頁岩		
220	X76Y44	Ⅳb	102.0	彫刻刀型石器	5.1	2.6	0.65	9.3	硬質頁岩		69
221	X76Y45	Ⅳb	110.0	細石刃	2.1	0.3	0.1	0.2	硬質頁岩		
222	X76Y44	Ⅳb	97.5	細石刃	1.7	0.5	0.1	0.05	硬質頁岩		
223	X76Y44	Ⅳb	95.0	彫器削片	1.7	0.3	0.1	0.2	硬質頁岩		
224	X77Y44	Ⅳb	103.0	破片	0.8	0.7	0.1	0.05	硬質頁岩		
227	X78Y47	Ⅳa	143.5	細石核	3.0	5.0	1.16	29.0	硬質頁岩		65

番号	出土位置	層位	レベル値	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考	Fig.
232	X78Y46	Ⅳa	122.5	削器	4.1	4.2	0.8	12.0	硬質頁岩		72
235	X78Y47	Ⅳa	143.5	剥片	2.3	2.0	0.2	1.0	硬質頁岩		
236	X78Y47	Ⅳa	149.0	剥片	2.0	2.0	0.1	0.6	硬質頁岩		
237	X78Y47	Ⅳa	145.0	剥片	2.5	1.4	0.6	2.5	硬質頁岩		
239	X78Y47	Ⅳa	145.0	剥片	2.0	1.1	0.2	0.9	硬質頁岩		
240	X78Y47	Ⅳa	148.0	剥片	4.9	1.7	0.3	0.2	硬質頁岩		
243	X78Y46	Ⅳa	135.5	ストーンリタッチャー	12.8	11.9	5.8	1620.0	黒色頁岩		78
244	X78Y45	Ⅳb	112.5	細石刃	2.5	0.65	0.22	0.2	硬質頁岩		68
245	X78Y45	Ⅳb	104.5	細石刃	1.5	0.4	0.1	0.06	硬質頁岩		
246	X78Y47	Ⅳa	156.0	剥片	4.3	2.7	0.9	10.8	硬質頁岩		
247	X78Y47	Ⅳa	155.0	剥片	3.2	2.1	0.3	2.5	硬質頁岩		
248	X78Y45	Ⅳa	112.5	削器	8.1	3.1	0.9	14.6	硬質頁岩		72
249	X77Y45	Ⅳa	108.0	細石刃	1.6	0.3	0.1	0.05	硬質頁岩		
250	X76Y45	Ⅳb	106.0	細石刃	1.4	0.5	0.1	0.1	硬質頁岩		
252	X77Y45	Ⅳb	125.0	彫刻刀型石器	4.1	3.7	1.2	10.8	硬質頁岩		69
253	X77Y45	Ⅳb	123.5	剥片	1.1	0.6	0.1	0.05	硬質頁岩	被熱有り。	
254	X77Y45	Ⅳb	124.5	細石核	3.0	4.4	1.7	25.2	硬質頁岩		66
255	X78Y47	Ⅳa	156.0	剥片	2.5	2.1	0.3	0.7	硬質頁岩		
256	X77Y45	Ⅳa	103.0	楔形石器	10.2	8.9	6.8	860.0	頁岩		75
257	X77Y44	Ⅳb	108.5	細石刃	2.0	0.6	0.1	0.08	硬質頁岩		
258	X77Y45	Ⅳb	109.0	剥片	2.4	1.8	0.2	0.07	硬質頁岩		
260	X77Y45	Ⅳb	113.5	細石刃	1.1	0.6	0.1	0.05	硬質頁岩		
262	X76Y45	Ⅳb	107.5	剥片	1.7	1.2	0.2	0.05	硬質頁岩	被熱有り。	
263	X76Y43	Ⅳa	58.0	剥片	1.5	0.7	0.3	0.5	硬質頁岩		
264	X76Y44	Ⅳb	101.0	細石刃	2.3	0.7	0.35	0.2	硬質頁岩		68
265	X76Y44	Ⅳb	104.0	細石刃	1.4	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
266	X76Y44	Ⅳb	106.0	細石刃	1.1	0.7	0.1	0.05	硬質頁岩		
267	X76Y44	Ⅳb	108.0	細石刃	1.7	0.5	0.2	0.05	硬質頁岩		
268	X76Y45	Ⅳb	111.0	細石刃	2.25	0.6	0.25	0.2	硬質頁岩		68
269	X77Y44	Ⅳb	108.0	細石刃	1.0	0.7	0.1	0.05	硬質頁岩		
271	X76Y45	Ⅳb	110.5	細石刃	1.1	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
272	X77Y45	Ⅳb	122.0	抉入削器	2.7	4.1	0.8	8.4	硬質頁岩		
273	X77Y45	Ⅳb	124.0	細石刃	0.9	0.5	0.2	0.1	黒曜石		
275	X78Y46	Ⅳb	134.5	剥片	1.8	1.4	0.3	0.6	硬質頁岩		
277	X78Y47	Ⅳa	151.0	剥片	2.6	3.2	0.8	5.8	硬質頁岩		
278	X78Y45	Ⅳb	111.0	細石刃	1.2	0.6	0.2	0.05	硬質頁岩		
279	X78Y45	Ⅳb	115.5	細石刃	1.8	0.4	0.1	0.1	硬質頁岩		
280	X76Y45	Ⅳb	126.0	敲石	1.1	0.6	0.1	0.05	硬質頁岩		
281	X77Y43	Ⅳa	56.5	細石刃	1.9	0.5	0.2	0.1	硬質頁岩		
282	X77Y43	Ⅳa	68.0	削器	8.0	5.26	0.9	23.0	硬質頁岩		72
283	X77Y44	Ⅳb	107.5	剥片	1.0	1.2	0.1	0.05	硬質頁岩		
284	X77Y46	Ⅳb	116.0	細石刃	1.6	0.3	0.1	0.04	硬質頁岩		
285	X77Y45	Ⅳb	114.0	細石刃	1.6	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
286	X77Y45	Ⅳb	116.0	細石刃	2.9	0.8	0.2	0.4	硬質頁岩		
287	X78Y45	Ⅳb	119.5	細石核	2.2	5.2	1.2	15.6	硬質頁岩		65
288	X78Y45	Ⅳb	115.5	細石刃	3.0	0.5	0.2	0.3	硬質頁岩		
289	X78Y45	Ⅳb	113.5	細石刃	2.0	0.6	0.1	0.2	硬質頁岩		
290	X78Y47	Ⅳb	145.0	剥片	3.5	1.3	0.3	1.2	硬質頁岩		
291	X78Y47	Ⅲ	158.0	剥片	2.9	2.0	0.5	1.1	硬質頁岩		
292	X78Y47	Ⅲ	154.5	剥片	1.7	1.6	0.3	0.9	硬質頁岩		
293	X78Y47	Ⅲ	154.5	剥片	2.6	1.3	0.4	1.3	硬質頁岩		
294	X78Y47	Ⅲ	159.5	調整痕ある剥片	3.0	2.3	3.0	2.2	硬質頁岩		
295	X78Y47	Ⅲ	151.0	剥片	1.4	1.0	0.2	0.05	硬質頁岩		

番号	出土位置	層 位	レベル値	器 種	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考	Fig.
296	X78Y47	Ⅲ	146.0	剥 片	2.0	1.5	0.2	0.8	硬質頁岩		
297	X78Y47	Ⅲ	153.5	破 片	1.2	0.5	0.1	0.05	硬質頁岩		
304	X78Y47	Ⅲ	155.5	剥 片	2.0	1.6	0.3	1.3	硬質頁岩		
305	X78Y47	黒褐色層	142.0	剥 片	4.5	1.9	0.2	2.1	硬質頁岩		
306	X76Y43	Ⅳb	80.0	剥 片	1.6	0.9	0.1	0.2	硬質頁岩		
307	X78Y47	Ⅲ	161.5	剥 片	1.2	1.1	0.1	0.5	硬質頁岩		
308	X79Y47	黒褐色層	143.0	剥 片	3.4	2.4	0.3	2.2	硬質頁岩		
309	X77Y46	Ⅳa	113.5	剥 片	1.5	1.2	0.1	0.05	硬質頁岩		
310	X77Y46	Ⅳa	116.0	破 片	0.6	0.6	0.1	0.01	硬質頁岩		
311	X77Y46	Ⅳa	112.0	彫器削片	1.5	0.5	0.3	0.05	硬質頁岩		
312	X77Y46	Ⅳa	117.5	剥 片	1.6	1.5	0.2	0.5	硬質頁岩		
313	X77Y46	Ⅳa	125.0	細石刃	4.0	0.6	0.2	0.2	硬質頁岩		
314	X77Y46	Ⅳb	127.0	礫 器	9.9	10.2	4.8	630.0	黒色頁岩		76
315	X77Y46	Ⅳa	124.5	彫器削片	2.8	3.2	0.7	8.8	硬質頁岩		
316	D区覆土	−	−	剥 片	1.2	0.6	0.2	0.2	硬質頁岩		
317	X77Y46	Ⅳa	119.0	彫器削片	0.7	0.2	0.1	0.01	硬質頁岩		
318	X77Y46	Ⅳa	112.0	細石刃	2.2	0.6	0.3	0.3	硬質頁岩		68
319	X77Y46	Ⅳb	116.0	彫刻刀型石器	3.5	2.2	0.6	3.9	硬質頁岩		69
320	X77Y46	Ⅳa	112.5	剥 片	1.2	1.1	0.1	0.2	硬質頁岩		
321	X77Y46	Ⅳa	113.0	削 器	1.9	1.5	0.3	1.6	硬質頁岩		
322	X77Y46	Ⅳa	115.0	破 片	0.7	0.2	0.1	0.01	硬質頁岩		
323	X77Y46	Ⅳa	116.5	削 器	6.0	4.3	0.9	16.8	硬質頁岩		73
324	D区覆土	−	−	礫 器	11.15	11.6	4.0	600.0	ホルンフェルス	長さ・幅・厚さ・重さは388との接合値。	78
326	X78Y46	Ⅳa	127.0	剥 片	1.0	0.6	0.1	0.05	硬質頁岩		
328	X78Y47	Ⅲ	160.5	使用痕ある剥片	1.4	1.1	0.3	0.4	硬質頁岩		
329	X78Y47	Ⅲ	161.0	スキー状削片	3.7	9.9	2.1	56.0	硬質頁岩		67
330	X78Y47	Ⅲ	166.5	剥 片	1.7	0.8	0.2	0.3	硬質頁岩		
331	X78Y47	Ⅲ	170.0	剥 片	1.6	1.2	0.2	0.6	硬質頁岩		
332	X78Y47	Ⅲ	169.5	剥 片	1.7	0.7	0.1	0.3	硬質頁岩		
333	X78Y47	Ⅲ	171.0	スキー状削片	1.7	10.75	1.85	22.5	硬質頁岩		67
335	X78Y47	Ⅲ	169.5	剥 片	1.6	0.9	0.1	0.3	硬質頁岩		
337	X79Y47	Ⅲ	153.0	剥 片	3.4	1.4	0.3	1.7	硬質頁岩		
338	X79Y47	Ⅲ	153.0	剥 片	3.4	3.5	0.3	4.0	硬質頁岩		
344	X78Y46	Ⅳa	149.0	剥 片	1.5	0.9	0.1	0.3	硬質頁岩		
345	X79Y47	Ⅲ	149.5	剥 片	4.5	1.9	0.3	3.8	硬質頁岩		
346	X79Y48	黒褐色層	148.0	剥 片	1.8	1.5	0.2	1.1	硬質頁岩		
347	X77Y46	Ⅳb	126.5	剥 片	1.4	0.9	0.1	0.1	硬質頁岩		
348	X77Y46	Ⅳa	123.5	細石刃	1.5	0.5	0.1	0.1	硬質頁岩		
350	X79Y47	Ⅲ	154.5	剥 片	3.3	2.4	0.5	4.6	硬質頁岩		
353	X79Y47	黒褐色層	113.5	破 片	1.0	0.6	0.1	0.1	硬質頁岩		
354	X78Y47	Ⅳa	166.0	剥 片	0.8	0.6	0.1	0.1	硬質頁岩		
355	X78Y47	Ⅳa	166.0	破 片	0.7	0.6	0.1	0.05	硬質頁岩		
356	X78Y47	Ⅳa	163.5	細石刃	1.4	0.9	0.1	0.2	硬質頁岩		
357	X78Y47	Ⅳa	174.5	剥 片	1.5	0.7	0.2	0.2	硬質頁岩		
358	X78Y47	Ⅳa	174.0	剥 片	4.2	2.8	0.2	6.4	硬質頁岩		
359	X78Y48	黒褐色層	164.0	剥 片	5.5	3.2	0.5	9.8	硬質頁岩		
360	X78Y48	Ⅲ	170.0	剥 片	4.2	1.9	0.2	2.0	硬質頁岩		
361	X78Y48	Ⅲ	174.0	剥 片	2.5	1.9	0.3	2.1	硬質頁岩		
362	X78Y47	Ⅳa	183.0	礫器とたたき石	11.5	6.5	4.9	540.0	頁 岩		
363	X79Y48	黒褐色層	158.5	剥 片	2.2	1.2	0.1	0.4	硬質頁岩		
364	X79Y48	黒褐色層	162.0	剥 片	4.9	1.8	0.6	4.7	硬質頁岩	被熱有り。	
365	X78Y48	Ⅳa	180.0	剥 片	3.1	1.2	0.3	0.9	硬質頁岩		
366	X79Y47	Ⅲ	168.0	剥 片	1.4	1.2	0.2	0.6	硬質頁岩		

番号	出土位置	層位	レベル値	器種	長さ	幅	厚さ	重さ	石質	備考	Fig.
368	X79Y47	Ⅲ	162.0	剥片	3.3	2.7	0.6	4.9	硬質頁岩		
369	X79Y47	Ⅲ	161.0	剥片	4.4	2.5	0.6	6.3	硬質頁岩		
372	X76Y47	Ⅲ	163.5	調整痕ある剥片	1.8	0.5	0.3	0.3	硬質頁岩		
376	X77Y46	Ⅳb	128.0	細石刃	1.5	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
377	X79Y47	Ⅲ	161.0	剥片	1.7	1.4	0.2	0.6	硬質頁岩		
378	X79Y46	Ⅳb	127.0	礫器	9.7	9.2	7.8	920.0	細粒安山岩		76
379	X77Y46	Ⅳb	122.0	剥片	2.3	1.6	0.1	0.8	硬質頁岩		
381	X78Y47	Ⅲ	165.5	剥片	1.6	0.8	0.2	0.6	硬質頁岩		
382	X79Y47	Ⅲ	166.0	剥片	3.2	2.7	0.3	3.9	硬質頁岩		
383	X79Y47	Ⅲ	166.5	剥片	1.3	0.8	0.3	0.6	硬質頁岩		
384	X79Y47	Ⅲ	168.0	剥片	4.6	3.9	0.7	11.4	硬質頁岩		
386	X78Y48	黒褐色層	167.5	剥片	3.8	3.0	0.6	5.3	硬質頁岩		
388	X77Y46	Ⅳb	118.5	礫器	−	−	−	−	ホルンフェルス	324と接合。	78
389	X79Y48	Ⅲ	172.5	剥片	1.3	0.7	0.1	0.1	硬質頁岩		
390	X76Y44	Ⅳb	95.5	剥片	1.1	1.8	0.4	0.4	硬質頁岩		
391	X76Y45	Ⅳb	123.5	細石刃	1.95	0.7	0.2	0.3	黒曜石		68
392	X77Y46	Ⅳb	123.0	剥片	2.1	2.1	0.2	1.3	硬質頁岩		
395	X79Y47	Ⅳa	165.0	剥片	1.2	1.3	0.2	0.1	硬質頁岩		
397	X79Y47	Ⅳa	174.0	礫器	10.6	10.9	7.1	730.0	黒色頁岩		77
401	X78Y47	Ⅲ	168.0	スキー状剥片	1.1	6.3	1.7	12.0	硬質頁岩		66
402	X78Y48	Ⅳa	180.5	剥片	6.2	4.2	0.8	21.6	硬質頁岩		
403	X78Y48	Ⅳa	188.0	礫器	11.9	9.3	4.4	680.0	頁岩		77
404	X78Y48	Ⅳa	186.0	礫器	6.3	10.8	5.5	510.0	黒色頁岩		
405	X78Y47	Ⅳa	175.0	剥片	2.0	1.2	0.2	0.4	硬質頁岩		
406	X79Y47	Ⅲ	177.0	剥片	7.0	4.2	0.4	13.6	硬質頁岩		
407	X79Y47	Ⅲ	177.5	剥片	2.0	0.8	0.2	0.6	硬質頁岩		
414	X79Y46	Ⅳa	164.5	削器	6.9	3.9	0.6	21.6	硬質頁岩		73
415	X78Y47	Ⅳa	174.0	細石刃	1.3	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
416	X79Y47	Ⅳa	181.0	剥片	1.1	1.5	0.2	0.3	硬質頁岩		
417	X79Y47	Ⅳa	174.0	剥片	1.4	1.1	0.2	0.4	硬質頁岩		
418	X79Y47	Ⅳa	173.0	剥片	2.5	2.1	0.3	1.5	硬質頁岩		
419	X79Y47	Ⅳa	172.0	剥片	2.7	2.2	0.3	1.6	硬質頁岩		
420	X77Y46	Ⅳa	119.0	剥片	1.5	1.1	0.1	0.05	硬質頁岩		
421	X78Y48	Ⅲ	176.0	細石刃	1.5	0.6	0.1	0.05	硬質頁岩		
422	X78Y47	Ⅳa	177.0	調整痕ある剥片	2.7	1.3	0.3	1.0	硬質頁岩		
423	X78Y47	Ⅲ	178.5	剥片	1.8	0.9	0.1	0.05	硬質頁岩	被熱有り。	
424	X78Y47	Ⅲ	177.0	剥片	2.5	1.7	0.1	0.8	硬質頁岩		
425	X78Y47	Ⅲ	179.5	剥片	1.3	1.0	0.3	0.2	硬質頁岩		
426	X79Y47	Ⅲ	177.5	剥片	1.5	1.5	0.2	0.7	硬質頁岩		
427	X79Y47	Ⅲ	189.0	剥片	2.5	1.5	0.2	0.6	硬質頁岩		
432	X79Y47	Ⅳa	173.5	剥片	5.6	3.5	0.4	9.3	硬質頁岩		
435	X77Y46	Ⅳa	131.5	彫器削片	1.5	0.3	0.1	0.05	硬質頁岩		
436	X77Y45	Ⅳb	117.5	剥片	1.1	0.9	0.1	0.2	硬質頁岩		
437	X76Y45	Ⅳb	119.5	彫器削片	0.6	2.3	0.3	0.2	硬質頁岩		70
438	X76Y45	Ⅳb	114.5	細石刃	2.5	0.5	0.2	0.3	硬質頁岩		
439	X77Y45	Ⅳb	129.0	剥片	0.8	2.1	0.2	0.2	硬質頁岩		
440	X77Y45	Ⅳb	129.0	調整痕ある剥片	4.6	2.3	0.3	3.5	硬質頁岩		
441	X78Y47	Ⅳa	164.5	剥片	1.6	0.5	0.5	0.7	硬質頁岩		
442	X78Y47	Ⅳa	163.5	破片	1.1	0.7	0.1	0.1	硬質頁岩		
443	X78Y47	Ⅳa	165.0	剥片	3.4	1.5	0.3	2.3	硬質頁岩		
444	X78Y47	Ⅳa	169.0	剥片	2.7	3.0	0.7	6.9	硬質頁岩		
446	X78Y47	Ⅳa	170.0	剥片	1.9	1.1	0.2	0.5	硬質頁岩		
447	X77Y45	Ⅳb	123.0	細石刃	1.3	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		

番号	出土位置	層 位	レベル値	器 種	長さ	幅	厚さ	重さ	石 質	備 考	Fig.
449	X78Y46	Ⅳb	127.0	楔 石 刃	1.5	0.5	0.1	0.1	硬質頁岩		
450	X76Y44	Ⅳb	98.0	彫器削片	0.7	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
451	X78Y47	Ⅲ	174.0	剥 片	1.2	1.6	0.2	0.6	硬質頁岩		
452	X76Y44	Ⅳa	169.5	楔 石 刃	2.5	0.85	0.35	0.4	硬質頁岩		68
453	X77Y45	Ⅳb	111.0	楔 石 刃	2.0	0.7	0.2	0.2	硬質頁岩		68
454	X77Y45	Ⅳb	110.0	楔 石 刃	2.85	0.65	0.25	0.3	硬質頁岩		68
455	X77Y45	Ⅳb	120.5	削 器	2.4	2.5	0.4	3.6	硬質頁岩		
456	X77Y45	Ⅳb	128.5	剥 片	3.2	1.2	0.1	0.6	硬質頁岩		
460	X77Y45	Ⅳb	127.0	剥 片	2.5	1.4	0.3	0.7	硬質頁岩		
462	X77Y45	Ⅳb	124.0	調整ある剥片	2.5	1.0	0.3	0.8	硬質頁岩		
463	X77Y46	Ⅳb	134.0	彫器削片	0.6	1.9	0.3	0.2	硬質頁岩		70
464	X77Y46	Ⅳb	130.5	削 器	1.6	1.7	0.2	0.6	硬質頁岩		
465	X78Y45	Ⅳb	119.5	楔 石 刃	1.9	0.4	0.1	0.1	硬質頁岩		
466	X78Y47	Ⅳa	170.5	剥 片	2.0	2.2	0.4	2.2	硬質頁岩		
467	X78Y47	Ⅲ	162.5	剥 片	4.0	2.3	0.4	2.4	硬質頁岩		
468	X79Y47	Ⅳa	172.5	剥 片	1.9	1.5	0.3	1.0	硬質頁岩		
469	X79Y47	Ⅳa	186.0	楔 付 削 片	1.95	6.9	2.25	21.8	硬質頁岩		66
470	X78Y47	Ⅳa	174.0	剥 片	1.1	1.2	0.2	0.4	硬質頁岩		
471	X78Y47	Ⅲ	164.5	使用痕ある剥片	7.0	5.1	0.9	32.4	硬質頁岩		
472	X78Y47	Ⅳa	183.0	剥 片	1.2	0.6	0.2	0.2	硬質頁岩		
473	X78Y47	Ⅳa	178.5	剥 片	1.7	1.4	0.1	0.5	硬質頁岩		
476	D区覆土	−	−	彫器削片	0.8	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
477	D区覆土	−	−	破 片	0.5	0.3	0.1	0.05	硬質頁岩		
478	D区覆土	−	−	彫器削片	0.8	0.2	0.1	0.05	硬質頁岩		
479	D区覆土	−	−	剥 片	2.3	0.9	0.1	0.2	硬質頁岩		
481	D区覆土	−	−	彫刻刀型石器	3.1	2.0	0.6	4.2	硬質頁岩	充屋型彫器。	69
484	D-148覆土	−	−	剥 片	2.3	0.8	0.2	0.4	硬質頁岩		
485	D区覆土	−	−	磯 器	5.2	4.2	1.2	26.8	硬質頁岩		
486	H−54覆土	−	−	剥 片	2.6	2.4	0.4	3.4	硬質頁岩		
487	D区覆土	−	−	細 石 刃	1.5	0.4	0.1	0.1	硬質頁岩		
488	D区覆土	−	−	剥 片	1.6	0.7	0.2	0.2	硬質頁岩		
489	D区覆土	−	−	細 石 刃	0.8	0.6	0.1	0.05	硬質頁岩		
490	D区覆土	−	−	破 片	1.0	0.7	0.1	0.05	硬質頁岩		
491	D区覆土	−	−	剥 片	1.7	1.5	0.2	0.8	硬質頁岩		
493	J−8覆土	−	−	剥 片	2.8	1.7	0.3	2.3	硬質頁岩		
498	D区覆土	−	−	破 片	1.2	0.4	0.1	0.05	硬質頁岩		
500	D区覆土	−	−	剥 片	1.9	1.4	0.2	0.8	硬質頁岩		
501	D区覆土	−	−	剥 片	3.7	2.5	0.8	11.8	硬質頁岩		
502	D区覆土	−	−	破 片	1.1	0.9	0.1	0.2	硬質頁岩		
504	D区覆土	−	−	破 片	0.9	0.3	0.1	0.05	硬質頁岩		
505	D-148覆土	−	−	剥 片	2.2	3.0	0.3	2.9	硬質頁岩		
506	D区覆土	−	−	剥 片	1.8	1.4	0.2	0.4	硬質頁岩		
508	D区覆土	−	−	破 片	0.9	1.2	0.1	0.2	硬質頁岩		
511	D区表採	−	−	細 石 刃	2.0	0.8	0.3	0.2	黒 曜 石		68
512	D区表採	−	−	細 石 刃	1.2	0.6	0.1	0.1	硬質頁岩		
513	D区表採	−	−	細 石 刃	1.6	0.7	0.1	0.2	硬質頁岩		

注）本表は、今回検出されたもののうち、硬質頁岩質のもの、礫器、ストーンリクッチャー、黒曜石質の細石刃を明らかに旧石器と判断されるものとして登載した。その他の検出物についても旧石器である可能性を残しており、今後検討の余地のあることを付記しておく。
表の記載のうち、
① レベル値の単位はcmであり、機械高は132.0mである。
② 長さ・幅・厚さ・重さの単位はcm、gであり、№324・388以外はすべて現存値である。

Ⅵ　ま　と　め

遺跡の地形について

赤城山はその裾野を四方に長くひき、山頂部より流れ出る河川によって幾多の開析谷を刻みつけている。鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡は、南麓に南北に流れる藤沢川と寺沢川にはさまれた舌状台地の西、藤沢川側寄りに位置する。巨視的には南へ傾斜し、微視的には上方が北西に、下方が南東に傾く。さらにこの２本の河川の間には小河川４本が南流しており、現地形を見ると、舌状台地と小河川により形成された開析谷（谷地）が入り組み、それぞれを挟み合うように混在している。開析谷では、狭隘ではあるが水田が営まれている。調査区西寄りの台地と藤沢川の低所では崖をなす。同様に調査区東寄りと五代町にあたる台地も崖状の地形を呈している。この比高は現状で約２～６ｍに及んでいる。そして、この斜面の末端部は比高差10ｍ前後の直線的な段丘崖をなしており、旧利根川によって形成された広瀬川低地帯に接している。こうした中に所在する本遺跡では、舌状台地上には濃密な遺物の散布が見られたが、谷地状の地形をなす低地部分では、散布はほとんど認められなかった。また、その出土遺物を見ると、弥生時代の遺物こそ確認されなかったものの旧石器から近世までに及び、住居址等の遺構の存在も容易に推測された。特に、今回集中分布域から検出された多量の細石刃文化石器群は、当地域が約13,000年以上前の旧石器時代より生活圏として機能していたことを示すものである。小丘陵と小河川からなるこの地は、先人居住の好適地となっていたとみて差し支えないであろう。

遺構について

本遺跡地内では、縄文・古墳・歴史時代の竪穴住居址、工房址、掘立柱遺構、土坑、溝址、井戸址、そして旧石器の分布域（Fig. 12～14）が検出・確認された。旧石器の大部分は、調査区Ｄ区（Fig. 18）内舌状台地末端の表土より約50㎝、約13,000年前に堆積した浅間黄色軽石層直下の関東ローム層中（Fig. 5）より検出された。分布域は舌状台地末端の北東から南西にかけて展開し、さらに調査区外に延びることが想定されたが、調査区内では、大きく２つの集中ブロックが確認された。検出数は明らかに細石刃文化石器群と認められるものだけでも350点余りに及ぶ。器種も細石核、細石刃、スキー状削片、彫刻刀型石器、削器、掻器、礫器など多岐に及び、今後の旧石器研究に貴重な情報を提供してくれるものも少なくない。石材の大半は、他地域（東北地方、北陸地方の日本海側の第三紀層か）で産出される硬質頁岩であるが、それらがどのような搬入経路で当地域に持ち込まれるに至ったかは措定の域を出ない。しかし、剥片、砕片等も数多く検出されていることから、持ち込まれた素材がここで製品に加工・製作されていた可能性は十分に考えられる。いずれにしても、これらの集中分布は、一定期間の継続した人間生活の痕跡を示すものであり、当地域が約13,000年以上前の旧石器時代より歴史を重ねてきたことを物語るものとなろう。

本遺跡地内に遺構が出現するのは、縄文時代前期からである。縄文住居址は、Ａ区（Fig. 15）を除く各調査区より計６軒を検出、また縄文の土坑数基を検出した。うちＤ－123号土坑（Fig. 49）からは、ほぼ完形をとどめる注口土器（Fig. 58）が出土した。土坑からこの種の土器が検出される例は少なく、どのような目的で入れられたのか興味深い。

前年度の鳥取福蔵寺遺跡では、縄文期以降で最も古い住居址の検出は７世紀中葉であったが、本遺跡地では西側台地（本書では調査区内外の舌状台地を東から東側台地、中央台地、西側台地と呼称し、

開析谷を東からA～C谷と呼称する・Fig. 6）末端のA区より4世紀中葉の住居址（H－51号住居址・Fig. 24）が確認されたほか、中央台地に位置するD・E区（Fig. 18・19）においても、5世紀末～7世紀初頭の古墳時代の住居址（H－61・86号住居址等、Fig. 28・40）計12軒が検出された。炉址を有するのは最も古いH－51号のみである。また、竈位置及び主軸方向が西・南・南西・北東のもの（6世紀初頭～7世紀初頭）が各1軒、1辺が7m近くに及ぶ大型のもの（6世紀後半～7世紀初頭）がうち2軒を占めた。4～5世紀代にややブランクがあるものの、このことから当地域では、住居が古墳時代前期よりほぼ連続して構築されていたことが分かる。なお、6世紀末～7世紀初頭の大型の住居址H－61号は、西に位置する竈の南側面に方形の貯蔵穴を有し、その形状・規模等が芳賀北原遺跡において確認された住居址に類似しており、同遺跡との関連性を示唆するものである。

奈良～平安時代の住居址の検出は29軒に及んだ。時期的には、7世紀後半から11世紀初頭にかけてのものである。形状は、竈が東壁中央から南寄りになるなど若干の違いはあるものの、いずれも正方形に近い10㎡前後の小型住居址が中心であり、竈の形態や主軸方向も近似性を呈している。これらの大半は、先の縄文・古墳時代住居址と形状、主軸方向等は一線を画しているものの、ほぼ同一場所に占地している。また、西側台地上に位置する前年度調査区A－2・3区、B－1区（Fig. 6）、本遺跡調査区A・B区（Fig. 15・16）より、4世紀中葉～11世紀初頭の住居址群が検出されていることから、同台地ではほぼ全域にわたり住居が進出し、一集落を形成していたと推察できる。さらに、B谷を挟んで北東に位置する中央台地においても、D・E区より5世紀末～10世紀末までの住居址群が確認されており、それらの検出状況から同台地もほぼ全域が居住域として機能していたと考えられる。ただし、同台地では舌状末端に近づくにつれ、H－66号住居址（Fig. 29）を最後に、以南には古墳時代住居址は確認されなくなることから、同時期には以南における住居構築は条件的に不適当であったものと思われる。当時の生活が水田耕作と不可分の関係をなしていたことを考え合わせれば、住居圏の進出には地形の安定とともにそれに伴う可耕地の拡大が欠くべからざるものとなろう。奈良～平安期には、政治的な意図も加わって、谷地を挟んだ台地上に前時代からの「伝統集落」を核として周辺部にひろがりを見せていったものとみられる。

C区を除く各調査区では、奈良・平安期を中心にこれらの住居址等の間で少なからず重複が見られた。D区では、8世紀末～9世紀前半にかけての、床面に旧周溝の痕跡を残す存続中に規模を広げたとみられる住居（H－54号住居址・Fig. 25）、9世紀初頭～前半の主軸を真東に変えた造り替えの住居（H－62・71号住居址・Fig. 29）が認められた。また、B・D・E区では最大3棟の重複（立て替え）を含む掘立柱建構9棟（Fig. 44～48）が確認された。うちB－4号（奈良時代後半）を除く8棟は、9世紀後半～10世紀後半に存続していたものとみられる。前年度調査区においても、10世紀後半の住居址5軒の重複が報告されており、8世紀～10世紀にかけて、本地域に住まう先人たちが、厳しい自然・社会環境の中で営々として大地にしがみついて生活していたことをうかがわせるものである。

B区より検出された工房址（Fig. 48）もこの溝中、9世紀後半～に機能していたとみられる。前年度調査区A－3区からは、9世紀中頃の精錬鍛冶炉が確認された。そして10世紀代の住居址より同炉で鍛造されたと思われる紡錘車、刀子などの出土を報告しており、本集落内での自前の鉄製品製造の可能性を示唆している。今回の工房址の検出はこの可能性をさらに肯定する資料となるものと言えよう。すなわち、本工房址はその形態等から鉄製品に関連する加工工房であったことが確認された。周囲に同遺構とほぼ時代を前後する住居址が検出されていることは、当時の集落内における鍛冶工人の存在を想定させるものである。このことは、当時の農村社会における鉄製農工具の重要性を示唆す

るものであり、本工房址が当時の集落に付随して、集落内で原料鉄を利用して鍛造・加工に携わっていた人々がいたことをうかがわせる。重複する10世紀代のH－56号住居址（Fig. 25）等からも鉄滓などの鉄製品が出土しており、本工房址及び先の精錬鍛治炉、ひいては拠点集落とみられる芳賀東部遺跡における製錬炉との関連から製鉄工程の流れを跡づける資料とすることができよう。このほか、A区では、前年度B－1区において中近世の在地有力土豪階級の屋敷の一部と目される遺構群が検出された整地箇所の延長とみられる部分も認められた。すなわち、A区ではロームの堆積は東に行くにつれ下降する。そのロームが落ち込む境目より、堅く締まった灰褐色土の堆積がローム平坦面とほぼ同じ高さにまで認められる。そしてこの部分に本来堆積していたとみられるAs－C、Hr－FPを含む黒褐色土層が削平された形跡が認められること、位置的にもB－1区整地部分の延長線上とほぼ重なることからも、同部分がB－1区の整地箇所の延長であり、300㎡を超える平地部分を造成していたことを推察させる。

以上、本遺跡について、前年度の調査成果と比較・検討しつつ、その課題を部分的にではあるが補いながら概観してきた。本遺跡においても、前年度同様、11世紀代を最後に住居址の検出は途絶えたが、先に述べた中近世における整地の延長部分とみられる箇所が確認されたことで、時代的な隔たりはあるものの、11世紀以降もこの地に集落が存続してきた可能性をより肯定的にとらえる資料を追加することができた。また今回、中央台地より住居址・掘立柱遺構群等が確認されたことで、西側台地とともにB谷を望む北東方面台地へも谷地部に想定される水田耕作と密接な係りをもつとみられる定着居住域が展開されていたであろうことがほぼ明らかになった。また、旧石器分布域の確認によって、当地域の歴史がはるか旧石器時代にまで遡ることも実証できた。もちろん、ごく限られた調査範囲から得られる情報は狭小かつ断片的なものである点は否めない。しかし、本調査によって、この地で生活を営んだ先人の足跡を知る上での貴重な資料が得られたものと考える。今後、当地域を含めた芳賀地区の調査の進展により、その歴史のより一層の解明がなされていくことを期待したい。

《参考文献》

前橋市教育委員会	(1984)	芳賀東部団地遺跡Ⅰ －古墳～平安時代編その１－
同	(1988)	芳賀東部団地遺跡Ⅱ －古墳～平安時代編その２－
同	(1990)	芳賀東部団地遺跡Ⅲ －縄文・中近世編－
同	(1984)	小神明遺跡群Ⅱ
同	(1987)	小神明遺跡群Ⅴ
同	(昭和56年度)	檜峯遺跡
同	(昭和58年度)	端気遺跡群Ⅱ
前橋市埋蔵文化財発掘調査団	(1990)	芳賀北曲輪遺跡
同	(1992)	芳賀北原遺跡
同	(1992)	五代檜峯Ⅱ遺跡
同	(1997)	鳥取福蔵寺遺跡
前橋市「地形地質」	(1971)	前橋市史
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団	(1993)	白草遺跡Ⅰ・北篠場遺跡（Ⅲ）

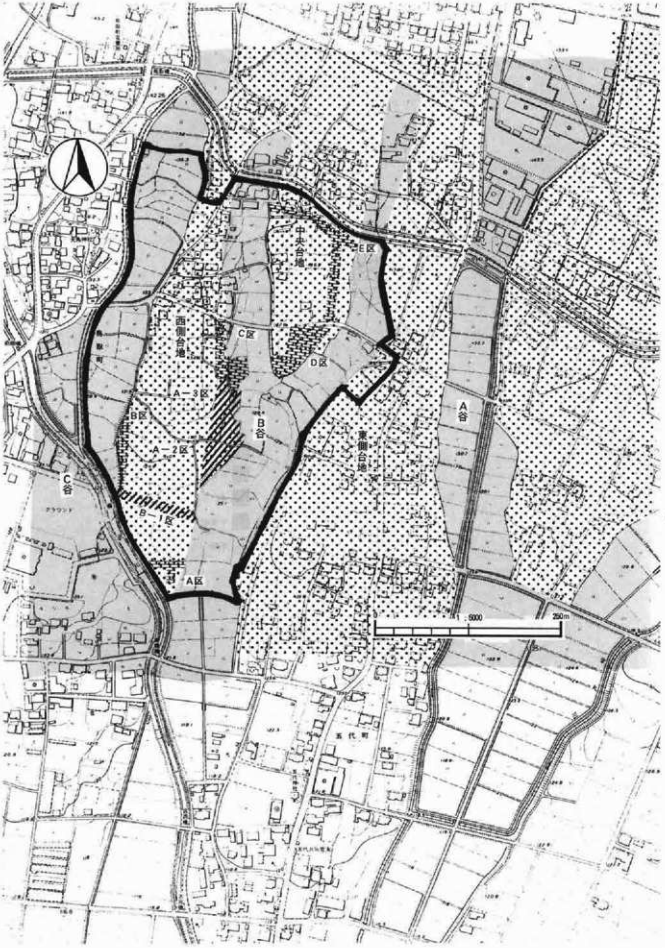


Fig. 6　遺跡地形図

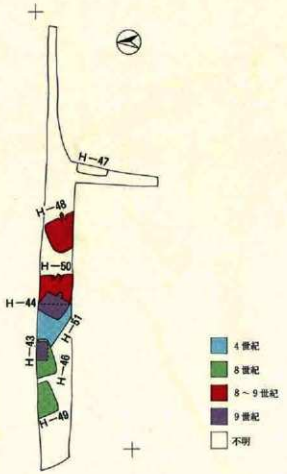


Fig. 7 遺構分布図（A区）

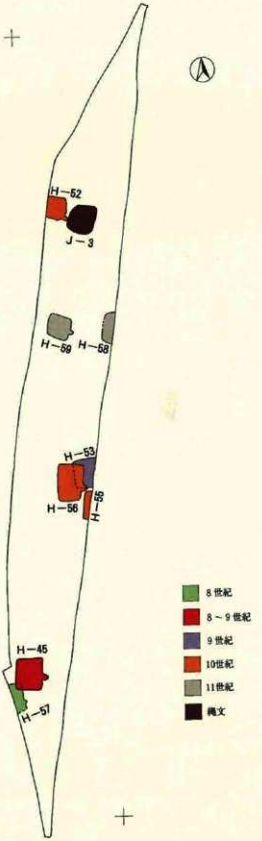


Fig. 8　遺構分布図（B区）

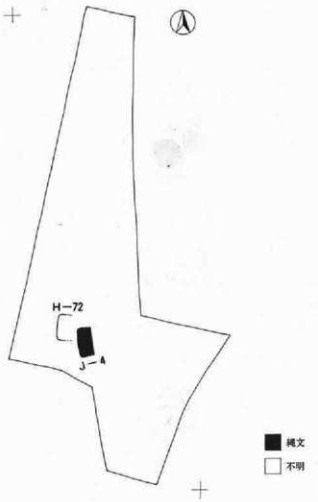


Fig. 9 遺構分布図（C区）

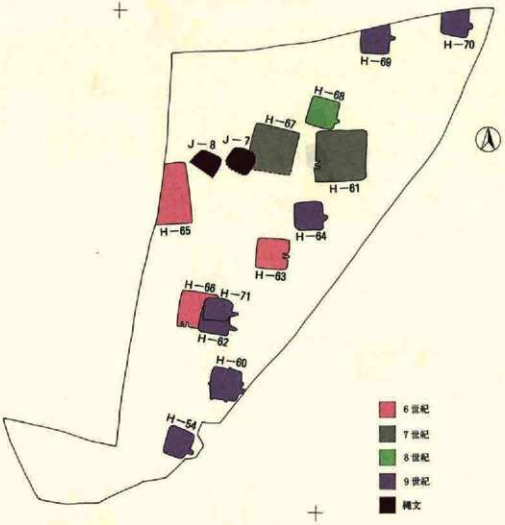


Fig. 10 遺構分布図（D区）

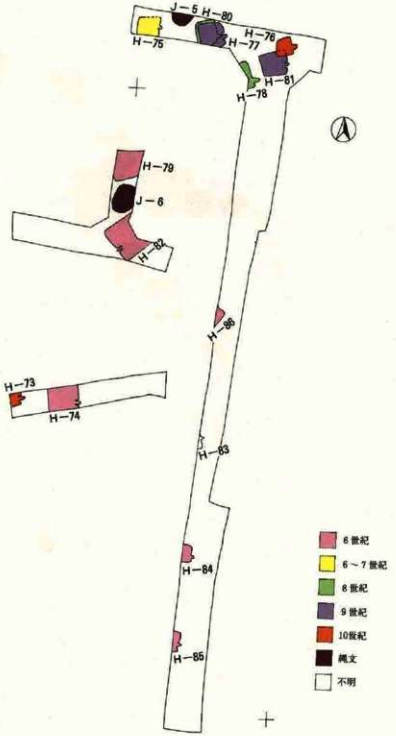


Fig. 11 遺構分布図（E区）

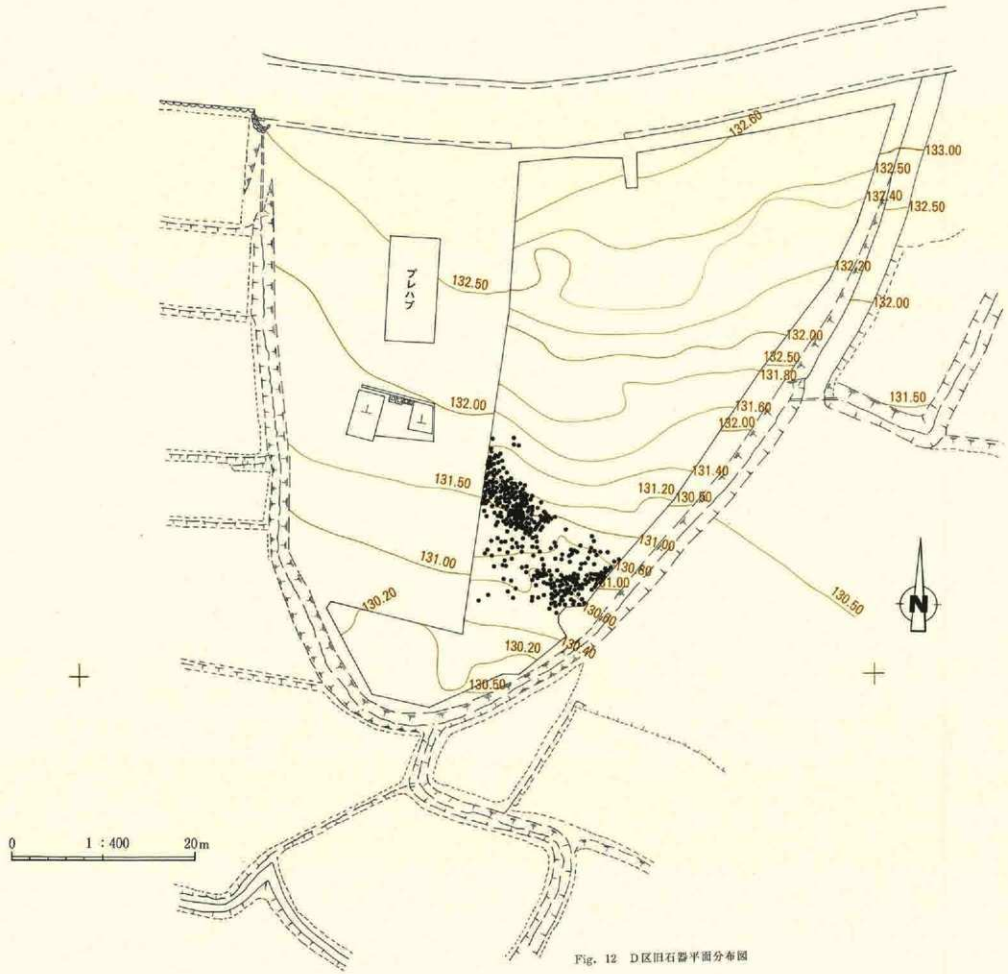


Fig. 12 D区旧石器平面分布図

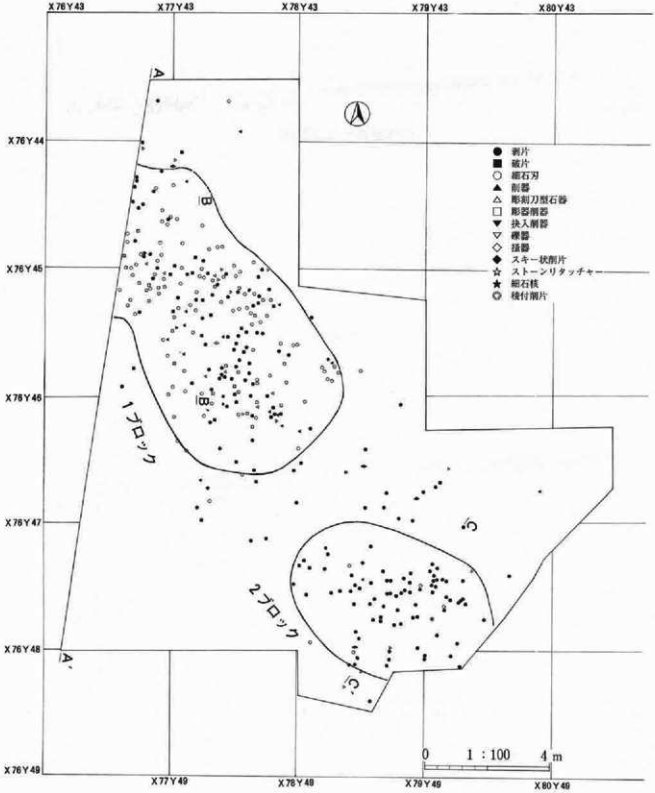
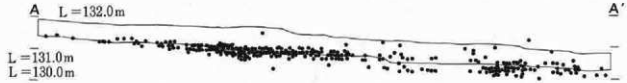
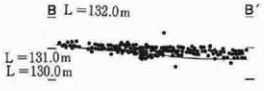


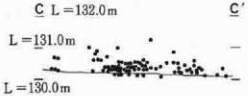
Fig. 13 D区旧石器器種別平面分布図



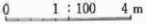
全体垂直分布（西壁）



1ブロック



2ブロック



注）分布図（Fig. 12～14）は、今回検出されたもののうち、旧石器と鑑定され、層位・レベル数値が明らかなものをとり上げ作成した。

Fig. 14　D区旧石器垂直分布図

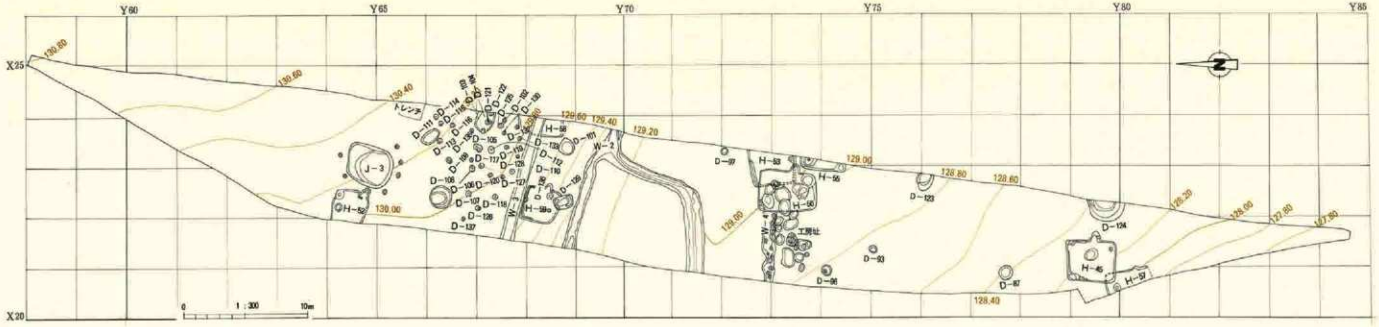


Fig. 16 遺跡・遺構全体図（B区）

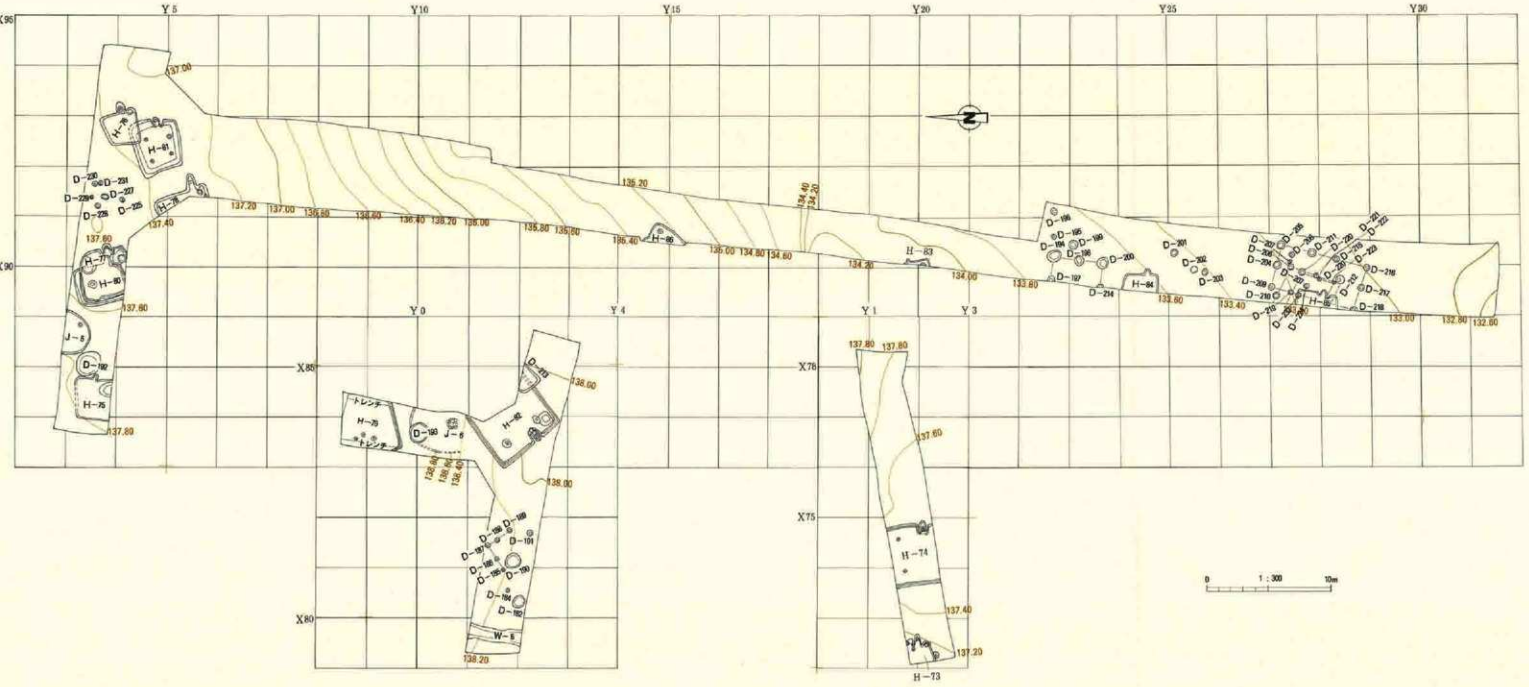


Fig. 19 遺跡・遺構全体図（E区）

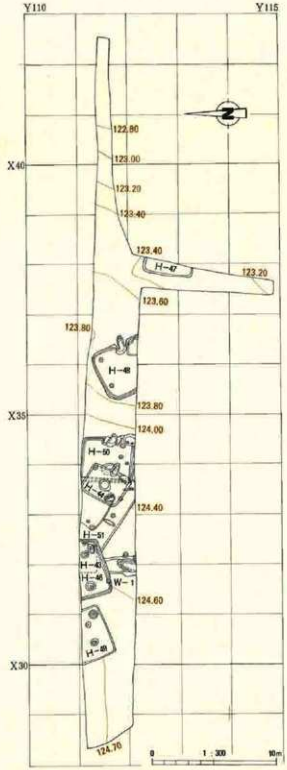


Fig. 15 遺跡・遺構全体図（A区）

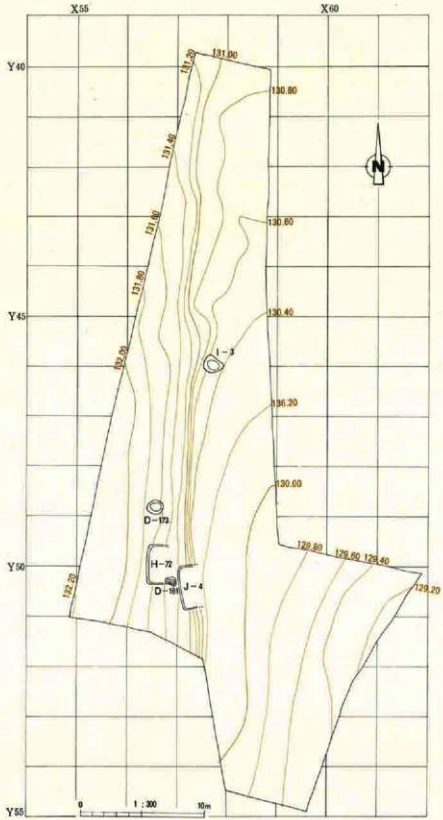
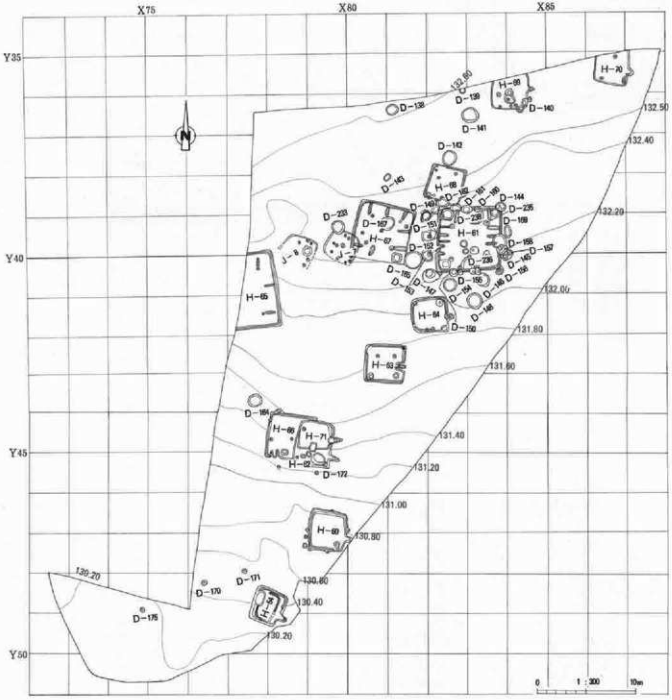


Fig. 17 遺跡・遺構全体図（C区）


X75
X80
X85
Y35
Y40
Y45
Y50
N
H-70
H-66
H-65
H-64
H-63
H-71
H-72
H-69
H-68
H-67
J-1
D-132
D-133
D-134
D-135
D-136
D-137
D-138
D-139
D-140
D-141
D-142
D-143
D-144
D-145
D-146
D-147
D-148
D-149
D-150
D-151
D-152
D-153
D-154
D-155
D-156
D-157
D-158
D-159
D-160
D-161
D-162
D-163
D-164
D-165
D-166
D-167
D-168
D-169
D-170
D-171

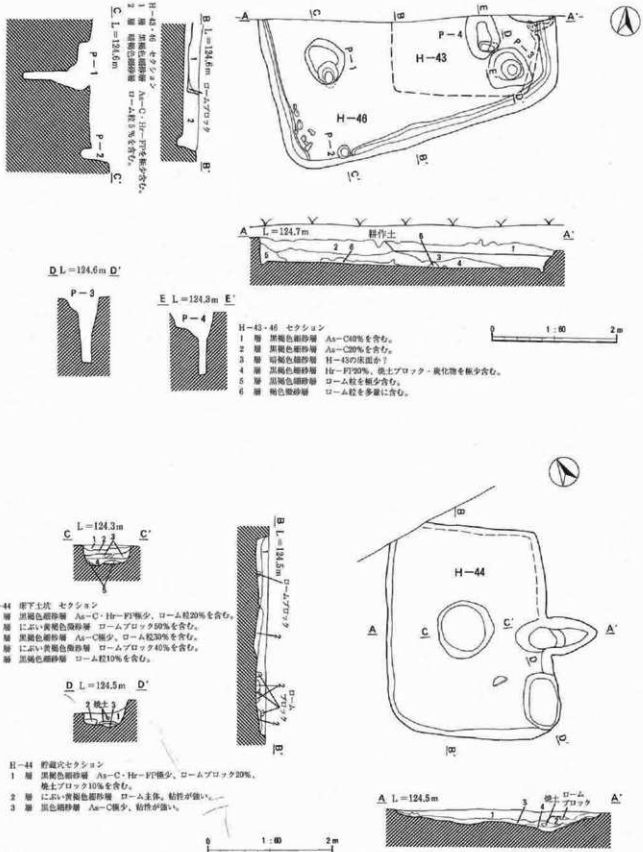
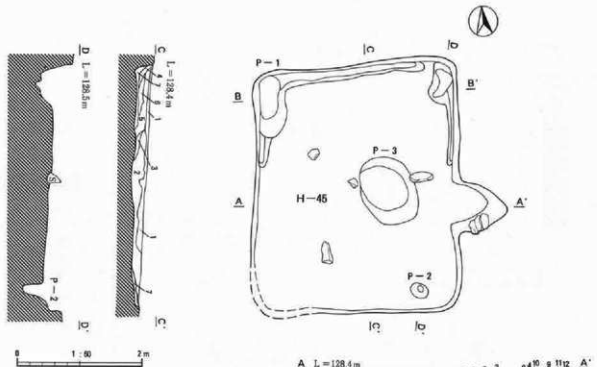
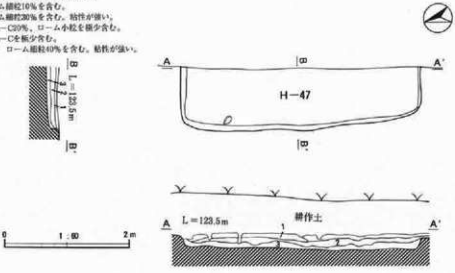


Fig. 20 H－43・44・46号住居址



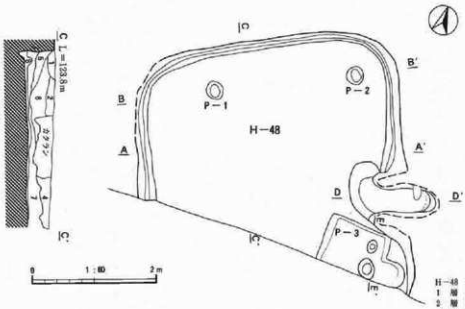
H－45 セクション
1 層 黒褐色微砂層 Aa－C・ローム小粒を微少含む。締まりが強い。
2 層 褐灰色細砂層
3 層 にぶい暗色微砂層 ローム小粒40%、焼土ブロック10%を含む。
4 層 にぶい黄褐色細砂層 ローム小粒・焼土ブロックを微少含む。
5 層 にぶい黄褐色微砂層 Aa－C30%、ローム小粒・焼土ブロックを微少含む。粘性が強い。
6 層 にぶい黄褐色微砂層 Aa－C10%、ローム粒粒を微少含む。粘性が強い。
7 層 にぶい黄褐色微砂層 焼土ブロック・炭化物を微少含む。粘性が強い。
8 層 黒褐色微砂層 ローム小粒・焼土ブロック・炭化物を微少含む。粘性が強い。
9 層 明黄褐色微砂層 上部に焼土ブロック混入、カマドの天井崩か？ 締まりが強い。
10 層 にぶい黄橙色微砂層 上部に焼土ブロック混入。カマドの天井壁か？締まりが強い。
11 層 黒褐色微砂層 焼土ブロック・炭化物混入。ローム細粒を微少含む。
12 層 褐灰色細砂層 焼土ブロック主体の層。
13 層 明黄褐色微砂層 粘性・締まりが強い。
14 層 褐灰色微砂層

H－45 セクション
1 層 灰黄褐色微砂層 Aa－Cを微少含む。
2 層 黒褐色微砂層 Aa－C20%を含む。粘性が強い。
3 層 黒褐色微砂層 ローム細粒10%を含む。
4 層 黒褐色微砂層 ローム細粒30%を含む。粘性が強い。
5 層 灰黄褐色微砂層 Aa－C20%、ローム小粒を微少含む。
6 層 灰黄褐色微砂層 Aa－Cを微少含む。
7 層 にぶい黄褐色微砂層 ローム細粒40%を含む。粘性が強い。



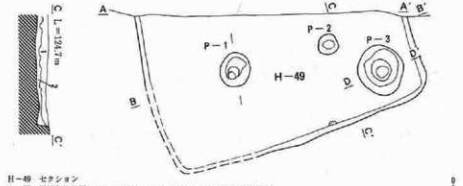
H－47 セクション
1 層 にぶい赤褐色細砂層 Aa－C30%を含む。固く締まる鉄分沈殿層。
2 層 暗褐色細砂層 Aa－C20%を含む。締まりが強い。
3 層 灰褐色細砂層 Aa－C10%を含む。

Fig. 21 H－45・47号住居址

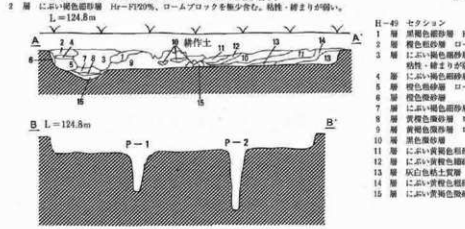


H−48 セクション
1 層 灰褐色細砂層 Hr−FP10%を含む。
2 層 灰褐色微砂層 Hr−FP30%を含む。
3 層 黒褐色微砂層 ローム粒40%を含む。
4 層 暗褐色細砂層 ローム粒20%含む。
5 層 黒色細砂層 ローム小粒10%を含む。
6 層 黒褐色微砂層 ローム小粒10%を含む。
7 層 黒褐色微砂層 ローム粒20%を含む。周溝部分。

H−48 セクション
1 層 灰褐色細砂層 Hr−FP20%、ローム小粒を極少含む。
2 層 褐色細砂層 Hr−FP極少、ローム小粒20%を含む。
3 層 褐色細砂層 ロームブロック30%を含む。
4 層 黒色細砂層 ローム小粒10%を含む。
5 層 黒灰色微砂層 カマド部分か？
6 層 黒褐色微砂層 ロームブロック30%を含む。
7 層 橙色微砂層 ローム主体層。
8 層 黒褐色微砂層 ロームブロックを極少含む。周溝部分。



H−49 セクション
1 層 黒褐色細砂層 Hr−FP10%、As−C・ロームブロックを極少含む。
2 層 にぶい褐色細砂層 Hr−FP20%、ロームブロックを極少含む。粘性・締まりが弱い。



H−49 セクション
1 層 黒褐色細砂層 Hr−FP20%、ローム粒を極少含む。
2 層 橙色細砂層 ローム主体層。
3 層 にぶい褐色微砂層 Hr−FP20%、ロームブロック50%を含む。粘性・締まりが弱い。
4 層 にぶい褐色細砂層 3層よりやや粘性・締まりあり。
5 層 橙色細砂層 ローム層、H−46カベ立ち上がり。
6 層 橙色微砂層
7 層 にぶい褐色細砂層
8 層 黄橙色微砂層 ローム層。粘性・締まりが強い。H−46の床面か？
9 層 黄橙色微砂層 ローム層。粘性・締まりが弱い。
10 層 黒色微砂層
11 層 にぶい黄褐色細砂層 ロームブロック10%を含む。
12 層 にぶい黄橙色細砂層 ロームブロック40%を含む。
13 層 灰白色粘土質層
14 層 にぶい黄色粗砂層 ローム小粒を極少含む。
15 層 にぶい黄褐色微砂層 ローム小粒を極少含む。

Fig. 22 H−48・49号住居址

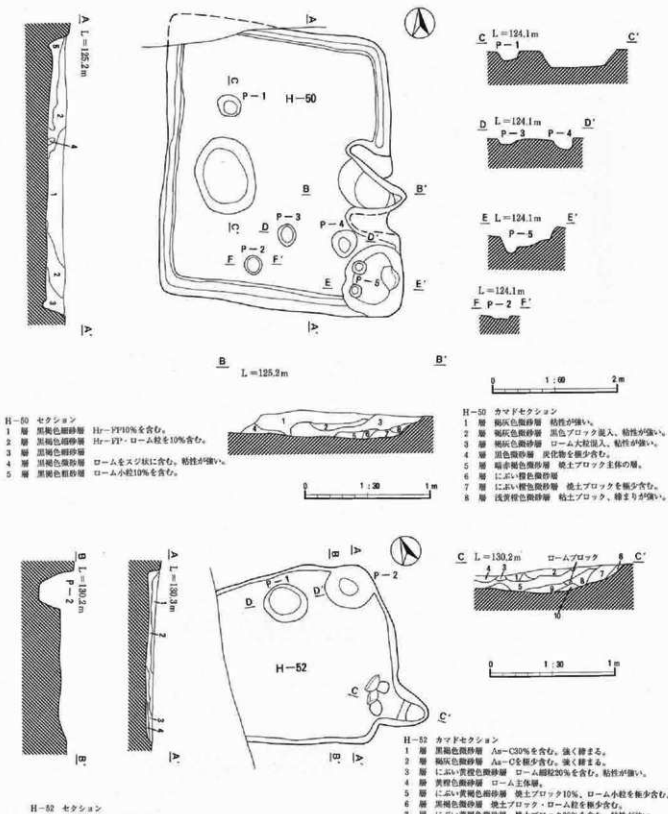


Fig. 23 H－50・52号住居址

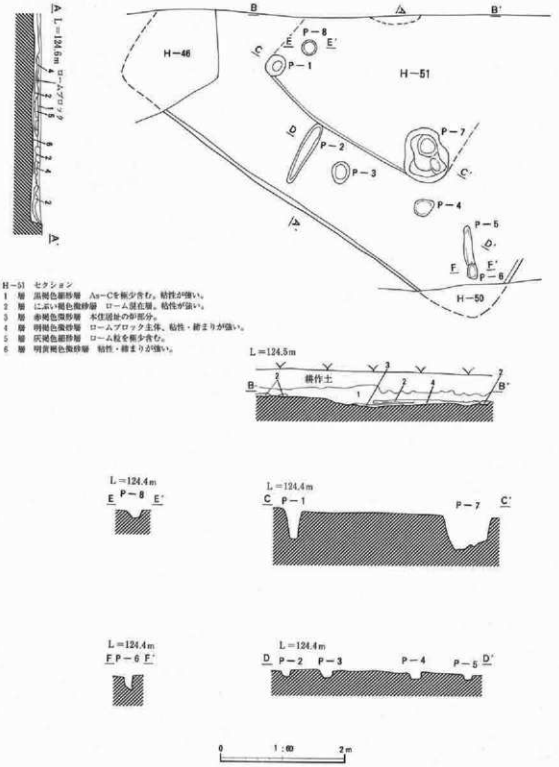


Fig. 24 H－51号住居址

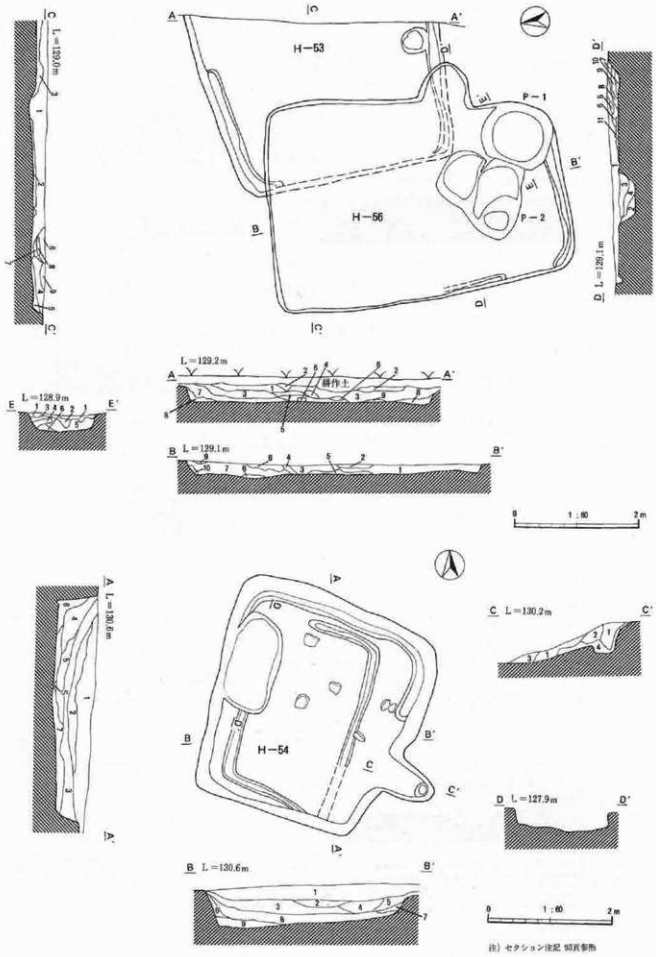
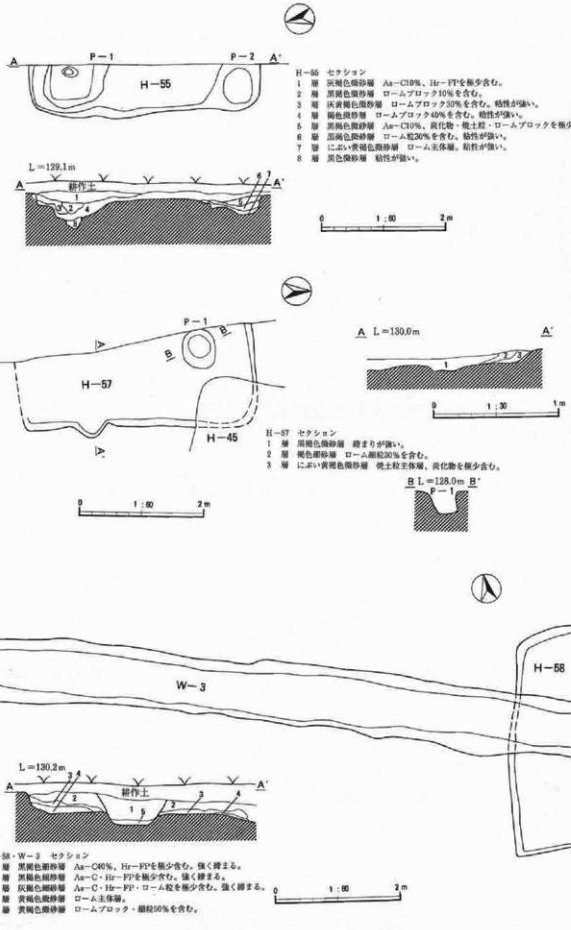


Fig. 25 H−53・54・56号住居址

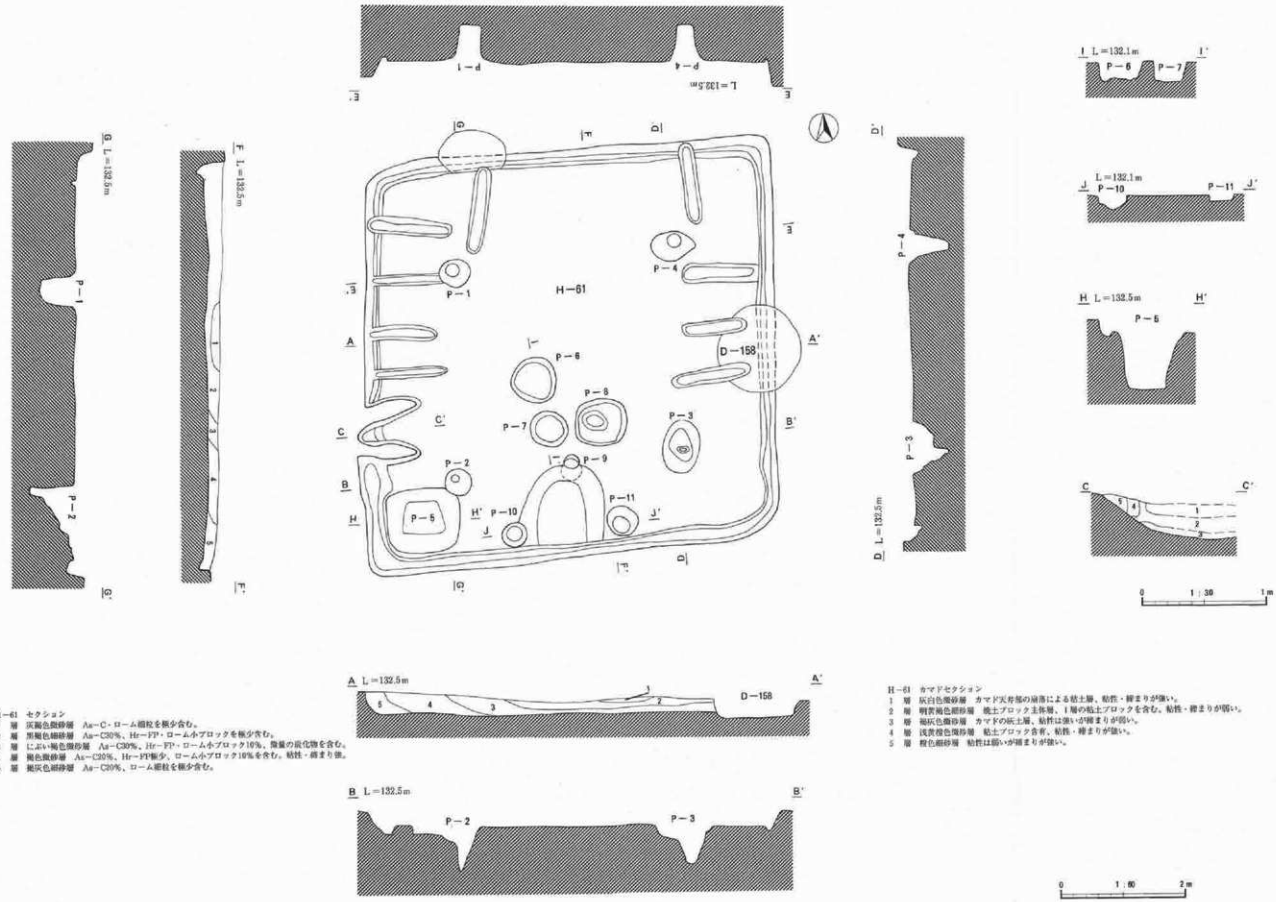


H－55　セクション
1　層　灰褐色微砂層　As－C10%、Hr－FPを極少含む。
2　層　黒褐色微砂層　ロームブロック10%を含む。
3　層　灰黄褐色微砂層　ロームブロック20%を含む。粘性が強い。
4　層　褐色微砂層　ロームブロック40%を含む。粘性が強い。
5　層　黒褐色微砂層　As－C10%、炭化物・焼土粒・ロームブロックを極少含む。
6　層　黒褐色微砂層　ローム粒20%を含む。粘性が強い。
7　層　にぶい黄褐色微砂層　ローム主体層。粘性が強い。
8　層　黒色微砂層　粘性が強い。

H－57　セクション
1　層　黒褐色微砂層　締まりが強い。
2　層　褐色微砂層　ローム細粒20%を含む。
3　層　にぶい黄褐色微砂層　焼土粒主体層、炭化物を極少含む。

H－58・W－3　セクション
1　層　黒褐色微砂層　As－C40%、Hr－FPを極少含む。強く締まる。
2　層　黒褐色微砂層　As－C・Hr－FPを極少含む。強く締まる。
3　層　灰褐色微砂層　As－C・Hr－FP・ローム粒を極少含む。強く締まる。
4　層　黄褐色微砂層　ローム主体層。
5　層　黄褐色微砂層　ロームブロック・細粒50%を含む。

Fig. 26　H－55・57・58号住居址、W－3号溝址



H－61 セクション
1 層 灰褐色微砂層 As－C・ローム粒を極少含む。
2 層 黒褐色細砂層 As－C20%、Hr－FP・ローム小ブロックを極少含む。
3 層 にぶい褐色微砂層 As－C20%、Hr－FP・ローム小ブロック10%、微量の炭化物を含む。
4 層 褐色微砂層 As－C20%、Hr－FP極少、ローム小ブロック10%を含む。粘性・締まり強。
5 層 褐灰色細砂層 As－C20%、ローム粒を極少含む。

H－61 カマドセクション
1 層 灰白色微砂層 カマド天井部の崩落による粘土層、粘性・締まりが強い。
2 層 明黄褐色細砂層 焼土ブロック主体層、1 層の粘土ブロックを含む。粘性・締まりが弱い。
3 層 褐灰色微砂層 カマドの袖土層、粘性は強いが締まりが弱い。
4 層 浅黄橙色微砂層 粘土ブロック含む、粘性・締まりが強い。
5 層 橙色細砂層 粘性は弱いが締まりが強い。

Fig. 28 H－61号住居址、D－158号土坑

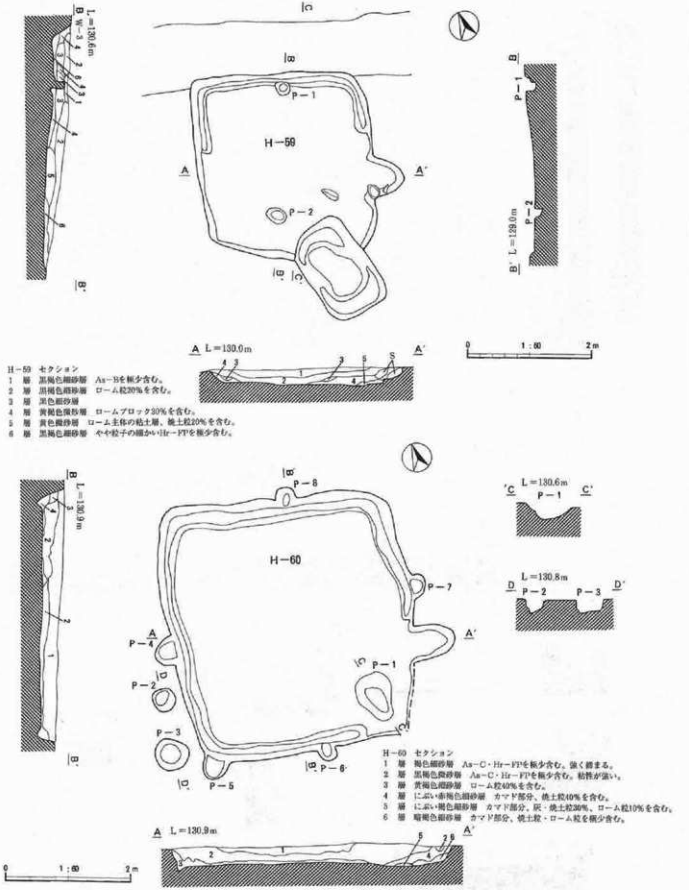


Fig. 27 H－59・60号住居址

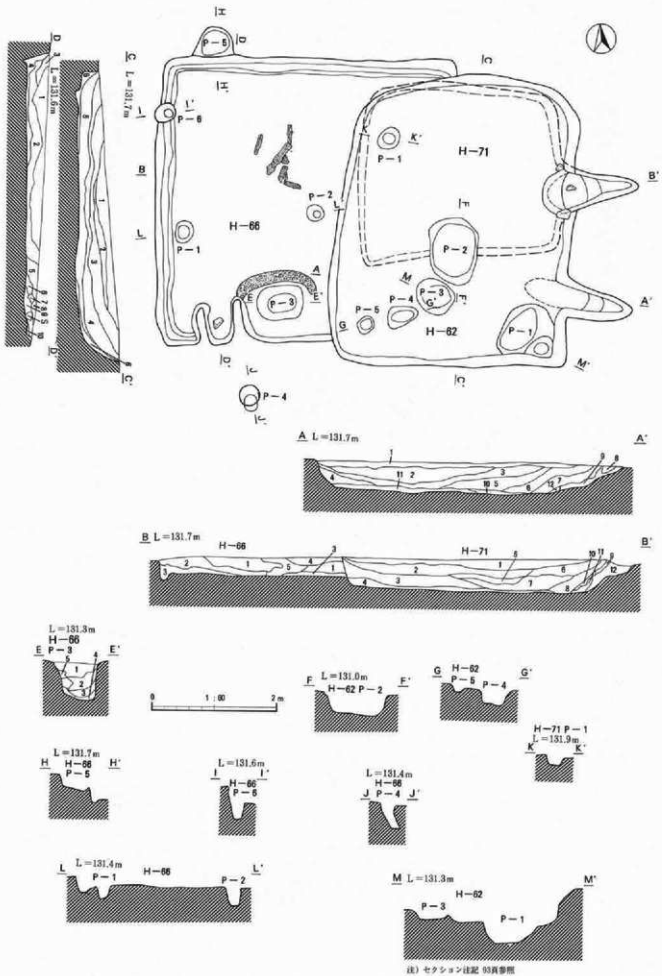


Fig. 29 H−62・66・71号住居址

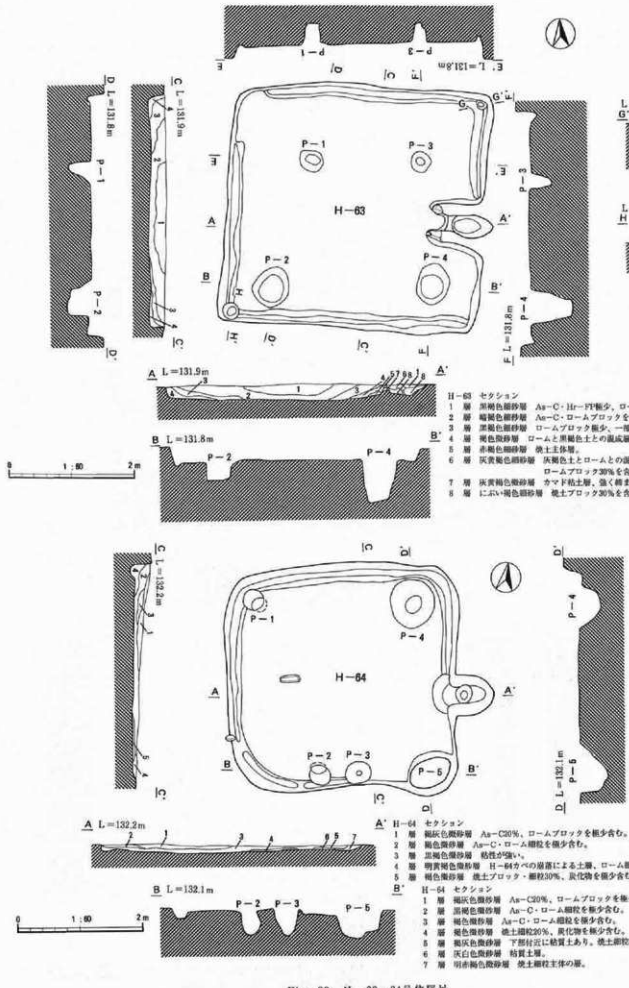
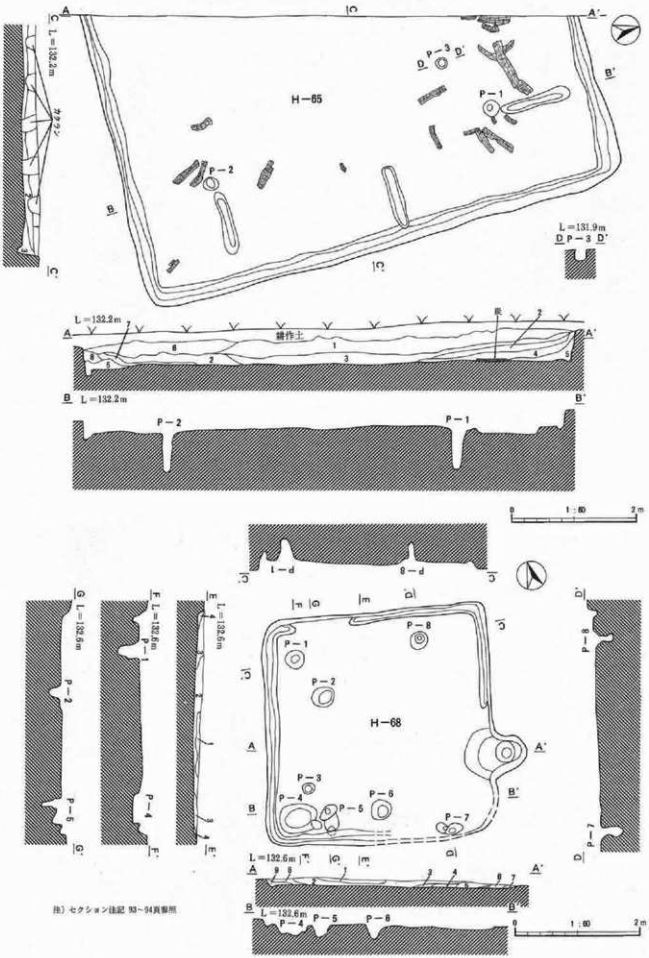
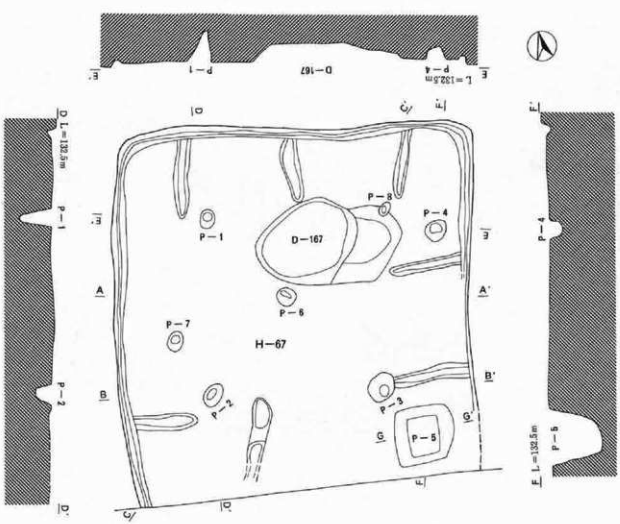


Fig. 30 H－63・64号住居址

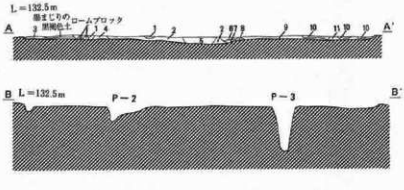


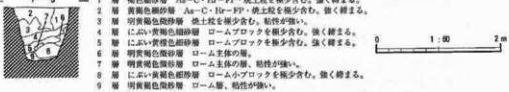
注）セクション注記 93～94頁参照

Fig. 31 H−65・68号住居址



H-67 セクション
1 層 褐灰色細砂層 As-C・Hr-FP 5 %を含む。
2 層 暗褐色細砂層 As-C・Hr-FP 5 %、ロームブロックを極少含む。
3 層 黄褐色微砂層 ローム主体の層。粘性が強い。
4 層 黒褐色細砂層 焼土粒・炭化物・ローム粒を極少含む。強く締まる。
5 層 褐灰色細砂層 As-C・Hr-FP・ローム粒を極少含む。
6 層 にぶい黄褐色細砂層 As-C・Hr-FP・ローム粒を極少含む。
7 層 にぶい黄褐色微砂層 ロームブロック混入、粘性が強い。
8 層 暗褐色細砂層 As-C・Hr-FP・焼土ブロックを極少含む。
9 層 褐色微砂層 粘性が強い。
10 層 黄褐色微砂層 焼土粒含有、粘性が強い。
11 層 にぶい黄褐色微砂層 微量の地土粒を含む。粘性が強い。





H-67 貯蔵穴セクション
1 層 暗色細砂層 As-C・Hr-FP・焼土粒を極少含む。強く締まる。
2 層 黄褐色細砂層 As-C・Hr-FP・焼土粒を極少含む。強く締まる。
3 層 明黄褐色微砂層 焼土粒を極少含む。粘性が強い。
4 層 にぶい黄褐色細砂層 ロームブロックを極少含む。強く締まる。
5 層 にぶい黄橙色細砂層 ロームブロックを極少含む。強く締まる。
6 層 明黄褐色微砂層 ローム主体の層。
7 層 明黄褐色微砂層 ローム主体の層、粘性が強い。
8 層 にぶい黄褐色細砂層 ローム小ブロックを極少含む。強く締まる。
9 層 明黄褐色微砂層 ローム層、粘性が強い。

0 1:60 2m

Fig. 32 H－67号住居址、D－167号土坑

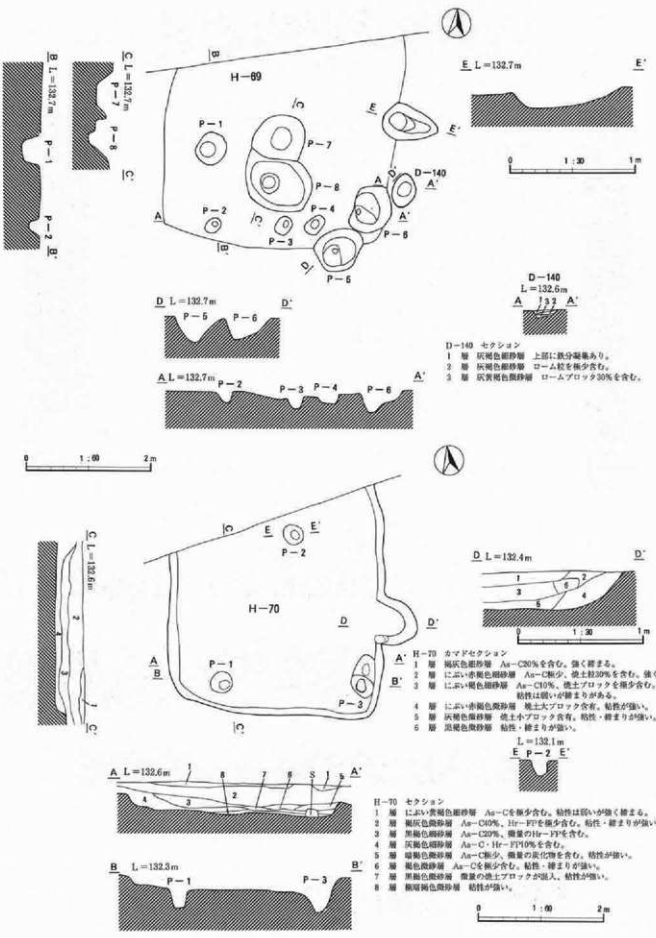
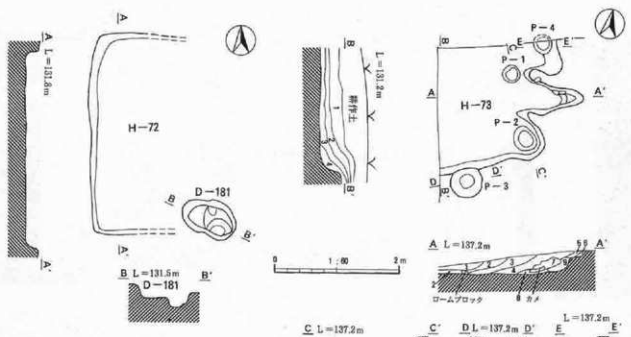
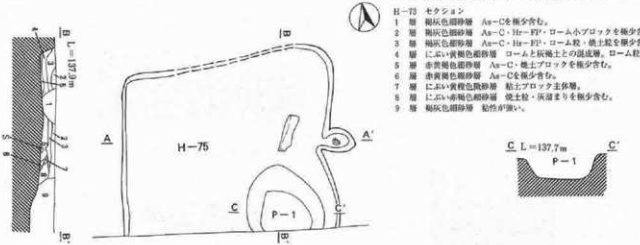


Fig. 33 H−69・70号住居址、D−140号土坑

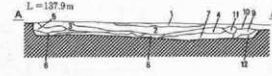


H－73 セクション
1 層 褐灰色細砂層 As－C・Hr－FP 5 %を含む。
2 層 褐灰色細砂層 As－C・Hr－FPを極少含む。
3 層 褐灰色細砂層 As－C・Hr－FP極少、微量のローム粒を含む。
4 層 にぶい黄褐色細砂層 ロームと灰褐色土との混成層。



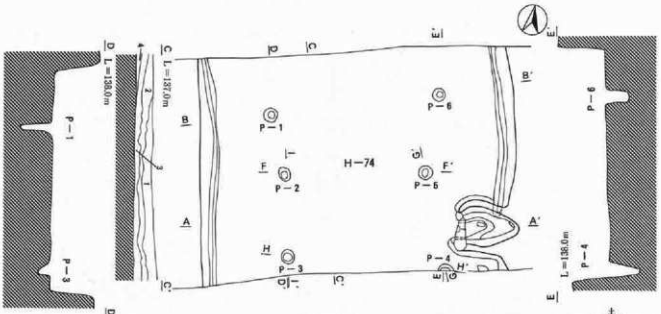
H－73 セクション
1 層 褐灰色細砂層 As－Cを極少含む。
2 層 褐灰色細砂層 As－C・Hr－FP・ローム小ブロックを極少含む。
3 層 褐灰色細砂層 As－C・Hr－FP・ローム粒・焼土粒を極少含む。
4 層 にぶい黄褐色細砂層 ロームと灰褐土との混成層。ローム粒を極少含む。
5 層 赤黄褐色細砂層 As－C・焼土ブロックを極少含む。
6 層 赤黄褐色細砂層 As－Cを極少含む。
7 層 にぶい黄橙色微砂層 粘土ブロック主体層。
8 層 にぶい赤褐色細砂層 焼土粒・炭混まりを極少含む。
9 層 褐灰色細砂層 粘性が強い。

H－75 セクション
1 層 黒褐色細砂層 As－C・Hr－FP・ロームブロック10%を含む。
2 層 黒褐色細砂層 粘性・硬まりともに強い。
3 層 黒褐色細砂層 As－C・Hr－FP・ロームブロック５%を含む。
4 層 灰褐色細砂層 ロームブロック５%を含む。粘性に乏しい。
5 層 明黄褐色細砂層 カマドのそで部分か？
6 層 褐灰色細砂層 焼土粒・炭化物を極少含む。
7 層 灰白色粗砂層 粘性・硬まりともに弱い。崩れやすい層。
8 層 黒褐色細砂層 As－C・Hr－FP・ローム粒10%を含む。
9 層 黒褐色細砂層 As－C・Hr－FP30%を含む。



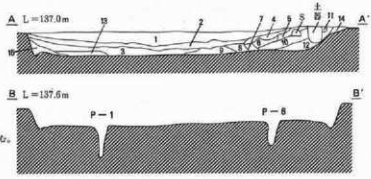
H－75 セクション
1 層 灰褐色細砂層 ロームブロック10%を含む。
2 層 褐色細砂層 As－C・Hr－FP10%を含む。
3 層 黒褐色細砂層 As－C・Hr－FP５%、ロームブロックを極少含む。
4 層 灰白色細砂層 カマドの灰か？
5 層 褐灰白色細砂層 As－C・Hr－FP・ローム粒を極少含む。
6 層 黒褐色細砂層 ロームブロック10%を含む。
7 層 褐色細砂層 ローム粒30%、焼土粒を極少含む。
8 層 褐色細砂層 ローム粒を極少含む。
9 層 灰褐色細砂層 焼土粒を極少含む。
10 層 明黄褐色細砂層 ローム粒・焼土細粒を極少含む。
11 層 褐色細砂層 ローム粒30%を含む。
12 層 明赤褐色細砂層 焼土主体層。

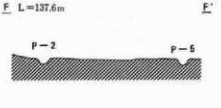
Fig. 34 H－72・73・75号住居址、D－181号土坑

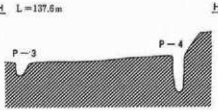


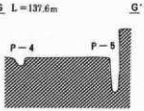
H−74 セクション

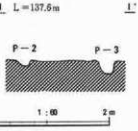
1 層 黒褐色土層 As−Cを40%、Hr−FPを弱く含む。
2 層 灰褐色土層 As−Cを40%、Hr−FPを微少、ローム細粒を弱く含む。
3 層 褐色土層 ロームブロックを含む。
4 層 黒褐色土層 ロームブロック、As−Cを弱く含む。
5 層 褐色土層 As−C微量、ロームブロック・焼土粒を弱く含む。
6 層 褐色土層 ロームブロック・焼土粒を弱く含む。
7 層 暗褐色土層 ロームブロック・焼土粒・炭化物を弱く含む。
8 層 灰黄褐色土層 Hr−FPを含む。
9 層 褐灰色土層 Hr−FPを含む。
10 層 にぶい赤褐色土層 焼土ブロック20%、焼土粒を強く、ローム細粒を含む。
11 層 にぶい赤褐色土層 焼土ブロック20%、焼土粒を強く・ロームブロックを強く含む。
12 層 赤褐色土層 焼土ブロック40%、焼土粒を強く含む。
13 層 褐色土層 Hr−FAと思われる灰を弱く含む。
14 層 褐色土層 焼土ブロック20%、ローム細粒を含む。
15 層 明褐色土層 ローム粒を含む。

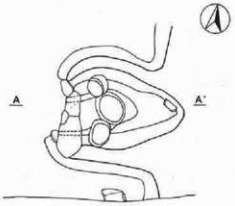












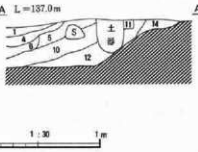
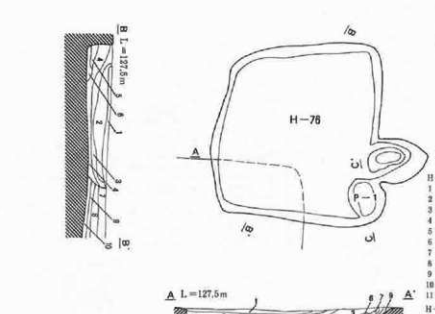
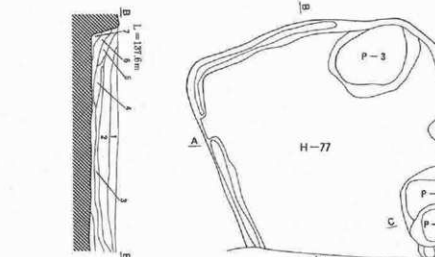


Fig. 35 H−74号住居址



H－76 セクション
1 層 褐灰色腐植層 粘性が強い が締まりは弱い。
2 層 褐灰色腐植層 微量のAa－C・ロームブロックを含む。
3 層 黒褐色腐植層 微量のAa－C・ロームブロック10%を含む。
4 層 褐灰色腐植層 微量のAa－C・ロームブロックを含む。
5 層 黒褐色腐植層
6 層 褐灰色腐植層 焼土ブロック10%を含む。締まりが弱い。
7 層 明黄褐色腐植層 カマド天井部のローム層。粘性が強い。
8 層 灰白色腐植層 粘性の強い床土体の層。
9 層 褐灰白色腐植層 微量の焼土ブロック含む。粘性が弱い。
10 層 赤褐色腐植層 焼土主体の層。
11 層 褐色腐植層 微量の焼土粒を含む。粘性が強い。

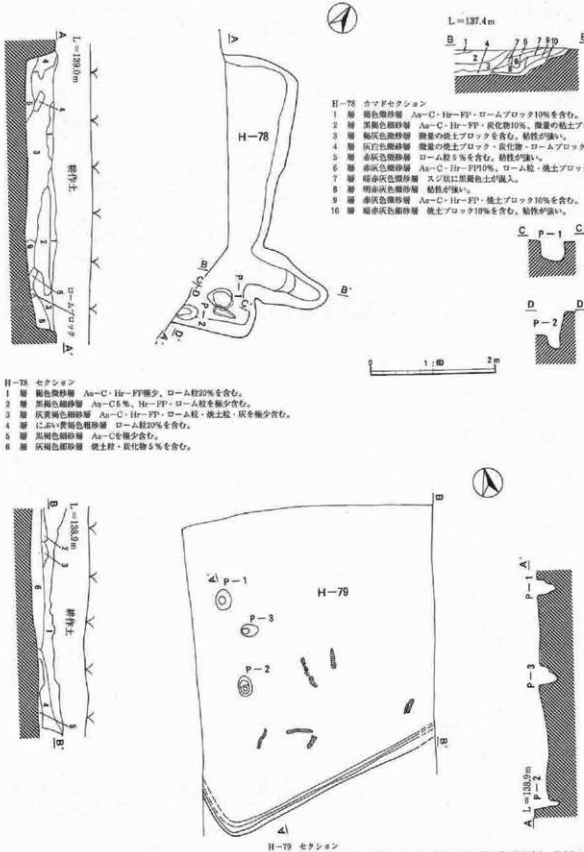
H－76 セクション
1 層 褐灰色腐植層 粘性は強いが締まりは弱い。
2 層 褐灰色腐植層 微量のAa－C・ロームブロックを含む。
3 層 黒褐色腐植層 微量のAa－C・ロームブロックを含む。
4 層 黒褐色腐植層 微量のAa－C・ローム小ブロックを含む。粘性が強い。
5 層 褐色腐植層 ローム層灯10%を含む。粘性が強い。
6 層 黒褐色腐植層 ロームブロック10%を含む。
7 層 褐色腐植層 ロームブロック10%を含む。
8 層 黒褐色腐植層
9 層 黒褐色腐植層 ロームブロック10%を含む。粘性が強い。
10 層 黒褐色腐植層 粘性・締まりが強い。



H－77 セクション
1 層 褐灰色腐植層 Aa－C30%、微量のHr－FPを含む。
2 層 褐灰色腐植層 Aa－C30%、微量のHr－FP・ローム粒・炭化物を含む。
3 層 黒褐色腐植層 Aa－C10%を含む。粘性・締まりが強い。
4 層 褐色腐植層 炭化物・焼土ブロック・焼土粒を極少含む。粘性が強い。
5 層 黒褐色腐植層 Aa－C・ロームブロックを極少含む。
6 層 褐色腐植層 ロームブロック・ローム細粒を極少含む。
7 層 灰黄褐色腐植層 Aa－C20%、ロームブロック40%を含む。粘性に乏しく崩れやすい。
8 層 褐灰色腐植層 Aa－C20%を含む。
9 層 褐色腐植層 Aa－C10%、ロームブロック40%を含む。
10 層 褐灰色腐植層 微量のAa－C・炭化物・ロームブロックを含む。粘性が強い。
11 層 褐灰色腐植層 粘性・締まりが弱い。
12 層 黄褐色腐植層 焼土粒10%を含む。
13 層 にぶい赤褐色腐植層 焼土粒40%、カマド天井部の焼土粒を含む。粘性・締まりが弱い。
14 層 にぶい赤褐色腐植層 焼土粒40%を含む。粘性・締まりが弱い。
15 層 灰白色腐植層 カマド天井部の崩落層か？粘性が強くかたく締まる。
16 層 灰黄褐色腐植層 焼土細粒3%を含む。粘性が強い。
17 層 赤褐色腐植層 焼土ブロック30%を含む。粘性が強い。
18 層 赤灰色腐植層 焼土細粒30%を含む。粘性が強い。
19 層 褐灰色腐植層 焼土細粒5%を含む。
20 層 褐灰色腐植層 ロームブロック40%を含む。粘性が強い。

H－77 セクション
1 層 褐灰色腐植層 Aa－C30%、微量のHr－FPを含む。
2 層 褐灰色腐植層 Aa－C20%、微量のHr－FP・ローム粒・炭化物を含む。
3 層 黒褐色腐植層 Aa－C10%を含む。粘性・締まりが強い。
4 層 褐色腐植層 炭化物・焼土ブロック・焼土粒を極少含む。粘性が強い。
5 層 暗褐色腐植層 Aa－C10%を含む。粘性が強い。
6 層 黒褐色腐植層 ローム細粒10%を含む。
7 層 褐灰色腐植層 ローム小ブロック40%を含む。粘性が強い。

Fig. 36 H－76・77号住居址



H-78 カマドセクション
1 層 褐色微砂層 Au-C・Hr-FP・ロームブロック10%を含む。
2 層 黒褐色細砂層 Au-C・Hr-FP・炭化物10%、微量の焼土ブロックを含む。
3 層 褐灰色微砂層 微量の焼土ブロックを含む。粘性が強い。
4 層 灰白色微砂層 微量の焼土ブロック・炭化物・ロームブロックを含む。
5 層 赤灰色微砂層 ローム粒5%を含む。粘性が強い。
6 層 赤灰色微砂層 Au-C・Hr-FP10%、ローム粒・焼土ブロック30%を含む。
7 層 暗赤灰色微砂層 スジ状に黒褐色土が混入。
8 層 明赤灰色微砂層 粘性が強い。
9 層 赤灰色微砂層 Au-C・Hr-FP・焼土ブロック10%を含む。
10 層 暗赤灰色細砂層 焼土ブロック10%を含む。粘性が強い。

H-78 セクション
1 層 褐色微砂層 Au-C・Hr-FP極少、ローム粒20%を含む。
2 層 黒褐色細砂層 Au-C5%、Hr-FP・ローム粒を極少含む。
3 層 灰黄褐色細砂層 Au-C・Hr-FP・ローム粒・焼土粒・灰を極少含む。
4 層 にぶい黄褐色粗砂層 ローム粒20%を含む。
5 層 黒褐色細砂層 Au-Cを極少含む。
6 層 灰褐色細砂層 焼土粒・炭化物5%を含む。

H-79 セクション
1 層 褐灰色細砂層 Au-C10%、ロームブロック30%、焼土粒5%を含む。締まりが弱い。
2 層 明黄褐色細砂層 焼土粒5%、ローム大ブロックを極少含む。
3 層 明黄褐色細砂層 ローム小ブロック10%を含む。
4 層 褐灰色微砂層 微量のAu-C、ローム小ブロック10%を含む。
5 層 黄褐色微砂層 ローム層。住居床面、やや粘性を帯びる。
6 層 黄褐色微砂層 ローム層。住居床面、5層より粘性が強い。

Fig. 37 H－78・79号住居址

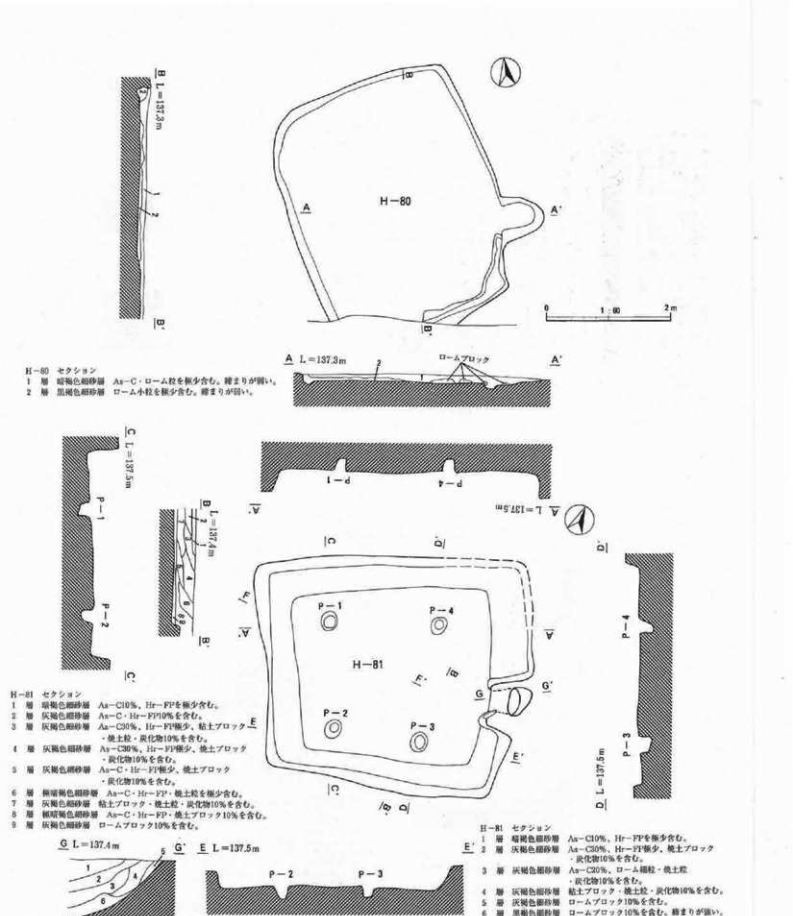
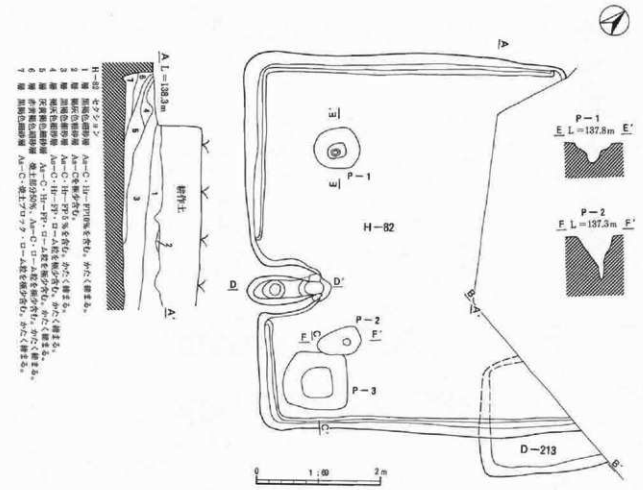
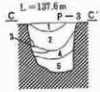
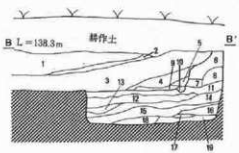


Fig. 38 H−80・81号住居址

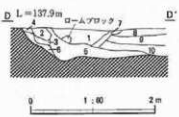




H－82　貯蔵穴セクション
1　層　褐灰色細砂層　As－C10％を含む。
2　層　褐灰色細砂層　As－C20％、ロームブロック10％を含む。
3　層　褐灰色細砂層　ロームブロック10％を含む。
4　層　黒褐色細砂層　ローム粒10％を含む。粘性が強い。
5　層　黒褐色細砂層



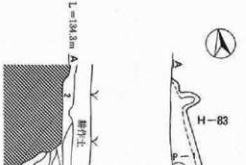
H－82　セクション・D－213セクション
1　層　黒褐色細砂層　As－C・Hr－FP10％を含む。かたく締まる。
2　層　褐灰色細砂層　ローム粒20％を含む。
3　層　黒褐色細砂層　As－C・Hr－FP5％を含む。かたく締まる。



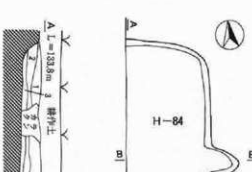
H－82　カマドセクション
1　層　明黄褐色細砂層　ローム主体層、Hr－FP微少、焼土ブロック10％を含む。締まりが強い。
2　層　褐灰色細砂層　焼土ブロック10％を含む。
3　層　褐色細砂層　焼土粒5％を含む。
4　層　明褐色細砂層　焼土ブロック20％を含む。
5　層　暗赤褐色細砂層　焼土主体層。
6　層　明褐色細砂層　焼土ブロック5％を含む。
7　層　褐灰色細砂層　焼土粒10％を含む。
8　層　明黄褐色細砂層　ローム主体層、焼土粒5％を含む。
9　層　黄色細砂層　ロームブロック・焼土粒10％を含む。
10　層　褐色細砂層　焼土ブロック10％を含む。

H－83　セクション・D－213セクション
1　層　黒褐色細砂層　As－C・Hr－FP10％を含む。かたく締まる。
2　層　褐灰色細砂層　ローム粒20％を含む。
3　層　黒褐色細砂層　As－C・Hr－FP5％を含む。かたく締まる。
4　層　褐色細砂層　As－C・・ローム小ブロックを極少含む。締まりが弱い。
5　層　褐色細砂層　As－C・ローム小ブロック・地土粒・炭化物を微少含む。締まりが弱い。
6　層　褐色細砂層　As－C・ローム小ブロックを極少含む。
7　層　褐色細砂層　As－C極少、ロームブロック20％を含む。
8　層　褐色細砂層　微量のAs－C・ローム粒を含む。
9　層　褐色細砂層　粘土ブロック・焼土粒30％を含む。
10　層　褐色細砂層　ロームブロック20％を含む。H－82の周溝部分。
11　層　明黄褐色細砂層　ロームブロック40％を含む。締まりが強い。
12　層　褐色細砂層　ローム小ブロック5％を含む。
13　層　褐色細砂層　As－C・Hr－FP・ローム大ブロック極少、ローム粒20％を含む。
14　層　褐色細砂層　ローム大ブロック30％、微量の地土粒を含む。
15　層　褐色細砂層　As－C極少、ロームブロック10％を含む。
16　層　暗褐色細砂層　微量のAs－C・Hr－FP、ローム小ブロック20％を含む。
17　層　褐色細砂層　ローム小ブロック10％を含む。
18　層　暗褐色細砂層　微量のAs－C・ローム小ブロックを含む。
19　層　褐色細砂層　微量のAs－C・ロームブロック10％を含む。

Fig. 39　H－82号住居址、D－213号土坑

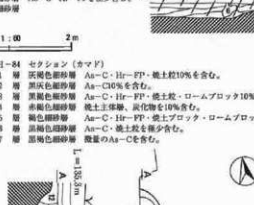


H-83 セクション
1 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FP10%を含む。締まりが弱い。
2 層 灰白色粘土質層 焼土粒10%を含む。カマド天井部。締まりが強い。
3 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FP・炭化物10%を含む。
4 層 黒褐色微砂層 As-C・Hr-FP極少、ローム粒10%を含む。粘性が強い。
5 層 黒褐色微砂層 ロームブロック10%を含む。粘性が強い。
6 層 黒褐色微砂層 微量のローム粒・焼土粒を含む。粘性が強い。



H-84 セクション
1 層 灰褐色細砂層 As-C・Hr-FP10%を含む。
粘性に乏しい。
2 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FPを極少含む。
3 層 黒褐色細砂層

H-84 セクション（カマド）
1 層 灰褐色細砂層 As-C・Hr-FP・焼土粒10%を含む。
2 層 黒灰色細砂層 As-C10%を含む。
3 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FP・焼土粒・ロームブロック10%を含む。
4 層 赤褐色細砂層 焼土主体層、炭化物を10%含む。
5 層 褐色細砂層 As-C・Hr-FP・焼土ブロック・ロームブロック10%を含む。
6 層 黒褐色細砂層 As-C・焼土粒を極少含む。
7 層 黒褐色細砂層 微量のAs-Cを含む。



H-85 カマド セクション
1 層 褐色細砂層 As-C20%、Hr-FP10%、ローム粒5%を含む。
2 層 灰褐色細砂層 As-C10%、Hr-FP30%、ローム粒・炭化物5%を含む。締まりが強い。
3 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FPを極少含む。
4 層 にぶい赤褐色細砂層 As-C10%、焼土粒20%を含む。
5 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FP・ロームブロック・焼土粒10%を含む。
6 層 暗赤褐色細砂層 焼土ブロック主体層、微量の炭化物を含む。粘性が強い。
7 層 赤褐色微砂層 焼土主体層。粘性に乏しい。
8 層 黒褐色細砂層 微量のAs-C・焼土粒を含む。粘性・締まりが強い。

H-85 セクション
1 層 灰褐色細砂層 As-C・Hr-FP20%、焼土粒を極少含む。かたく締まる。
2 層 黒褐色微砂層 As-C・Hr-FP極少、ロームブロック10%を含む。粘性が強い。
3 層 褐灰色細砂層 As-C極少、焼土粒・炭化物10%を含む。
4 層 黒褐色微砂層 ロームブロック10%、焼土粒を極少含む。粘性が強い。高床の柱掘り方。
5 層 黒褐色細砂層 As-Cを極少含む。
6 層 黒褐色微砂層 微量のAs-Cを含む。粘性が強い。
7 層 黒褐色微砂層 ロームブロックを極少含む。
8 層 灰褐色微砂層 焼土粒20%、ロームブロック・炭化物10%を含む。
9 層 明黄褐色微砂層 ローム主体層、粘性・締まりが強い。高床の柱掘り方。
10 層 暗褐色微砂層 高床の柱掘り方。
11 層 黒褐色微砂層 微量のローム粒を含む。高床の柱掘り方。
12 層 暗褐色細砂層 微量のAs-C・炭化物を含む。高床の柱掘り方。
13 層 褐暗褐色微砂層 高床の柱掘り方。
14 層 褐灰色微砂層 微量のAs-C・ローム粒を含む。

H-86 セクション
1 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FP50%を含む。
2 層 灰褐色微砂層 As-C10%、微量のHr-FP・ローム粒・焼土粒・炭化物を含む。
3 層 灰褐色細砂層 カマドのローム粘土主体層。粘性・締まりが強い。
4 層 暗褐色細砂層 As-C・Hr-FP極少、焼土粒10%を含む。
5 層 褐色細砂層 As-C・Hr-FP5%、焼土粒を極少含む。
6 層 黄褐色細砂層 ローム主体層、焼土粒・炭化物10%を含む。粘性が強い。
7 層 明黄褐色細砂層 ローム主体層、焼土粒30%、炭化物5%を含む。
8 層 明黄褐色細砂層 ローム層、粘性・締まりが強い。
9 層 赤褐色細砂層 焼土粒40%、ロームブロック・炭化物5%を含む。
10 層 黒褐色細砂層 As-C・Hr-FP10%を含む。
11 層 黒褐色細砂層 カマドのローム粘土10%混入、粘性が強い。
12 層 黒褐色細砂層

Fig. 40 H－83・84・85・86号住居址

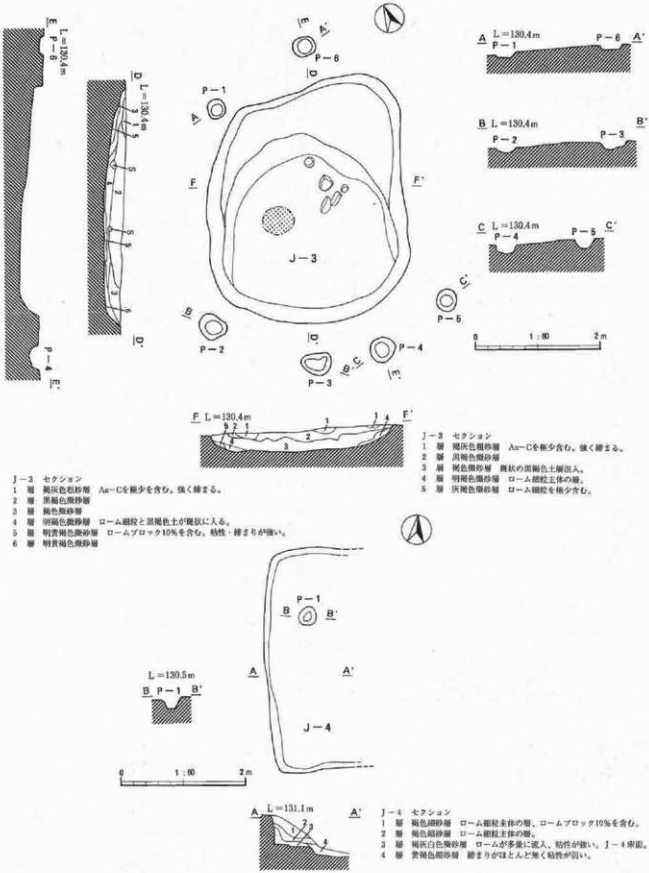
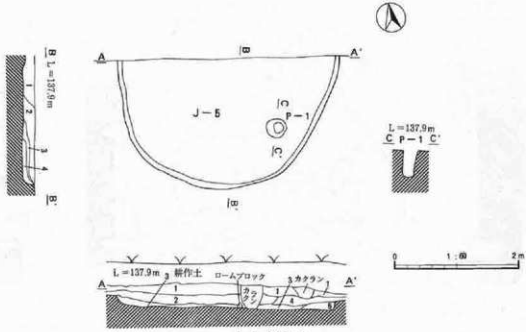
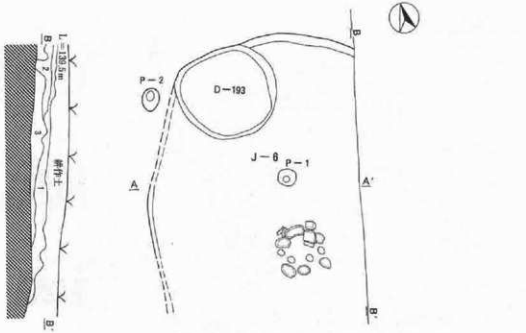


Fig. 41 J－3・4号住居址



J－5　セクション
1　層　淡褐色腐作層　As－Cを極少含む。締まりが弱い。
2　層　暗褐色腐作層　微量のローム粗粒を含む。
3　層　にぶい褐色腐砂層　ローム主体層。粗粒70%を含む。
4　層　褐色腐砂層　ロームブロックを極少含む。
5　層　灰黄褐色腐砂層



J－6　セクション
1　層　灰褐色腐砂層
2　層　褐色腐砂層
3　層　明褐色腐砂層　ローム主体層。

J－6　セクション
1　層　褐灰色腐砂層
2　層　暗褐色腐砂層　ローム粒を極少含む。粘性に乏しい。
3　層　極暗褐色腐砂層　ローム粒を極少含む。
4　層　灰褐色腐砂層
5　層　褐灰色腐砂層

Fig. 42　J－5・6号住居址、D－193号土坑

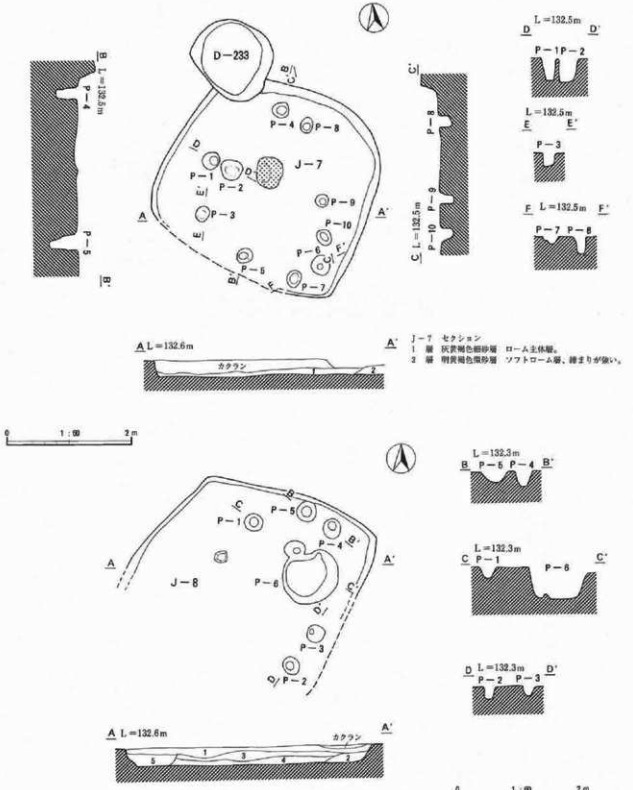


Fig. 43 J－7・8号住居址、D－233号土坑

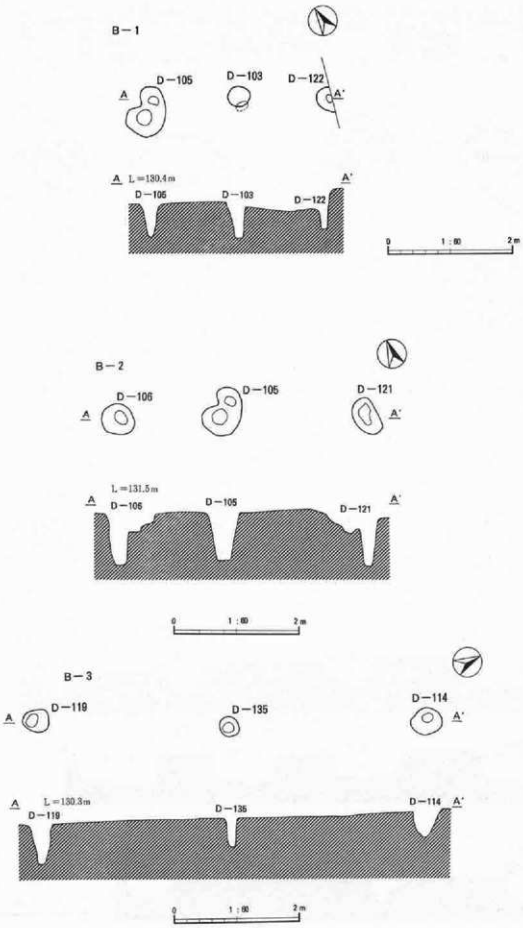


Fig. 44 B－1・2・3号掘立柱建構

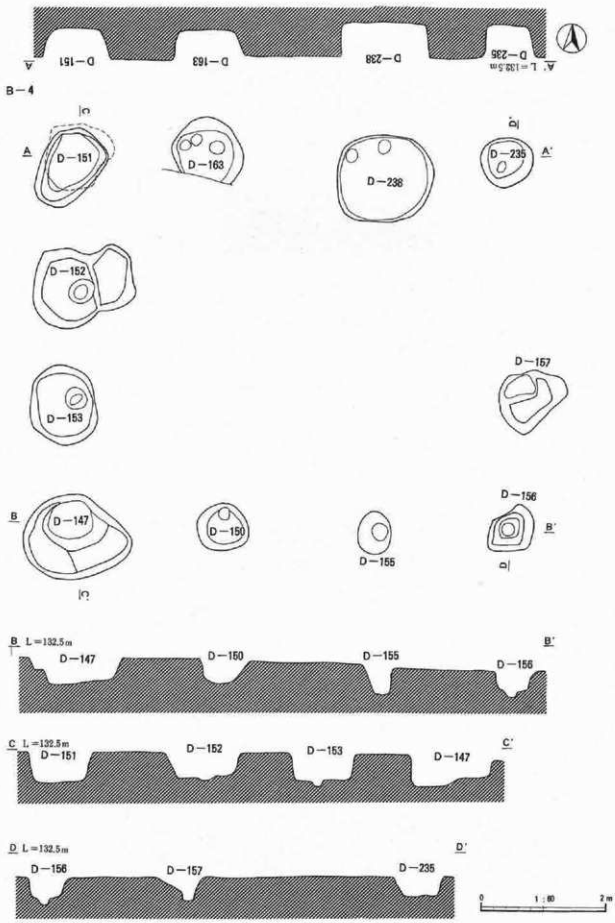


Fig. 45 B－4号掘立柱遺構

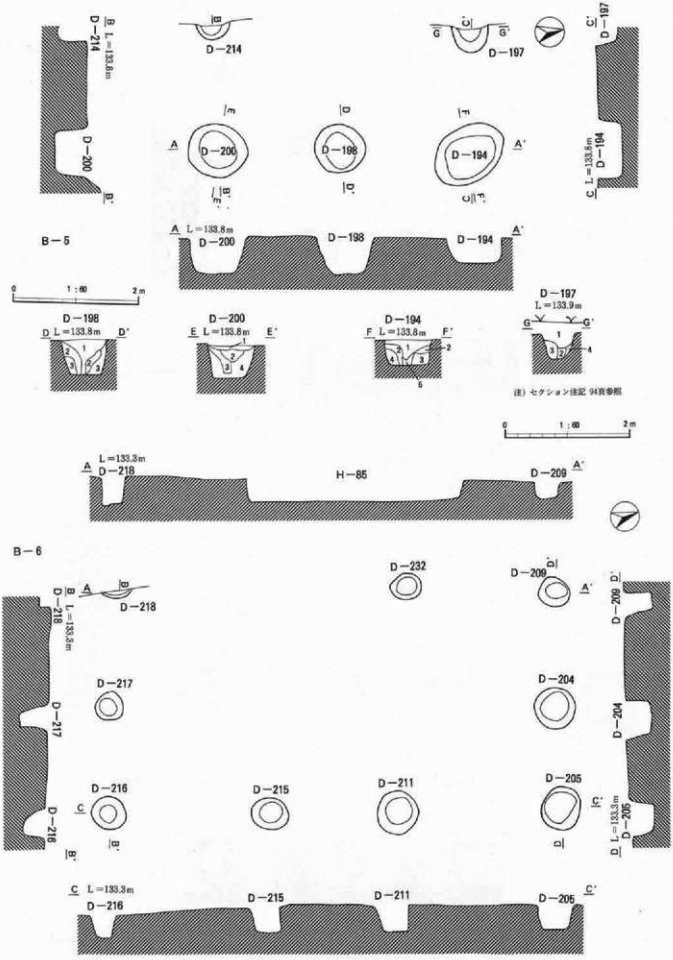


Fig. 46　B－5・6号掘立柱遺構

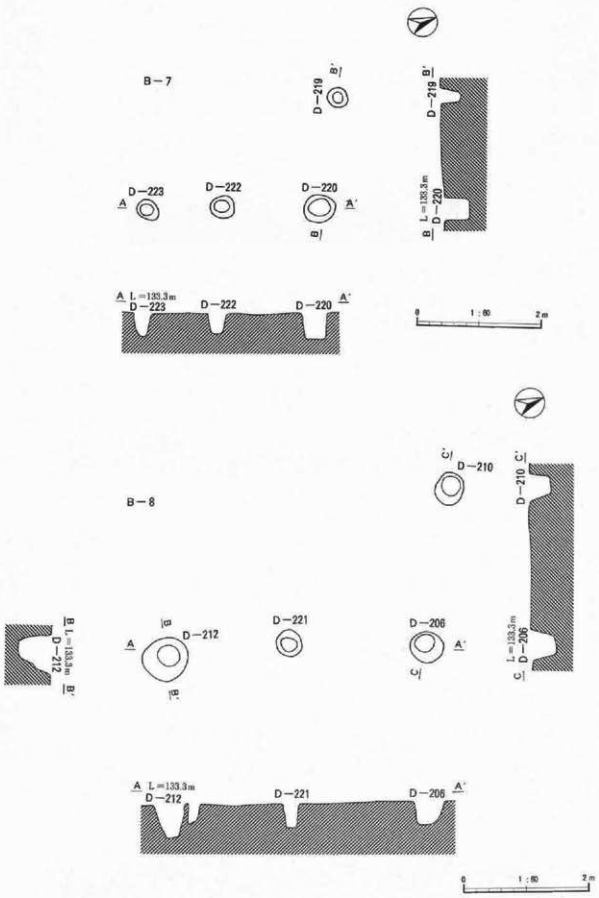
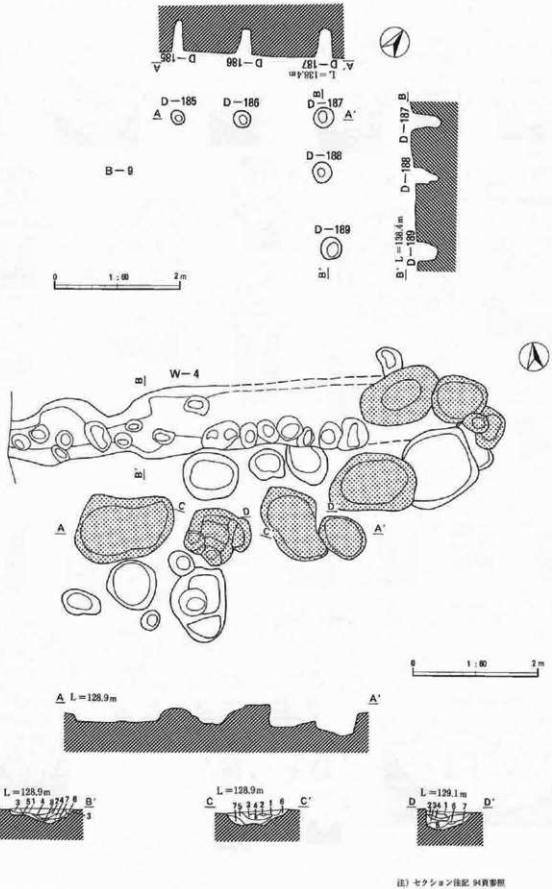
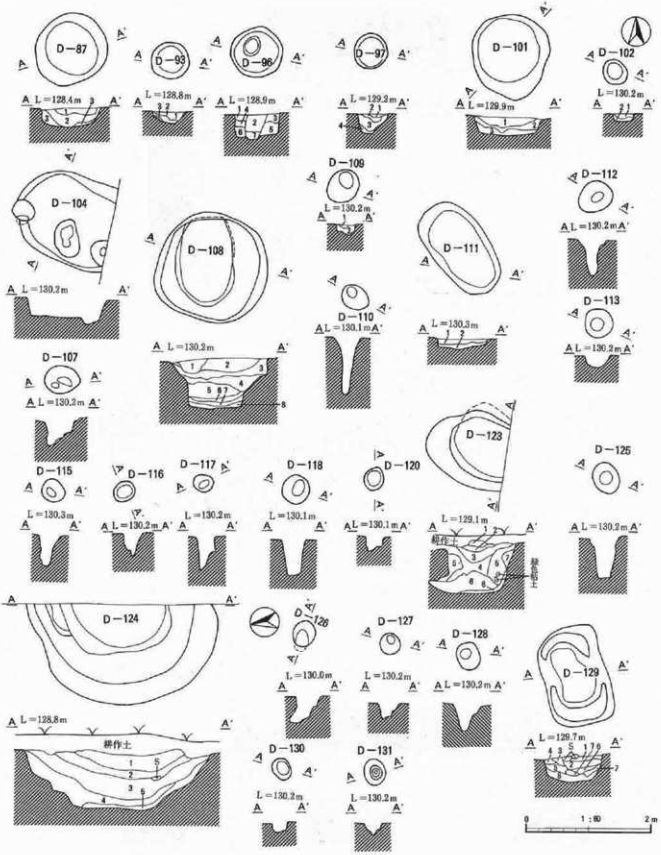


Fig. 47　B－7・8号掘立柱遺構



注）セクション注記 94頁参照

Fig. 48　B－9号掘立柱遺構、工房址1・2号、W－4号溝址



注) セクション注記 94頁参照

Fig. 49 D−87・93・96・97・101・102・104・107～113・115～118・120・123～131号土坑

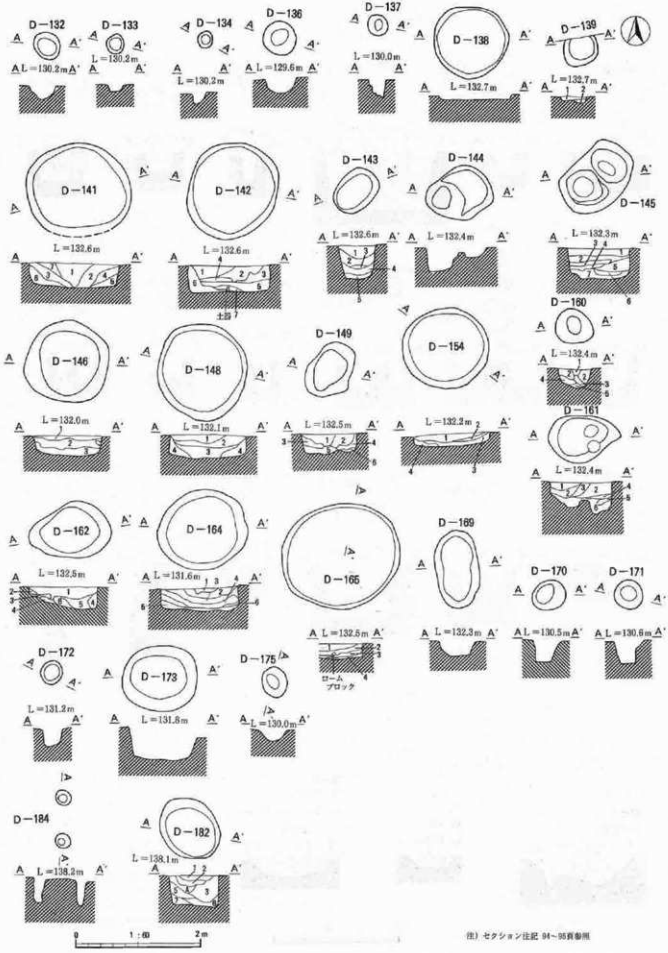


Fig. 50 D−132～134·136～139·141～146·148·149·154·160～162·164·165·169·170～173·175·182·184号土坑

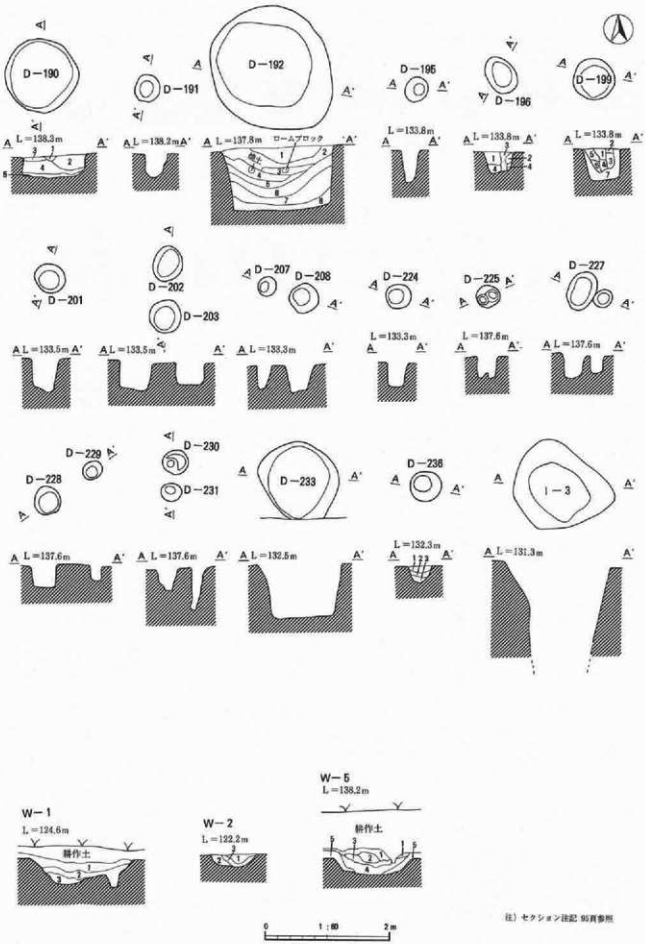


Fig. 51　D－190～192・195・196・199・201～203・207・208・224・225・227～231・233・236号土坑、I－3号井戸址、W－1・2・5号溝址

<Fig. 25>
H－56　セクション
1　層　灰褐色微砂層　As－C30%、焼土ブロック・ローム小粒を微量含む。強く締まる。
2　層　灰褐色微砂層　ロームブロック50%を含む。強く締まる。
3　層　灰褐色微砂層　As－C・ローム粒20%、焼土ブロックを微量含む。強く締まる。
4　層　灰褐色微砂層　ローム粒10%を含む。強く締まる。
5　層　灰褐色微砂層　As－C30%を含む。
6　層　灰褐色微砂層　As－C極少、焼土ブロック・ローム小粒を30%を含む。
7　層　灰褐色微砂層　As－C・焼土粒30%を含む。
8　層　黒褐色微砂層　ローム小粒・焼土ブロック30%を含む。粘性が強い。
9　層　暗赤色微砂層　As－C・炭化物極少、焼土ブロック40%を含む。粘性が強い。
10　層　にぶい赤褐色微砂層　焼土粒50%を含む。粘性が強い。
11　層　赤黒色微砂層　H－56竈の灰をかき出した層。

H－53・56　セクション
1　層　黒色細砂層　As－C・Hr－FP10%を含む。
2　層　黄色微砂層　ロームブロック主体層。
3　層　黄褐色微砂層　ローム粒20%を含む。H－53埋土。
4　層　黒色細砂層　As－C・Hr－FPを極少含む。
5　層　黄褐色微砂層　ロームブロックを30%含む。
6　層　黄褐色細砂層　ローム細粒10%を含む。
7　層　黄褐色微砂層　ロームブロックを20%含む。
8　層　黒色細砂層
9　層　黄褐色微砂層　ローム粒30%を含む。

H－53　セクション
1　層　黒褐色微砂層　As－C20%を含む。
2　層　黒褐色微砂層　As－C極少、ローム粒20%を含む。
3　層　灰褐色微砂層　As－C・Hr－FP・ローム粒を極少含む。締まりが強い。
4　層　褐色微砂層　As－C・ローム細粒を極少含む。
5　層　灰褐色微砂層　As－C極少、ロームブロック20%を含む。粘性が強い。
6　層　黄橙色微砂層　ローム主体のブロック層、部分的に黒褐色を呈す。粘性・締まりが強い。
7　層　黒褐色細砂層　粘性が強い。
8　層　灰褐色微砂層　ローム細粒5%を含む。
9　層　にぶい褐色微砂層　ローム細粒・焼土ブロックを極少含む。

H－56　セクション
1　層　灰褐色微砂層　As－C30%、焼土ブロック・ローム粒を微量含む。強く締まる。
2　層　褐灰色微砂層　As－C40%、焼土ブロックを微量含む。強く締まる。
3　層　褐灰色微砂層　As－C40%を含む。強く締まる。
4　層　灰褐色微砂層　As－C・焼土小粒極少、ローム小粒20%を含む。強く締まる。
5　層　黄橙色微砂層　ローム主体層、粘性・締まりが強い。
6　層　褐灰色微砂層　As－C・ローム粒10%を含む。
7　層　灰褐色微砂層　As－C10%を含む。
8　層　灰褐色微砂層　ロームブロック40%、焼土粒・炭化物30%を含む。強く締まる。
9　層　灰褐色微砂層　As－C10%、焼土粒40%を含む。
10　層　黄橙色微砂層　ローム主体層。

H－56　床下土坑セクション
1　層　黄橙色微砂層　ローム主体層、部分的に斑状に黒褐色土が入る。強く締まる。
2　層　灰褐色微砂層　ロームブロック20%、焼土ブロックを極少含む。粘性が強い。
3　層　灰褐色微砂層　ロームブロックを極少含む。粘性が強い。
4　層　灰褐色微砂層　ロームブロック30%を含む。
5　層　灰褐色微砂層　ローム細粒を極少含む。
6　層　灰褐色微砂層　ローム大ブロック20%を含む。

H－54　セクション
1　層　褐灰色微砂層　As－C50%、Hr－FPを極少含む。スジ状の鉄分凝集が入り、強く締まる。
2　層　褐灰色微砂層　As－C30%を含む。強く締まる。
3　層　褐灰色微砂層　As－C20%、焼土ブロックを極少含む。強く締まる。
4　層　褐灰色微砂層　As－C・ローム小粒を極少含む。粘性が強い。
5　層　黒褐色微砂層　床面の粘土層が混入、炭化物を極少含む。粘性・締まりが強い。
6　層　黒褐色微砂層　ローム細粒・炭化物を極少含む。粘性が強い。
7　層　黒褐色微砂層　焼土ブロックを極少含む。粘性が強い。

H－54　セクション
1　層　褐灰色微砂層　As－C50%、Hr－FPを極少含む。スジ状の鉄分凝集が入り、強く締まる。
2　層　褐灰色微砂層　As－C30%を含む。強く締まる。
3　層　褐灰色微砂層　As－C20%、焼土ブロックを極少含む。強く締まる。
4　層　淡黄色微砂層　H－54カベの一部崩落か？粘性・締まりが強い。
5　層　褐灰色微砂層　As－Cを極少含む。粘性が強い。
6　層　褐灰色微砂層　粘性が強い。
7　層　褐灰色微砂層　粘土質の小ブロックを極少含む。
8　層　黒褐色微砂層　焼土ブロックを極少含む。粘性が強い。
9　層　淡黄色微砂層　はり床の一部、粘土質。

H－54　カマドセクション
1　層　灰褐色細砂層　焼土粒30%を含む。
2　層　赤褐色細砂層　焼土粒50%を含む。
3　層　赤黄褐色微砂層　焼土粒20%、粘土30%を含む。
4　層　灰黄白色微砂層　粘土層。

<Fig. 29>
H－62　セクション
1　層　暗褐色微砂層　As－C20%、Hr－FPを極少含む。締まりが強い。
2　層　灰黄褐色微砂層　As－C40%、Hr－FP・ローム細粒10%を極少含む。締まりが強い。
3　層　にぶい褐色微砂層　As－C30%、Hr－FP20%、ローム粒を極少含む。
4　層　にぶい黄褐色微砂層　As－C10%、Hr－FP・ローム粒・炭化物を極少含む。
5　層　にぶい黄褐色微砂層　As－C10%、Hr－FP・ローム小ブロックを極少含む。
6　層　黒褐色微砂層　As－C10%、ローム粒20%、Hr－FP・焼土粒を極少含む。粘性が強い。
7　層　褐色微砂層　As－C・Hr－FPを極少含む。
8　層　黒褐色微砂層　ロームブロック20%、焼土ブロック10%、炭化物を極少含む。
9　層　にぶい褐色微砂層　焼土細粒30%、焼土ブロックを極少含む。
10　層　褐灰色微砂層　H－71カマド天井部の粘土層。
11　層　暗褐色微砂層　焼土粒主体の層、焼土ブロックを極少含む。
12　層　暗褐色微砂層　焼土粒主体の層、焼土ブロック30%、ロームブロックを極少含む。

H－62・71　セクション
1　層　暗褐色微砂層　As－C20%、Hr－FPを極少含む。締まりが強い。
2　層　灰黄褐色微砂層　As－C30%、Hr－FPを極少含む。斑状に黒褐色土が入る。締まり強。
3　層　灰黄褐色微砂層　As－C40%、Hr－FP・ローム細粒10%を極少含む。締まりが強い。
4　層　にぶい褐色微砂層　As－C30%、Hr－FP20%、ローム粒を極少含む。
5　層　にぶい黄褐色微砂層　As－C10%、Hr－FP・ローム粒・炭化物を極少含む。
6　層　にぶい黄褐色微砂層　ロームブロック30%を含む。

H－65　セクション
1　層　黒褐色微砂層　As－C・Hr－FP・ロームブロックを極少含む。
2　層　褐色微砂層　As－C・ローム粒を極少含む。締まりが強い。
3　層　暗褐色微砂層　As－C・ローム粒を極少含む。締まりが強い。
4　層　褐色微砂層　ロームブロックを極少含む。
5　層　灰褐色微砂層　As－C・Hr－FP・焼土粒を極少含む。
6　層　灰褐色微砂層　As－C・Hr－FP・焼土ブロックを極少含む。
7　層　明褐灰色微砂層　粘土ブロック層。
8　層　にぶい橙色微砂層　焼土・粘土混成層。
9　層　橙色微砂層　焼土層。粘性が強い。
10　層　にぶい赤褐色微砂層　焼土層、粘性が強い。

H－66　セクション
1　層　黒褐色微砂層　As－C・Hr－FP・ロームブロックを極少含む。
2　層　褐色微砂層　As－C・ローム粒を極少含む。締まりが強い。
3　層　褐色微砂層　ロームブロックを極少含む。
4　層　黒褐色細砂層　As－C大粒10%を含む。
5　層　にぶい黄褐色微砂層　ロームと灰褐色土との混成層、粘性が強い。

H－66　貯蔵穴セクション
1　層　灰黄褐色細砂層　ロームブロック、焼土粒を極少含む。
2　層　灰黄褐色細砂層　ローム小ブロックを極少含む。
3　層　にぶい黄褐色細砂層　ロームと灰褐色土との混成層、ローム粒を極少含む。粘性が強い。
4　層　明黄褐色微砂層　ロームと灰褐色土との混成層、粘性が強い。
5　層　にぶい黄褐色微砂層　ロームと灰褐色土との混成層、ロームブロック30%を含む。

H－71　セクション
1　層　暗褐色微砂層　As－C20%、Hr－FPを極少含む。締まりが強い。
2　層　灰黄褐色微砂層　As－C40%、Hr－FP・ローム細粒10%を含む。締まりが強い。
3　層　にぶい褐色微砂層　As－C30%、Hr－FP20%、ローム粒を極少含む。
4　層　にぶい黄褐色微砂層　As－C10%、Hr－FP・ローム粒・炭化物を極少含む。
5　層　灰黄褐色微砂層　As－C30%、Hr－FP・炭化物を極少含む。斑状に黒褐色土が混入。
6　層　にぶい黄褐色微砂層　As－C40%、ローム粒10%、焼土大粒を極少含む。粘性・締まり強。
7　層　褐色微砂層　As－C20%、炭化物を極少含む。締まりが強い。
8　層　黒褐色微砂層　ロームブロック20%、焼土ブロック10%、炭化物を極少含む。
9　層　にぶい褐色微砂層　焼土細粒30%、焼土ブロックを極少含む。
10　層　褐灰色微砂層　H－71カマド天井部の粘土層。
11　層　暗褐色微砂層　焼土粒主体の層、焼土ブロックを極少含む。
12　層　暗褐色微砂層　焼土粒主体の層、焼土ブロック30%、ロームブロックを極少含む。

<Fig. 31>
H－65　セクション
1　層　褐色微砂層　As－C10%、炭化物を極少含む。

2 層 にぶい黄褐色粗砂層　As−C10%、ローム小ブロック・細粒を極少含む。
3 層 灰褐色微砂層　ローム細粒30%、ロームブロックを極少含む。粘性が強い。

H−65 セクション
1 層 黒褐色微砂層　As−C40%、Hr−FPを極少含む。粘性・締まりが強い。
2 層 にぶい褐色微砂層　As−C20%、ローム小ブロックを極少含む。強く締まる。
3 層 褐色微砂層　As−C10%、炭化物を極少含む。
4 層 にぶい黄褐色粗砂層　As−C10%、ローム小ブロック・細粒を極少含む。
5 層 黒褐色微砂層　As−C極少、ローム小ブロック含有。粘性・締まりが強い。
6 層 褐灰色細砂層　As−C・炭化物を極少含む。締まりが強い。
7 層 明黄褐色微砂層　ローム主体の層、粘性が強い。
8 層 褐灰色粗砂層　ローム細粒30%を含む。

H−66 セクション
1 層 黒褐色細砂層　As−C・Hr−FPを極少含む。
2 層 灰褐色細砂層　As−C・Hr−FP10%を含む。
3 層 褐色細砂層　As−C・Hr−FP5%、炭化物・焼土ブロックを極少含む。
4 層 明褐色細砂層　炭化物を極少む。部分的に焼土灰の層あり。
5 層 褐灰色微砂層　As−C・Hr−FP5%、焼土細粒20%を含む。
6 層 赤褐色細砂層　焼土ブロック主体の層。
7 層 青灰色微砂層　カマド灰の層。
8 層 褐灰色細砂層　As−C5%、ローム小ブロック10%を含む。
9 層 灰褐色細砂層　ローム細粒を極少含む。

H−68 セクション
1 層 黒褐色細砂層　As−C・Hr−FPを極少含む。
2 層 灰褐色細砂層　As−C・Hr−FP10%を含む。
3 層 褐色細砂層　As−C・Hr−FP5%、ローム小ブロックを極少含む。
4 層 褐灰色細砂層　ローム小ブロック30%を含む。

<Fig. 46>
D−194 セクション
1 層 黒褐色細砂層　As−C30%、Hr−FP・ロームブロックを極少含む。
2 層 暗褐色細砂層　As−C20%、ロームブロックを極少含む。
3 層 暗褐色微砂層　As−C・ロームブロックを極少含む。粘性・締まりが強い。
4 層 褐灰色微砂層　ロームブロックを極少含む。粘性が強い。
5 層 暗褐色微砂層　ロームブロックを極少含む。粘性・締まりが強い。

D−198 セクション
1 層 褐色細砂層　As−C・ローム粒・焼土粒・炭化物を極少含む。
2 層 黒褐色細砂層　ロームブロック5%を含む。粘性・締まりが強い。
3 層 黒褐色微砂層　粘性・締まりが強い。

D−200 セクション
1 層 黒褐色細砂層　As−C10%を含む。
2 層 灰褐色細砂層　As−Cを極少含む。粘性が強い。
3 層 黒褐色細砂層　ロームブロックを極少含む。粘性が強い。
4 層 黒褐色微砂層　一部にローム細粒を含む。粘性が強い。

D−197 セクション
1 層 褐色細砂層　As−C5%、Hr−FP10%、焼土粒・炭化物を極少含む。
2 層 黒褐色細砂層　微量のロームブロックを含む。粘性・締まりが強い。
3 層 黒褐色細砂層　ロームブロック40%を含む。粘性が強い。
4 層 黒褐色細砂層　粘性が強い。

<Fig. 48>
W−4 セクション（B−B'）
1 層 灰褐色微砂層　ローム小粒20%を含む。締まりが強い。
2 層 灰褐色微砂層　ロームブロック30%を含む。
3 層 黒褐色微砂層　ローム細粒を極少含む。
4 層 灰黄褐色微砂層　焼土粒40%、ロームブロックを極少含む。粘性・締まりが強い。
5 層 黄橙色微砂層　ローム主体層、粘性・締まりが強い。
6 層 灰黄褐色微砂層　焼土ブロック20%を含む。粘性・締まりが強い。
7 層 赤褐色微砂層　焼土粒層。
8 層 灰褐色微砂層　ローム細粒を極少含む。

（D−D'）
1 層 黒褐色微砂層　ロームブロック中粒20%、小粒10%、焼土粒極少を含む。
2 層 灰褐色微砂層　ロームブロック小粒10%、焼土ブロック20%を含む。
3 層 にぶい褐色細砂層　ロームブロック大含有、ロームブロック中粒20%、焼土ブロック10%を含む。
4 層 灰褐色微砂層
5 層 にぶい赤褐色微砂層　ローム中粒20%を含む。焼土ブロック主体の層。
6 層 黒褐色細砂層　ロームブロックを極少含む。
7 層 暗赤褐色微砂層　ローム細粒を含む。

（C−C'）
1 層 灰黄褐色微砂層　ロームブロック少量を含む。
2 層 炭化物主体層
3 層 赤褐色微砂層　焼土ブロック・ローム小粒少量を含む。
4 層 炭化物主体層
5 層 黒褐色微砂層　ローム細粒を極少含む。
6 層 にぶい橙色微砂層　焼土粒少量を含む。
7 層 明黄褐色微砂層

<Fig. 49>
D−87 セクション
1 層 暗褐色細砂層　ロームと黒褐色土との混成層。
2 層 にぶい黄褐色細砂層　ロームと黒褐色土との混成層。
3 層 にぶい黄褐色微砂層　ローム主体層。

D−93 セクション
1 層 黒褐色細砂層
2 層 暗褐色細砂層　ロームと黒褐色土との混成層。
3 層 褐色微砂層　ローム主体層。

D−96 セクション
1 層 にぶい黄褐色細砂層　ロームと黒褐色土との混成層。
2 層 灰黄褐色粗砂層　As−C・Hr−FP極少、ローム小ブロック5%を含む。
3 層 黒褐色細砂層　微量のAs−C・Hr−FP、ローム小ブロック5%を含む。
4 層 灰黄褐色細砂層　黒褐色土を多量に含む。
5 層 にぶい黄褐色細砂層　ロームブロック主体層。
6 層 黒褐色細砂層　ローム細粒30%を含む。
7 層 灰褐色細砂層　ローム細粒を極少含む。

D−97 セクション
1 層 灰褐色微砂層　As−C10%、Hr−FPを極少含む。粘性に乏しい。
2 層 にぶい赤褐色微砂層
3 層 黒褐色微砂層　ローム粒20%を含む。
4 層 明褐色微砂層　ローム粒主体層。

D−101 セクション
1 層 灰黄褐色細砂層
2 層 暗褐色細砂層
3 層 にぶい黄褐色微砂層　ローム粒30%を含む。

D−102 セクション
1 層 黒褐色細砂層　As−Cを極少含む。
2 層 暗褐色細砂層　ローム粒を極少含む。

D−108 セクション
1 層 灰褐色微砂層　As−Cを極少含む。
2 層 灰褐色微砂層　As−C20%を含む。
3 層 褐色微砂層　As−C30%を含む。ローム小ブロック20%を含む。
4 層 黄褐色微砂層　ローム主体の層、褐色土ブロックを極少含み、かたく締まる。
5 層 黒褐色微砂層　As−C極少、ローム小ブロック10%を含む。粘性が強い。
6 層 黒褐色細砂層　As−C極少、スジ状に微量の焼土粒・炭化物を含む。粘性・締まりが強い。
7 層 赤褐色細砂層　炭化物を含む焼土主体層。
8 層 黒色微砂層　炭化物主体の層、除湿用の炭か？

D−109 セクション
1 層 灰黄褐色細砂層　ロームブロックを極少含む。
2 層 暗褐色細砂層　ロームブロックを極少含む。

D−111 セクション
1 層 黒褐色細砂層　As−C・ローム粒を極少含む。
2 層 黒褐色微砂層　As−C・ロームブロックを極少含む。

D−124 セクション
1 層 黒褐色細砂層　As−C50%、Hr−FP・焼土ブロックを極少含む。
2 層 黒褐色微砂層　As−C30%、焼土ブロックを極少含む。粘性が強い。
3 層 黒褐色微砂層　As−Cを極少含む。
4 層 黒褐色微砂層　ローム細粒10%を含む。粘性が強い。
5 層 褐色微砂層　ロームブロック50%を含む。

D−123 セクション
1 層 黒褐色微砂層　As−Cを極少含む。粘性が強い。
2 層 黒褐色微砂層　As−C10%を含む。粘性が強い。
3 層 灰褐色微砂層　As−C10%を含む。粘性・締まりが強い。
4 層 褐色微砂層　ローム細粒を極少含む。粘性が強い。
5 層 にぶい褐色細砂層　粘性が強い。
6 層 褐色細砂層
7 層 明褐色微砂層　ローム主体層。粘性・締まりが強い。
8 層 灰黄褐色微砂層　As−YP主体層。

D−129 セクション
1 層 黒色粗砂層　川砂混じり、粘性・締まりが弱い。
2 層 黒褐色細砂層　As−C・Hr−FPを極少含む。
3 層 黒色粗砂層　微量のAs−Cを含む。川砂混じり、粘性・締まりが弱い。
4 層 黄褐色細砂層　ローム粒40%を含む。
5 層 黒褐色細砂層　ローム粒・炭化物を極少含む。
6 層 黒褐色細砂層　ローム細粒・炭化物を極少含む。
7 層 灰黄褐色粗砂層　ロームブロックを20%含む。
8 層 黄色細砂層　ローム粒を多量に含む粘質土層。

<Fig. 50>
D−129 セクション
1 層 にぶい赤褐色微砂層　焼土細粒主体層、As−C・ローム細粒を極少含む。粘性・締まり強。
2 層 黄橙色微砂層　ローム主体層、鉄分凝集部分が認められる。粘性・締まりが強い。

D－141　セクション
1　層　にぶい黄褐色微砂層　As－C20%、Hr－FP微少、ローム ブロック30％を含む。粘性強。
2　層　黒褐色微砂層　As－C10%、ローム ブロックを微少含む。粘性が強い。
3　層　黒褐色微砂層　ローム ブロック20%を含む。粘性が強い。
4　層　褐色微砂層　ローム細粒主体の層。
5　層　明黄褐色微砂層　ローム主体層。
6　層　黒褐色微砂層　微量のローム細粒を含む。
7　層　褐色微砂層　As－C20%、ローム ブロック10%を含む。

D－142　セクション
1　層　明黄褐色微砂層　As－C微少、ローム大ブロック20%を含む。粘性が強い。
2　層　褐灰色細砂層　As－C微少、ローム小ブロック10%、微量の焼土粒を含む。強く締まる。
3　層　黄褐色細砂層　ローム細粒50%を含む。
4　層　黒褐色微砂層　ローム大ブロック30%、ローム細粒20%を含む。
5　層　暗褐色細砂層　ローム細粒50%を含む。
6　層　明黄褐色細砂層　ローム主体層。強く締まる。
7　層　にぶい黄褐色細砂層　ローム細粒主体の層。

D－143　セクション
1　層　にぶい黄褐色微砂層　ローム細粒主体の層。焼土粒10%を含む。
2　層　黒褐色微砂層　ローム大ブロック10%、ローム粒20%を含む。
3　層　黒褐色微砂層　ローム粒10%を含む。
4　層　褐色微砂層　ローム ブロック10%を含む。
5　層　暗褐色微砂層　ローム細粒5％、焼土粒を極少含む。

D－145　セクション
1　層　黒褐色微砂層　As－C・Hr－FP10%、ローム小ブロック5％を含む。締まりが強い。
2　層　灰黄褐色微砂層　ローム小ブロック20%、ローム細粒50%を含む。
3　層　明黄褐色微砂層　ローム主体層。粘性はあるが締まりが弱い。
4　層　褐色微砂層　ローム小ブロック20%、ローム細粒10%を含む。粘性が強い。
5　層　明黄褐色微砂層　ローム主体層。黒褐色土がスジ状に入る。
6　層　黒褐色微砂層　ローム小ブロック・ローム細粒を極少含む。粘性が強い。
7　層　明黄褐色細砂層　ローム主体層。粘性・締まりが強い。

D－146　セクション
1　層　灰黄褐色細砂層　As－C20%、ローム ブロック10%を含む。
2　層　灰黄色細砂層　As－C20%、ローム ブロック30%を含む。
3　層　灰黄褐色微砂層　ローム主体層。

D－148　セクション
1　層　黒褐色細砂層　ローム小ブロック10%を含む。
2　層　灰黄褐色細砂層　微量のローム小ブロックを含む。
3　層　黄褐色微砂層　ローム粒主体層。ローム ブロック20%を含む。
4　層　黒褐色細砂層　微量のローム粒を含む。

D－149　セクション
1　層　灰黄褐色細砂層　As－C5％、Hr－FP10%、ローム ブロック30％を含む。
2　層　灰褐色細砂層　As－C・Hr－FPを極少含む。
3　層　灰黄褐色細砂層　As－C・Hr－FP微少、ローム粒を40%含む。
4　層　黒褐色細砂層　微量のAs－C・ローム小粒を含む。
5　層　にぶい黄褐色微砂層　ローム ブロック・ローム粒主体層。
6　層　黄褐色微砂層　ローム主体層。

D－154　セクション
1　層　にぶい黄褐色細砂層　ローム ブロック30%を含む。
2　層　にぶい黄褐色細砂層　ローム ブロックを極少含む。
3　層　にぶい黄褐色細砂層　ローム細粒30%を含む。
4　層　にぶい黄褐色細砂層　ローム主体層

D－160　セクション
1　層　黒褐色細砂層　ローム ブロック5％を含む。粘性・締まりともに弱い。
2　層　灰褐色細砂層　ローム ブロック30%を含む。
3　層　黒褐色細砂層　微量のローム小粒を含む。粘性・締まりともに弱い。
4　層　灰褐色細砂層　ローム ブロック10%を含む。
5　層　灰褐色微砂層　ローム ブロック40%を含む。粘性が強い。

D－161　セクション
1　層　暗褐色細砂層　As－C・ローム粒を極少含む。かたく締まる。
2　層　灰黄褐色細砂層　ローム ブロック20%を含む。かたく締まる。
3　層　灰黄褐色微砂層　ローム小ブロック10%を含む。かたく締まる。
4　層　暗褐色細砂層　ローム粒・焼土粒を極少含む。かたく締まる。
5　層　にぶい黄褐色微砂層　ローム主体層。焼土粒を極少含む。粘性・締まりが強い。
6　層　明黄褐色微砂層　ローム主体層。粘性・締まりが強い。

D－162　セクション
1　層　褐色細砂層　As－C・Hr－FP微少、ローム ブロック5％を含む。かたく締まる。
3　層　暗褐色細砂層　As－C・ローム ブロックを極少含む。かたく締まる。
3　層　黄褐色微砂層　ローム ブロックと灰褐色土との混成層。粘性・締まりが強い。
4　層　褐色細砂層　ローム ブロックを極少含む。かたく締まる。
5　層　灰黄褐色微砂層　ローム ブロック30%を含む。粘性・締まりが強い。
6　層　暗褐色微砂層　ローム ブロックを極少含む。かたく締まる。

D－164　セクション
1　層　黒褐色細砂層　As－C・Hr－FP・ローム粒を極少含む。
2　層　暗褐色細砂層　As－C・Hr－FP・ローム粒を極少含む。
3　層　黒褐色細砂層　As－C・Hr－FP微少、ローム ブロック20%を含む。
4　層　黒褐色細砂層　As－C・Hr－FP微少、ローム ブロック30%を含む。
5　層　にぶい黄褐色微砂層　ローム と灰褐色土との混成層。粘性が強い。
6　層　にぶい黄褐色微砂層　ローム と灰褐色土との混成層、5層より粘性は弱い。

D－165　セクション
1　層　黒褐色細砂層　As－C・Hr－FP10%を含む。
2　層　暗褐色細砂層　As－C・Hr－FPを極少含む。
3　層　にぶい黄褐色微砂層　As－C・Hr－FPを極少含む。粘性が強い。
4　層　黄褐色微砂層　ローム主体層。粘性が強い。

D－182　セクション
1　層　黒褐色細砂層　ローム ブロック20%を含む。
2　層　黒褐色細砂層　As－C10%を含む。
3　層　暗灰色微砂層　As－C5％を含む。粘性が強い。
4　層　黒褐色微砂層　As－C・ローム粒を極少含む。粘性が強い。
5　層　黒褐色微砂層　ローム細粒を極少含む。粘性が強い。
6　層　褐灰色微砂層　ローム粒20%を含む。粘性・締まりが強い。
7　層　灰褐色微砂層　粘性・締まりが強い。

<Fig. 51>
D－190　セクション
1　層　黒褐色細砂層　As－C10%、Hr－FPを極少含む。締まりが弱い。
2　層　灰褐色細砂層　As－C・Hr－FPを極少含む。
3　層　明褐色細砂層　As－C微少、ローム ブロック20%を含む。
4　層　褐色細砂層　As－C・ローム ブロックを極少含む。
5　層　明褐色細砂層　ローム主体層。

D－192　セクション
1　層　褐色微砂層　As－C30%、ローム ブロックを極少含む。
2　層　褐色微砂層　As－C20%、ローム ブロック10%、焼土粒を極少含む。
3　層　黒褐色細砂層　As－C20%を含む。
4　層　褐灰色微砂層　ローム小ブロック20%を含む。
5　層　褐灰色微砂層　ローム ブロック30%含む。やや粘性を帯びる。
6　層　明褐色微砂層　ローム ブロック・ローム細粒主体の層。
7　層　明褐色微砂層　ローム ブロック40%、焼土粒・炭化物を極少含む。粘性が強い。
8　層　黒褐色微砂層　微量のローム細粒を含む。やや粘性を帯びる。

D－196　セクション
1　層　灰褐色細砂層　As－C10%、焼土粒・炭化物を極少含む。
2　層　灰褐色細砂層　As－C5％・微量の焼土粒・炭化物を含む。
3　層　黒褐色細砂層　微量のAs－Cを含む。粘性・締まりが強い。
4　層　黒褐色細砂層　粘性・締まりが強い。

D－236　セクション
1　層　灰褐色細砂層　As－C微少、ローム ブロック30%を含む。
2　層　灰褐色細砂層　As－C微少、ローム ブロック50%を含む。
3　層　灰黄褐色微砂層　ローム と灰褐色土との混成層。ローム ブロック30%を含み粘性が強い。

D－199　セクション
1　層　灰褐色細砂層　As－C10%、ローム ブロックを極少含む。
2　層　灰褐色細砂層
3　層　灰褐色細砂層　As－C・ローム ブロックを極少含む。
4　層　黒褐色細砂層　As－Cを極少含む。
5　層　黒褐色細砂層　As－C微少、微量のローム粒を含む。
6　層　黒褐色微砂層　ローム ブロック20%を含む。粘性が強い。
7　層　黒褐色微砂層　粘性が強い。

W－1　セクション
1　層　黒褐色細砂層　As－C・Hr－FPを極少含む。
2　層　黒褐色細砂層　As－C・Hr－FPを極少含む。ローム小粒点在。
3　層　にぶい黄褐色微砂層　黒褐色土とローム との混成層。締まりが強い。

W－2　セクション
1　層　灰褐色微砂層　粘性は弱いが締まりが強い。
2　層　灰褐色微砂層　ローム細粒を極少含む。
3　層　灰褐色微砂層　ローム ブロック30%を含む。

W－5　セクション
1　層　褐灰色細砂層　締まりが弱く両砂状を呈す。
2　層　灰褐色粗砂層　As－B粒層。
3　層　褐灰色細砂層　As－Cを極少含む。
4　層　褐灰色細砂層　As－C微少、ローム粒5％を含む。
5　層　明褐色細砂層　ローム細粒30%を含む。

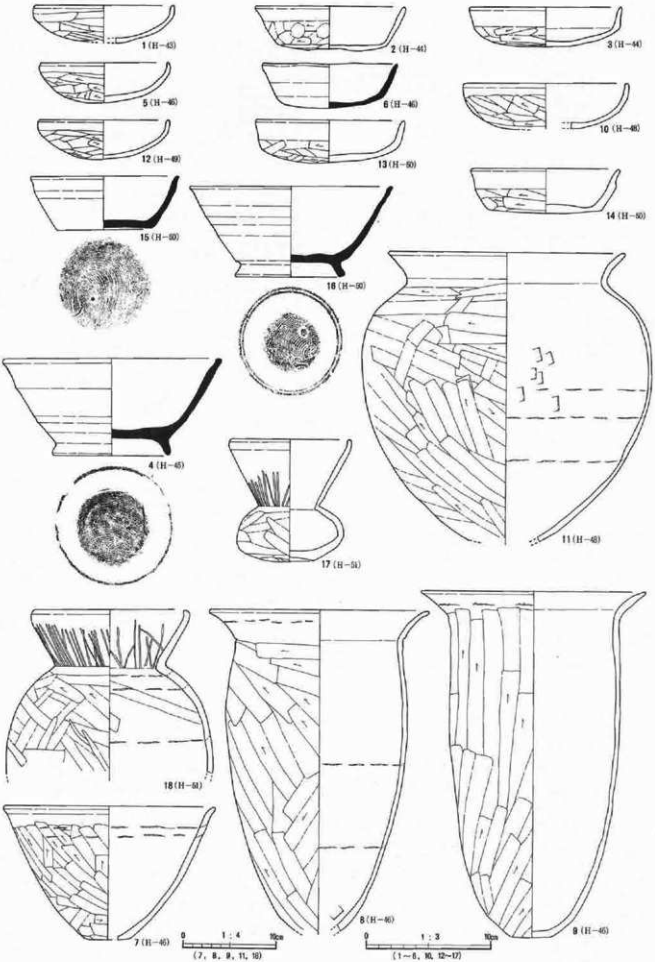


Fig. 52 H－43～46・48～51号住居址出土の土器

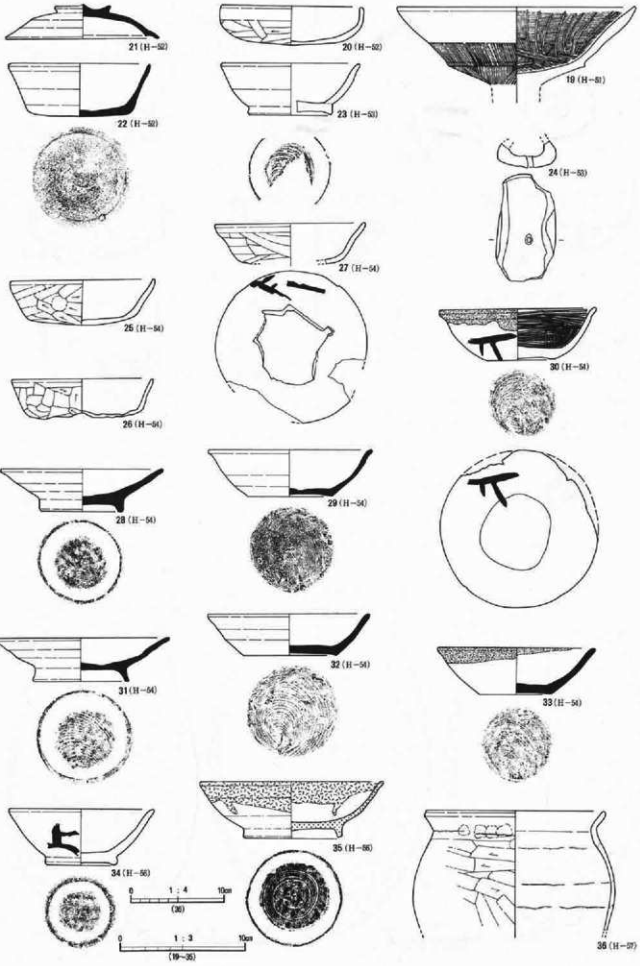


Fig. 53 H－51～54・56・57号住居址出土の土器

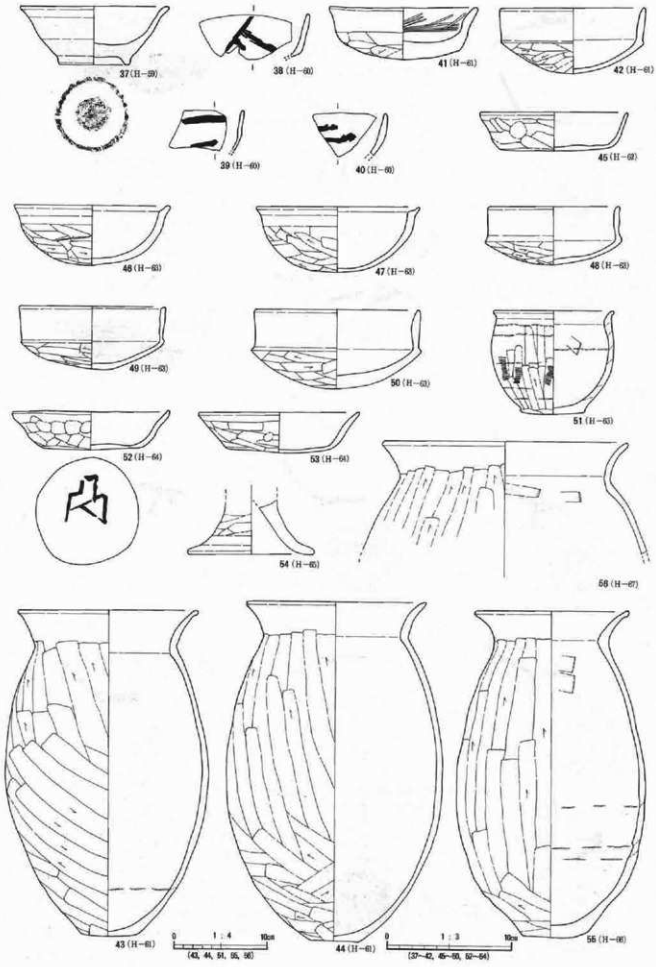


Fig. 54 H－59～67号住居址出土の土器

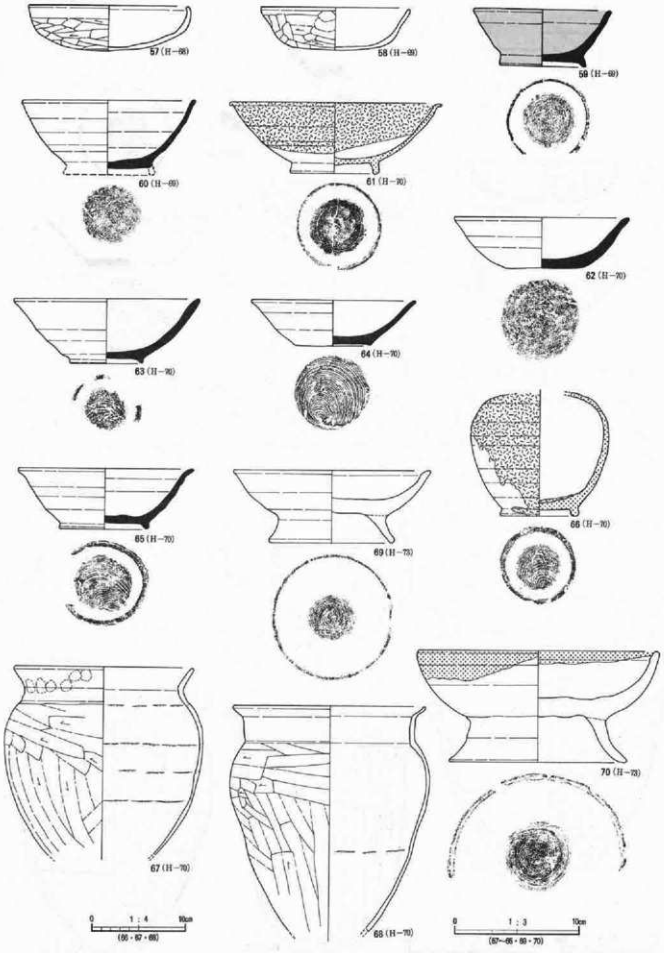


Fig. 55 H－68～70・73号住居址出土の土器

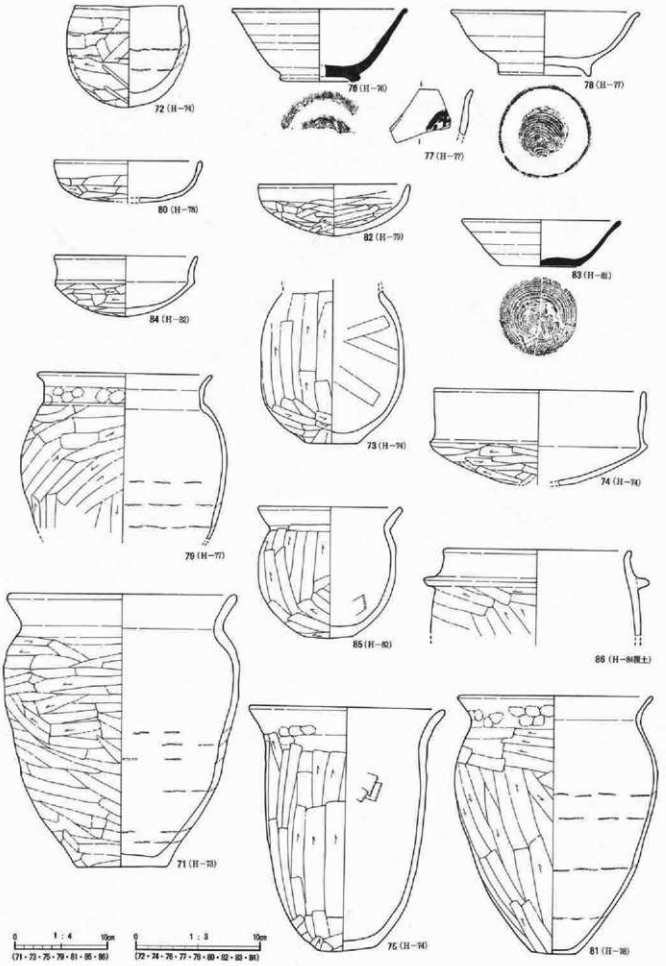


Fig. 56 H−73・74・76〜79・81・82・84号住居址出土の土器

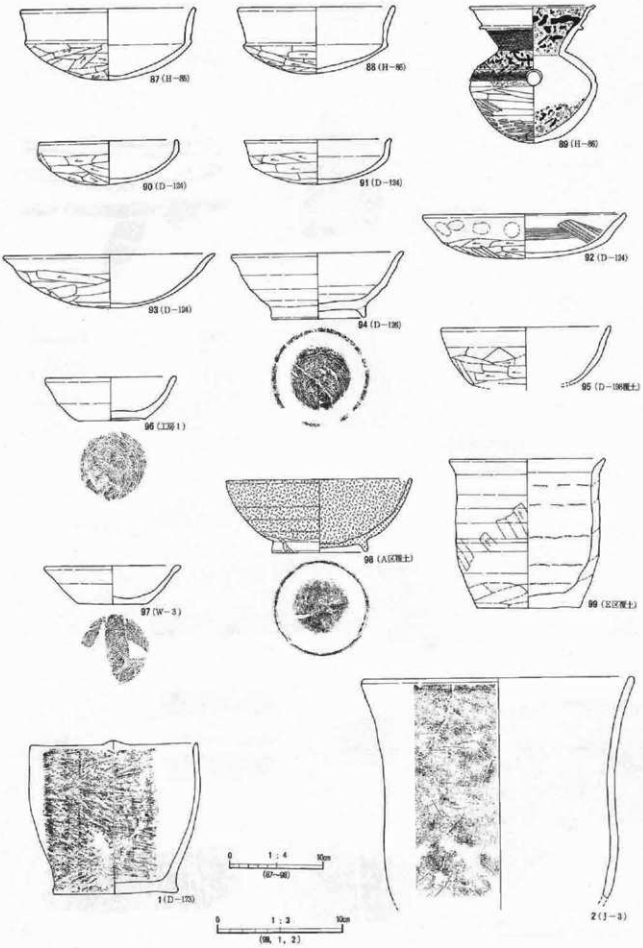


Fig. 57　H－85・86号住居址、工房址1号、W－3号溝址、D－124・126・198号土坑、A・E区出土の土器、縄文式土器（1）

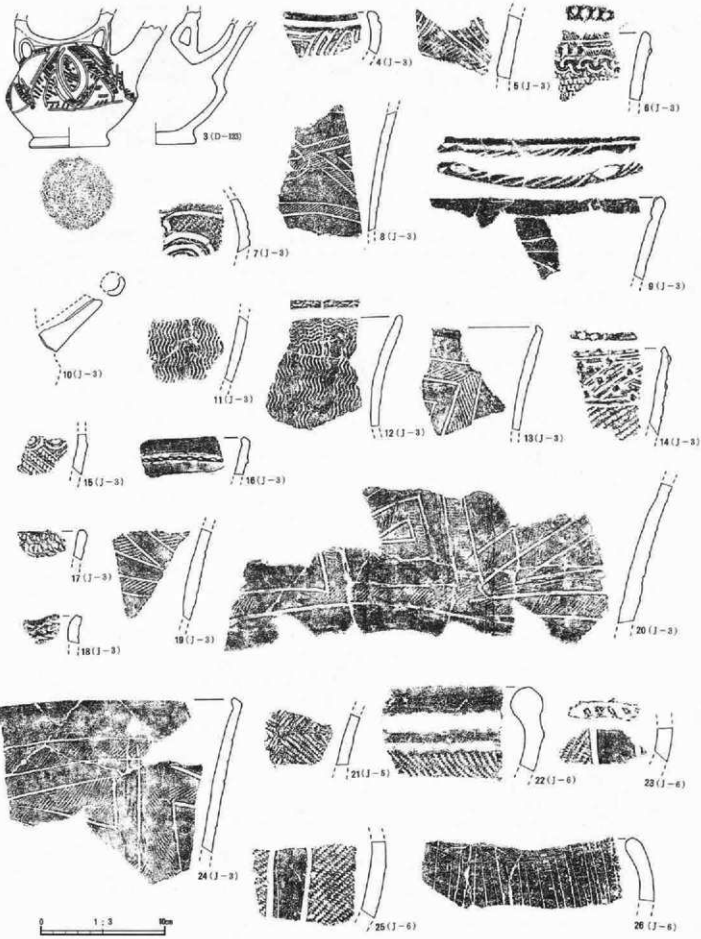


Fig. 58 縄文式土器（2）

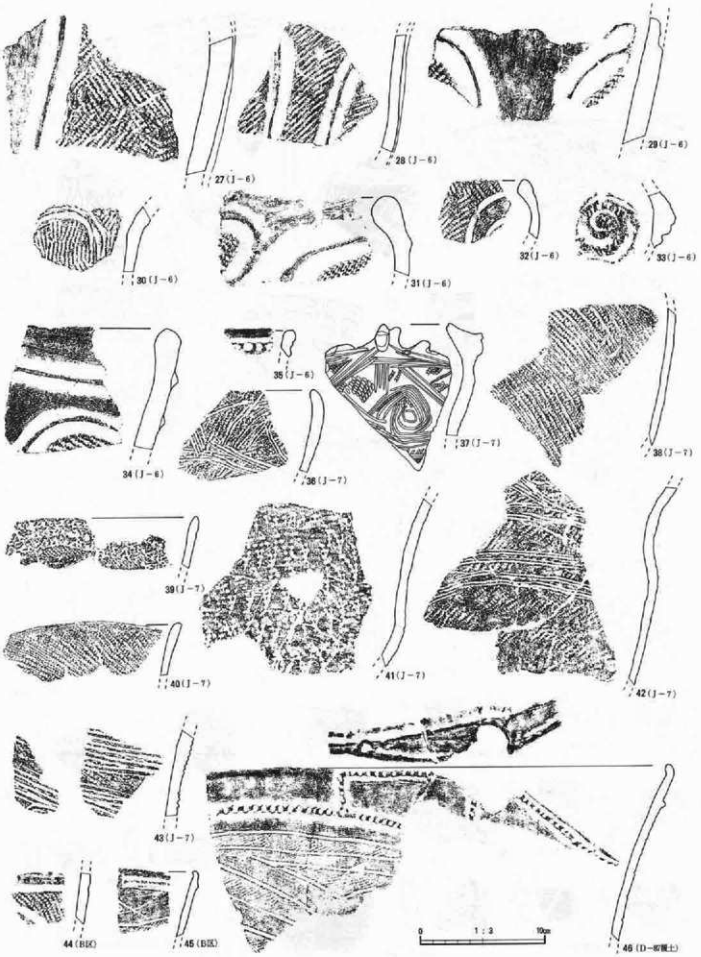


Fig. 59 縄文式土器（3）

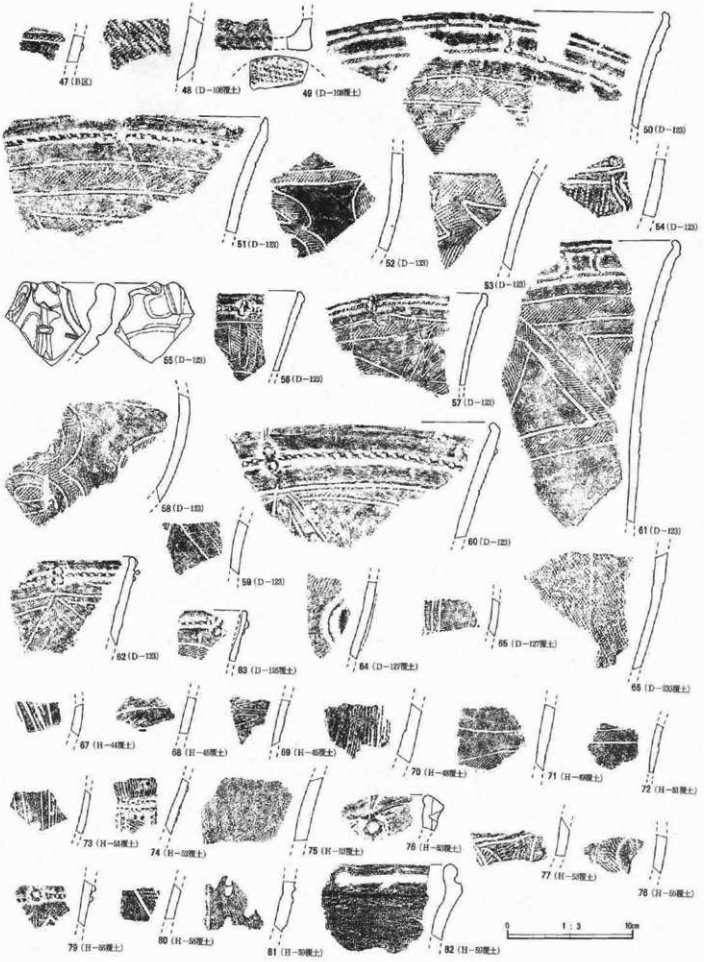


Fig. 60 縄文式土器（4）

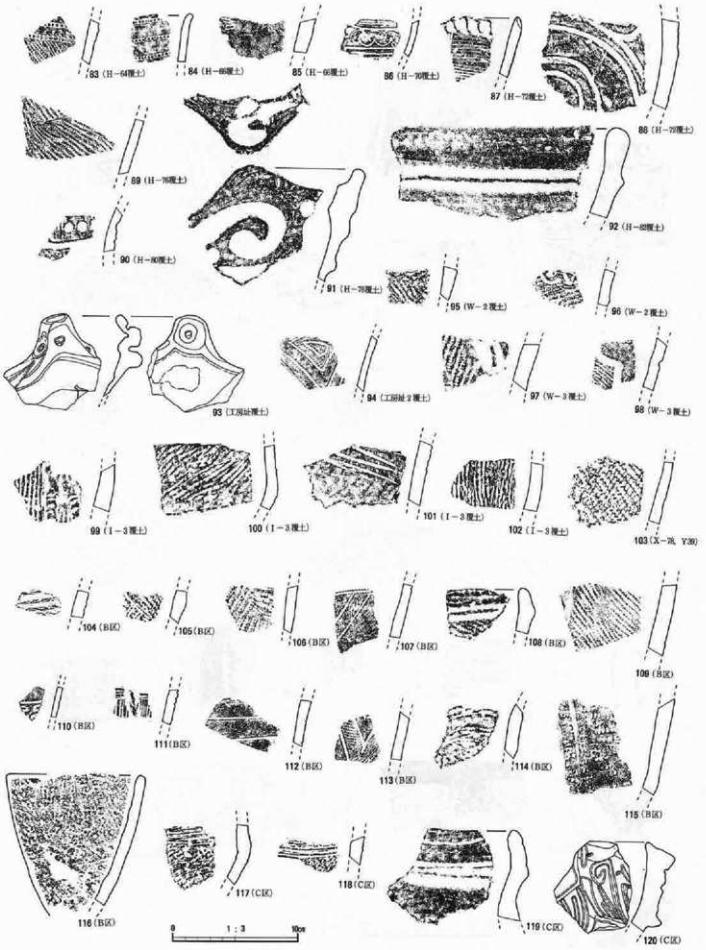


Fig. 61 縄文式土器（5）

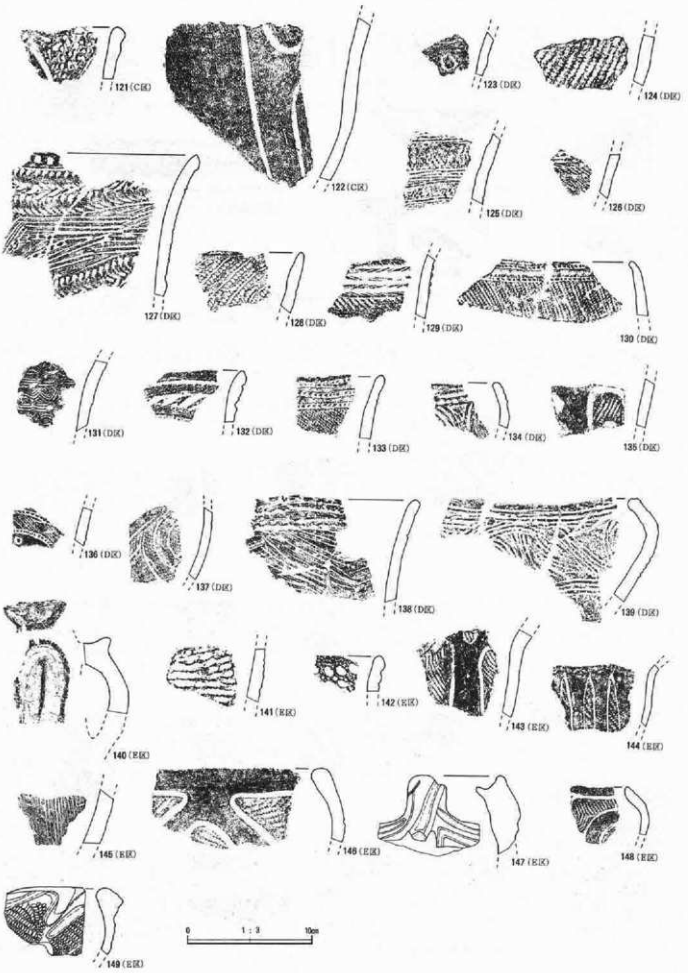


Fig. 62 縄文式土器（6）

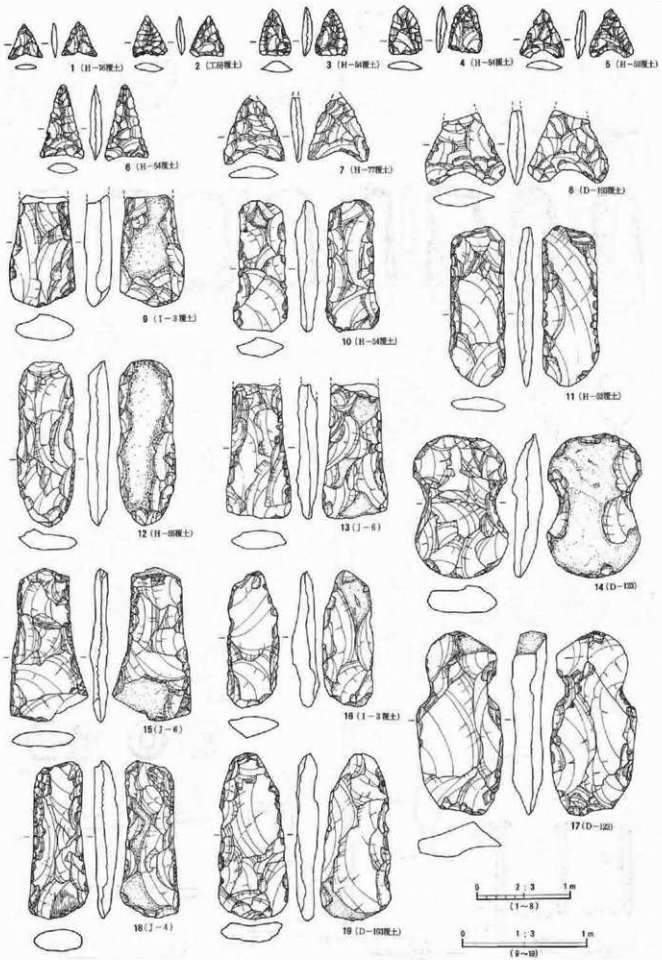


Fig. 63 石器・石製品（1）

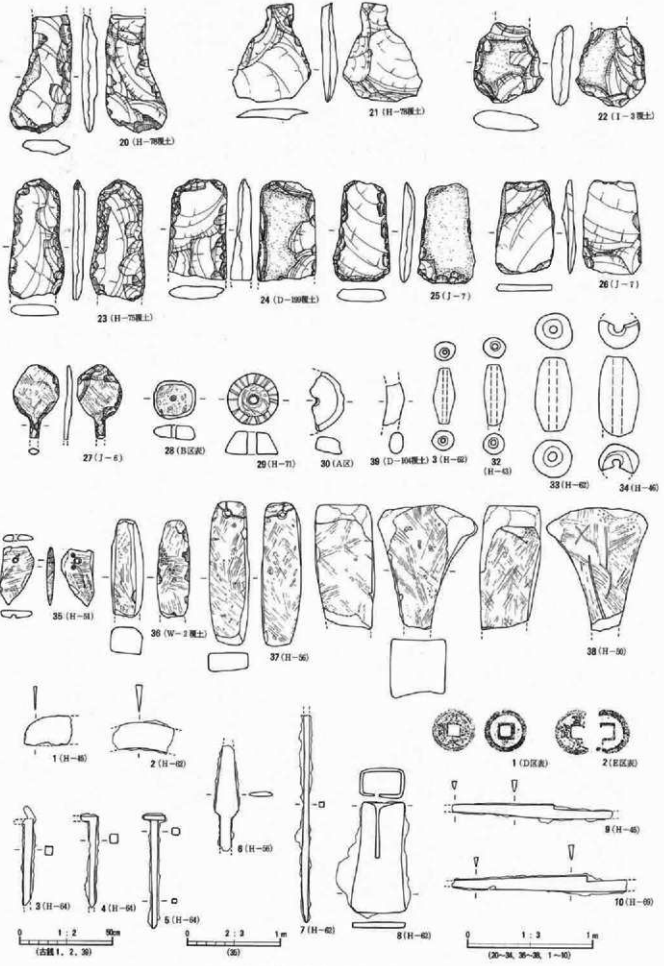


Fig. 64 石器・石製品（2）、特殊遺物、鉄器・鉄製品

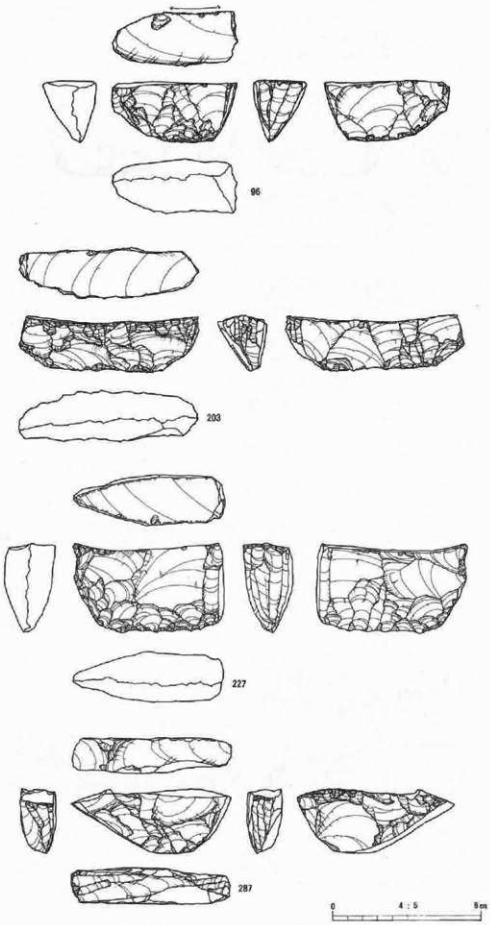


Fig. 65 旧石器（1）

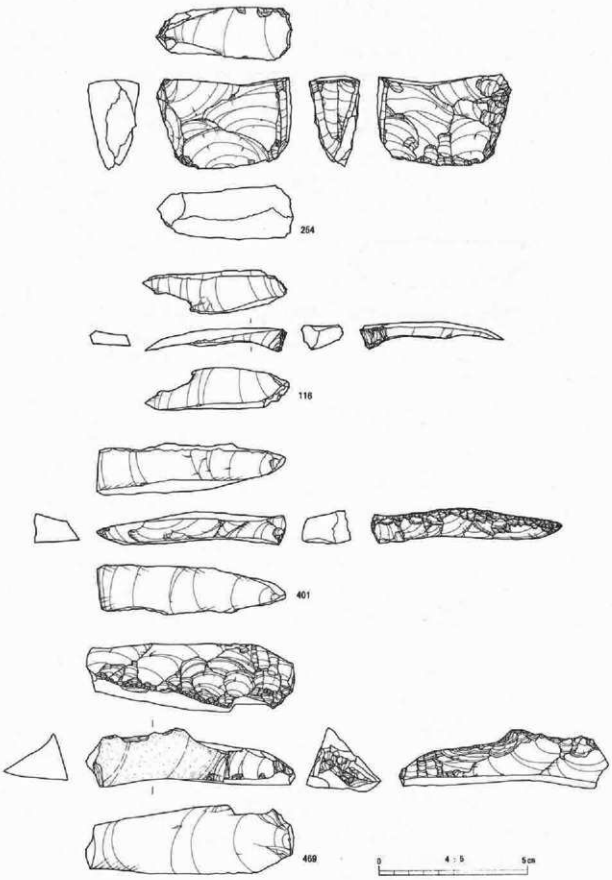


Fig. 66 旧石器（2）

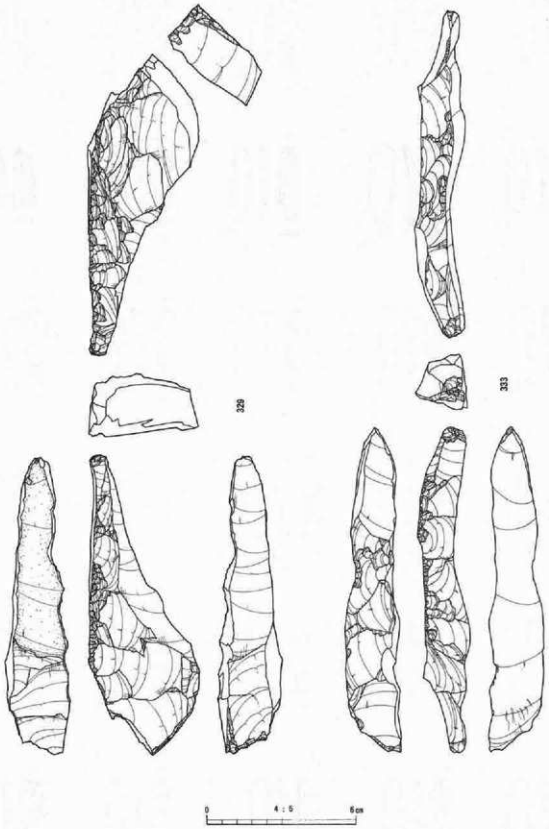


Fig. 67 旧石器（3）

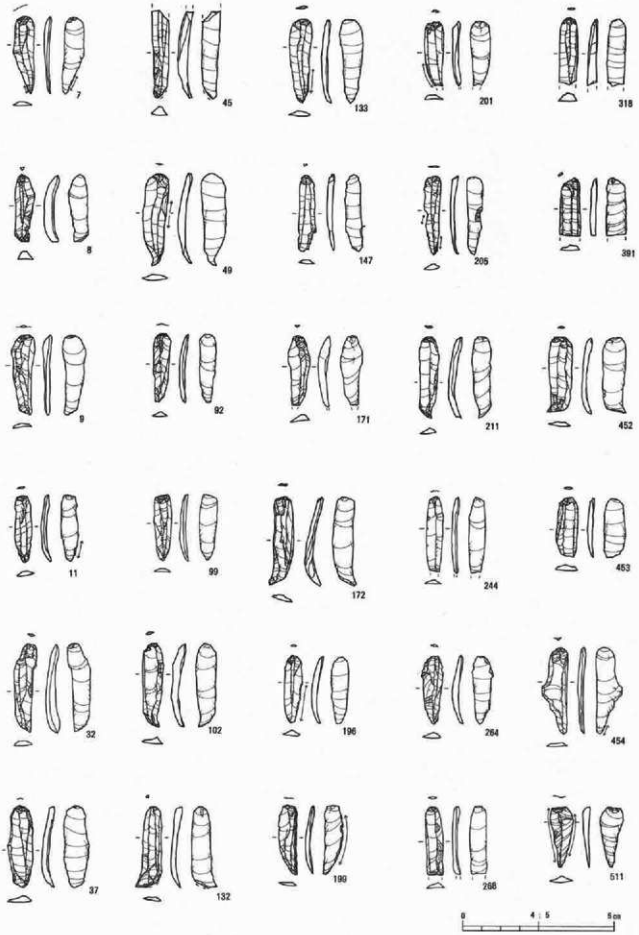

7
45
133
201
318
8
49
147
205
391
9
92
171
211
452
11
99
172
244
463
32
102
196
264
454
37
132
190
266
511
0
4.5
9cm

Fig. 68 旧石器（4）

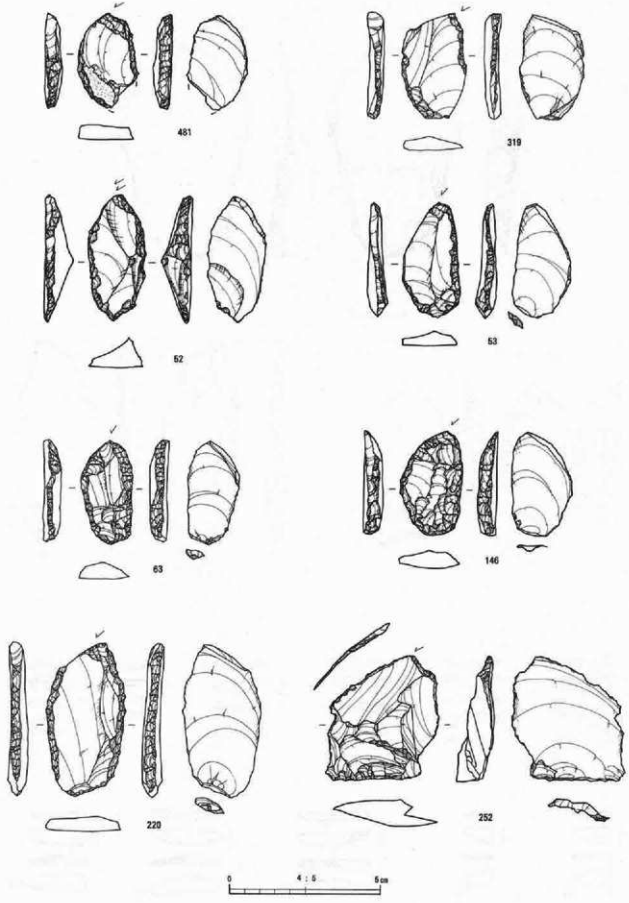


Fig. 69 旧石器（5）

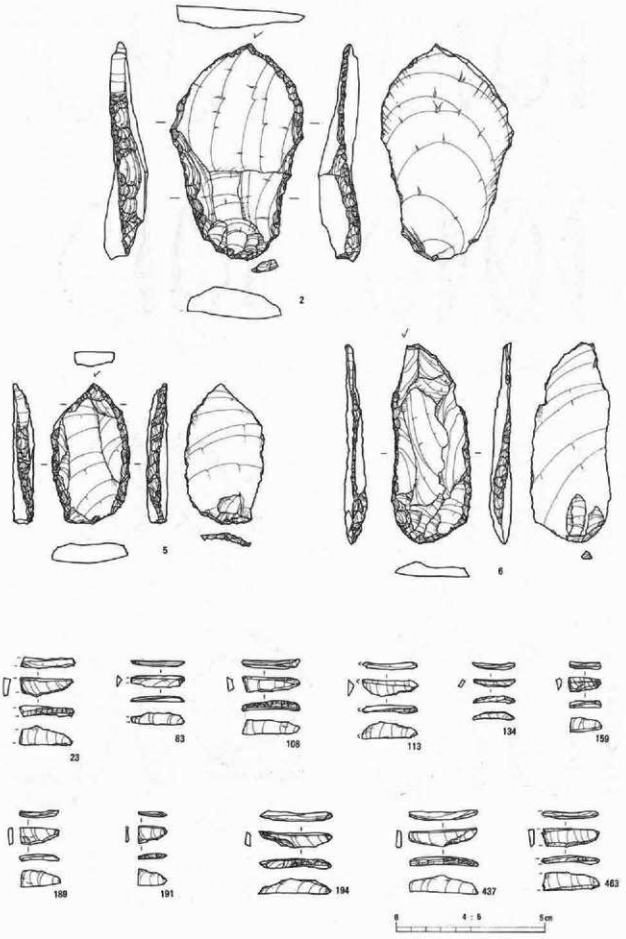


Fig. 70 旧石器（6）

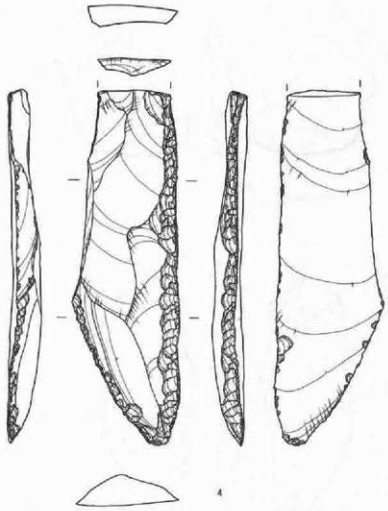


Fig. 71 旧石器（7）

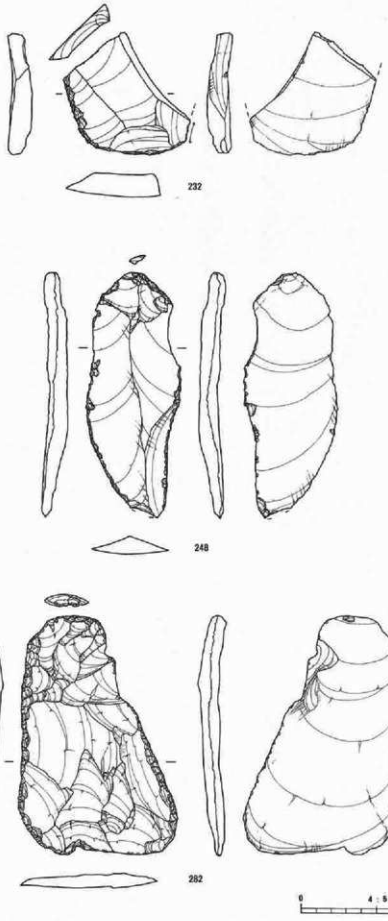


Fig. 72 旧石器（8）

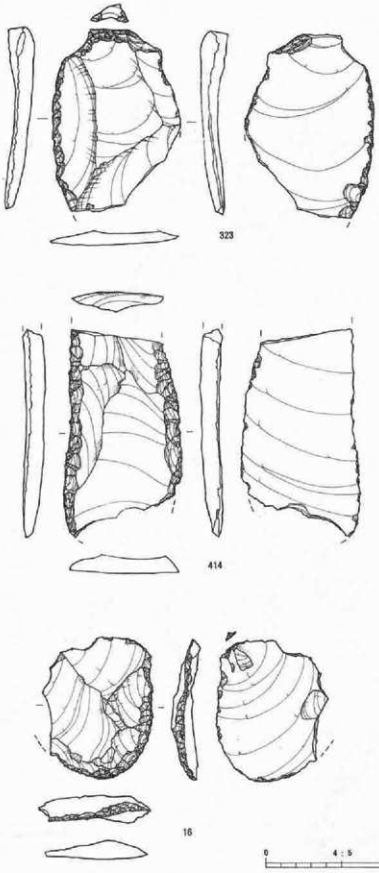
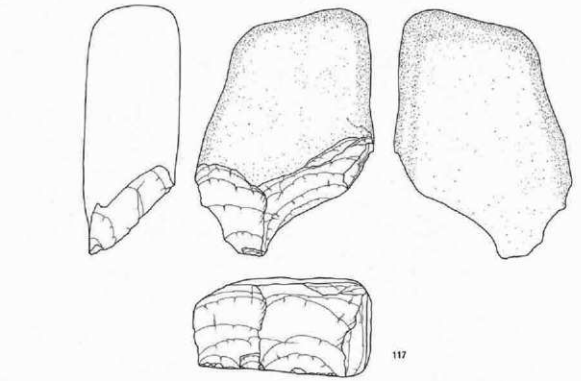


Fig. 73 旧石器（9）



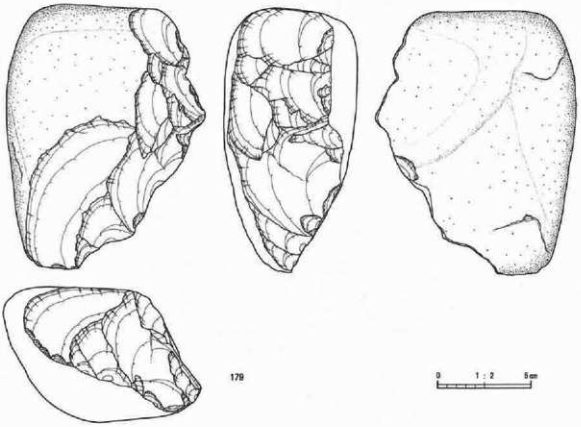
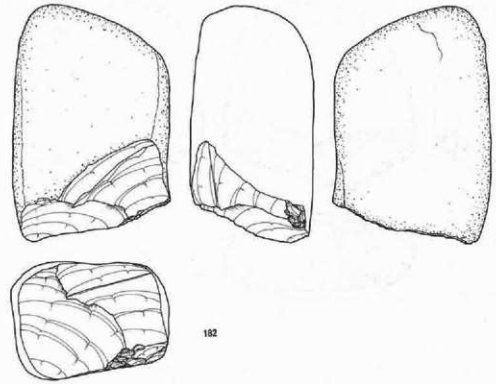


Fig. 74 旧石器 (10)



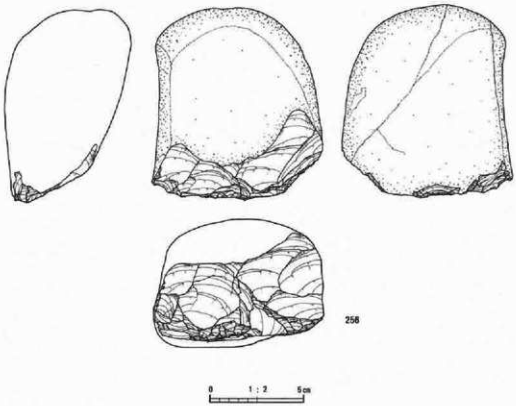


Fig. 75 旧石器 (11)

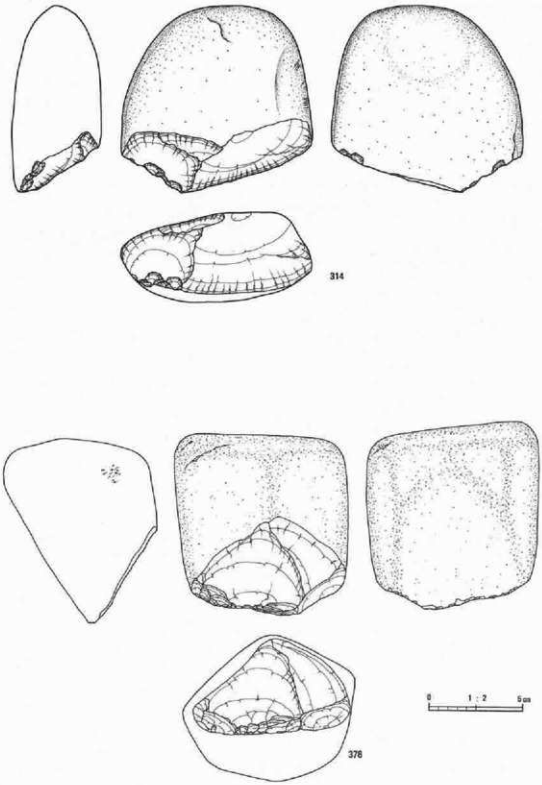


Fig. 76 旧石器 (12)

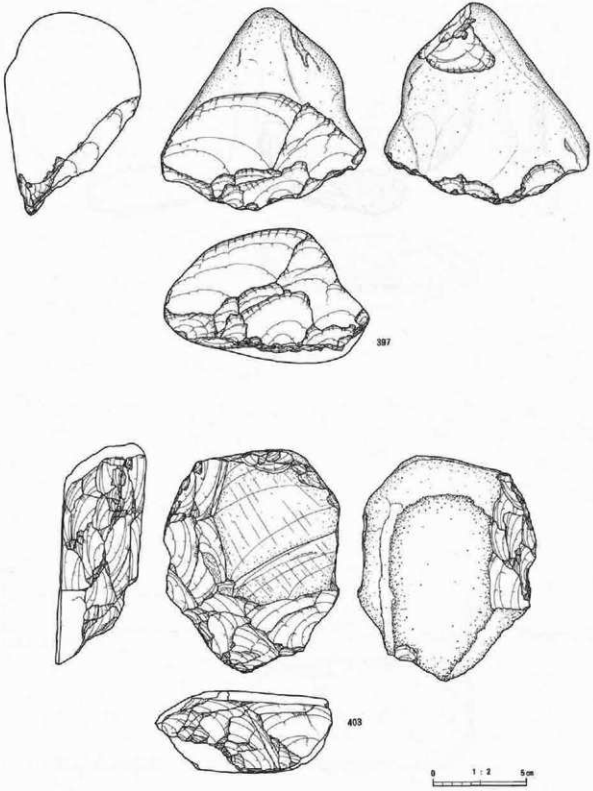


Fig. 77 旧石器 (13)

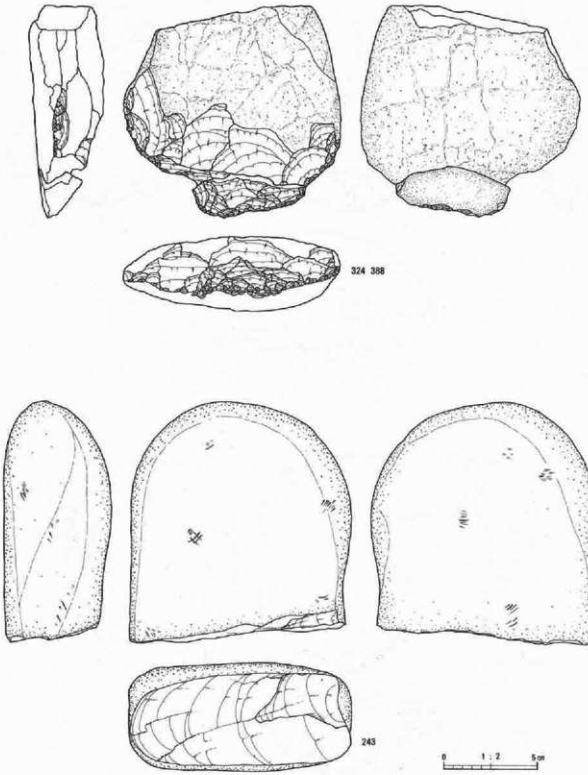


Fig. 78 旧石器 (14)

A区　全景

H－44号住居址　全景（S）

H－48号住居址　全景（W）

H－49号住居址　全景（S）

H－50号住居址　全景（E）

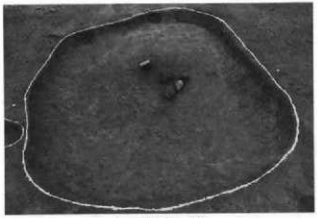
H－51号住居址　全景（S）

H－48号住居址　遺物出土状態（N）

H－50号住居址　遺物出土状態（E）

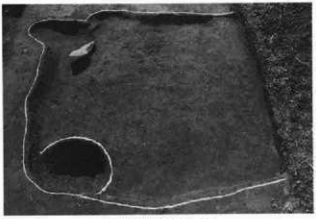
H－51号住居址　遺物出土状態（S）

B区　全景

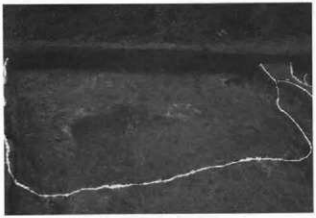


J－3号住居址　全景

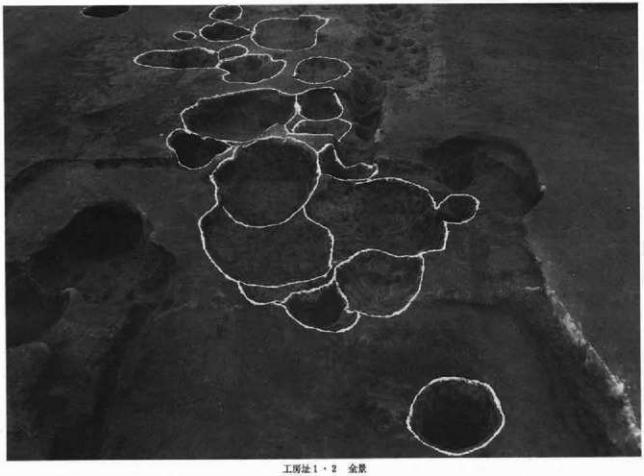
H－45号住居址　全景（N）



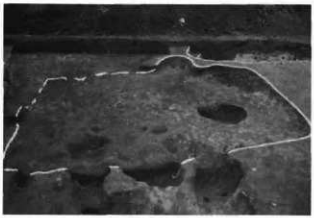
H－52号住居址　全景（N）



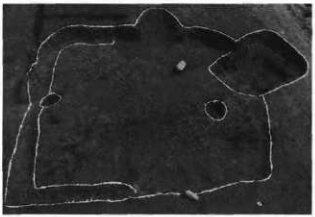
H－53号住居址　全景（W）



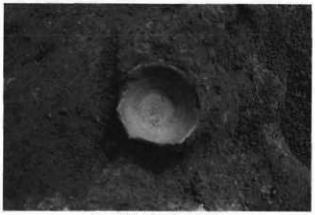
工房址1・2　全景



H－56号住居址　全景（W）



H－59号住居址　全景（W）



H－56号住居址　遺物出土状態

工房址１　遺物出土状態（S）

J－３号住居址　遺物出土状態

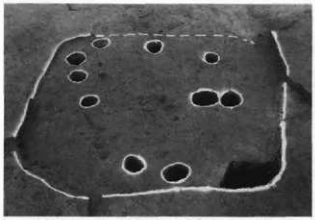
D－123号土坑　全景（S）

D－123号土坑　遺物出土状態（N）

J－４号住居址　全景（E）

C区 全景

D区 全景

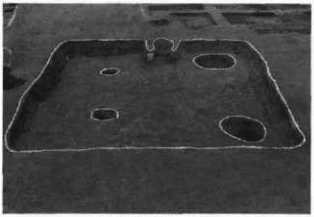


J－7号住居址　全景（N）

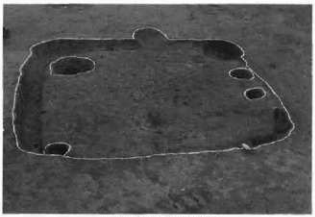
H－54号住居址　全景（W）

H－60号住居址　全景（W）

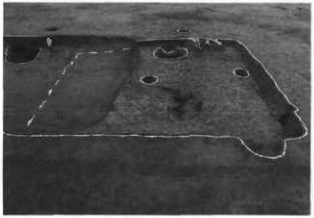
H－61号住居址　全景（E）



H－63号住居址　全景（W）

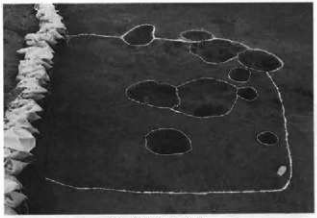


H－64号住居址　全景（W）

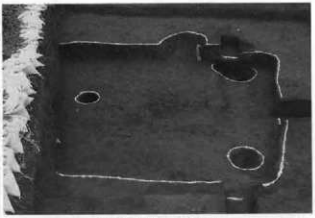


H－66号住居址　全景（N）

H－68号住居址　全景（W）



H－69号住居址　全景



H－70号住居址　全景（W）

H－63号住居址　カマド全景（W）

H－54号住居址　遺物出土状態（S）

H－63号住居址　遺物出土状態（W）

H－70号住居址　遺物出土状態（W）

H－71号住居址　遺物出土状態（S）

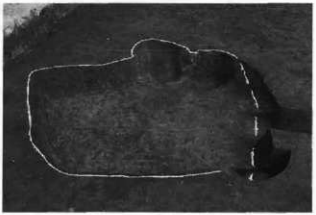
H－81号住居址貯蔵穴　遺物出土状態（N）

E区　全景

J－6号住居址　全景（S）

H－73号住居址　全景（W）

H－74号住居址　カマド全景（N）



H－76号住居址　全景（W）

H－77・80号住居址　全景（SW）

H－81号住居址　全景（W）

H－85号住居址　全景（S）

掘立柱遺構全景（S）

H－86号住居址　遺物出土状態（S）

H－74号住居址　遺物出土状態（E）

H－82号住居址　遺物出土状態（E）

H－85号住居址　遺物出土状態（S）

PL. 10

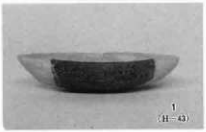
旧石器　検出状態（N）

旧石器　検出状態（W）

旧石器　出土状態（SE）

旧石器　出土状態（N）

調査を終えて


1 (H-43)

2 (H-44)

3 (H-44)

4 (H-45)

5 (H-46)

6 (H-46)

7 (H-46)

8 (H-46)

9 (H-46)

10 (H-48)

12 (H-49)

11 (H-48)

13 (H-50)

14 (H-50)

15 (H-50)

17 (H-51)

16 (H-50)

PL. 12

20
(H－52)

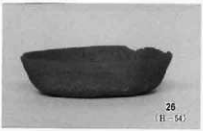
21
(H－52)

22
(H－52)

23
(H－53)

24
(H－53)

25
(H－54)


26
(H－54)

27
(H－54)

28
(H－54)

29
(H－54)

30
(H－54)

31
(H－54)

32
(H－54)

33
(H－54)

34
(H－54)

36
(H－56)

37
(H－56)

43
(H－61)

42
(H－61)

41
(H－61)

44
(H-61)

45
(H-61)

46
(H-63)

47
(H-63)

48
(H-63)

49
(H-63)

50
(H-63)

51
(H-63)

53
(H-64)

54
(H-65)

55
(H-66)

52
(H-64)

57
(H-68)

62
(H-64)

58
(H-69)

59
(H-69)

60
(H-69)

61
(H-70)

PL. 14

62
(H-70)

63
(H-70)

64
(H-70)

65
(H-70)

66
(H-70)

67
(H-70)

68
(H-70)

69
(H-73)

70
(H-73)

71
(H-73)

72
(H-74)

74
(H-74)

73
(H-74)

75
(H-74)

76
(H-76)

78
(H-77)

79
(H－77)

80
(H－78)

83
(H－81)

84
(H－82)

85
(H－82)

87
(H－85)

88
(H－86)

89
(H－86)

90
(D－124)

91
(D－124)

92
(D－124)

93
(D－124)

94
(D－126)

95
(D－198覆土)

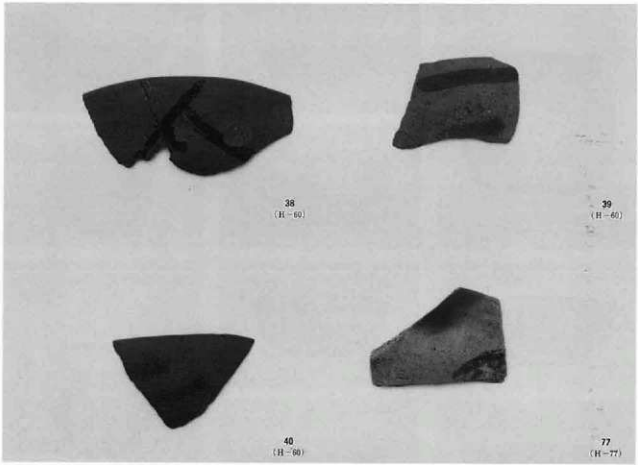
96
(工場1)

99
(E区覆土)

97
(W－3)

98
(A区覆土)

PL. 16

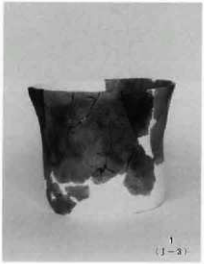


38
(H-60)

39
(H-60)

40
(H-60)

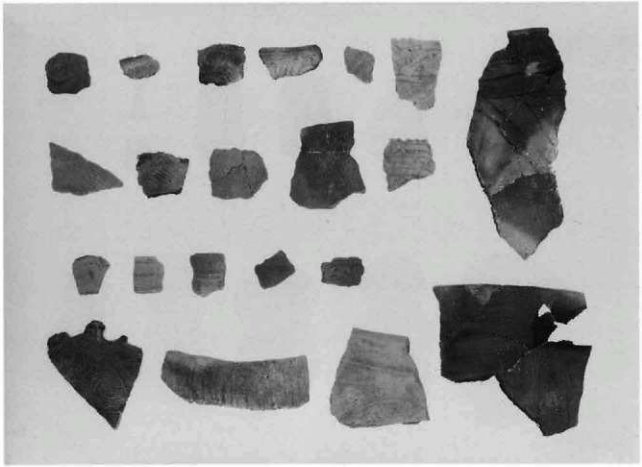
77
(H-77)



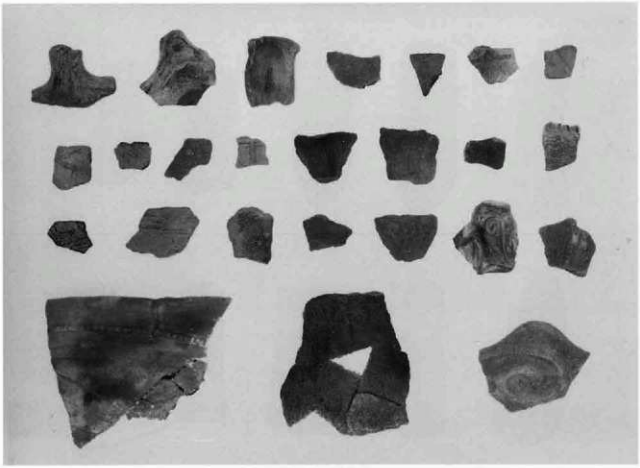
1
(J-3)

2
(D-173)

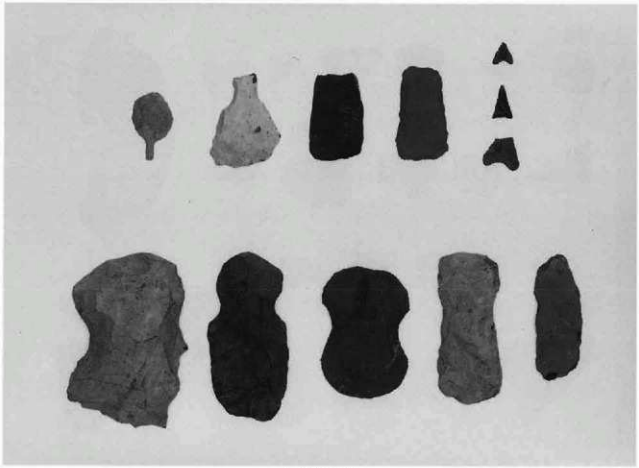
3
(D-123)



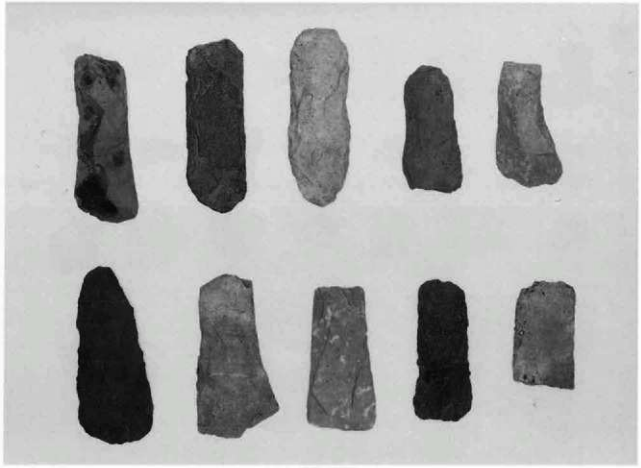
1　縄文式土器



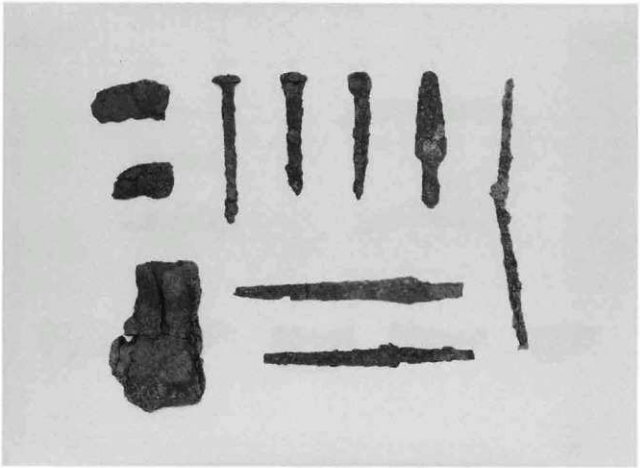
2　縄文式土器



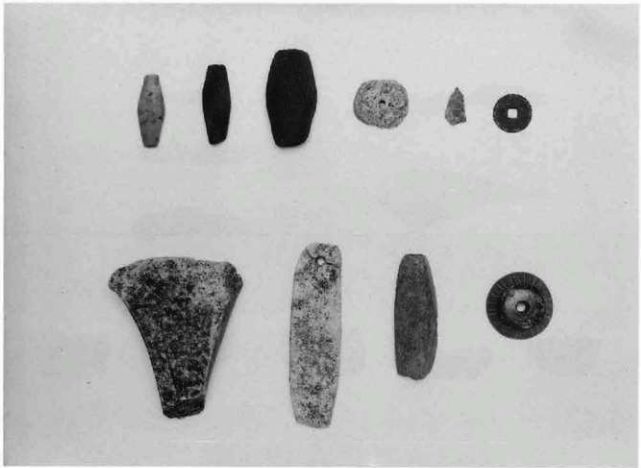
1　石器・石製品



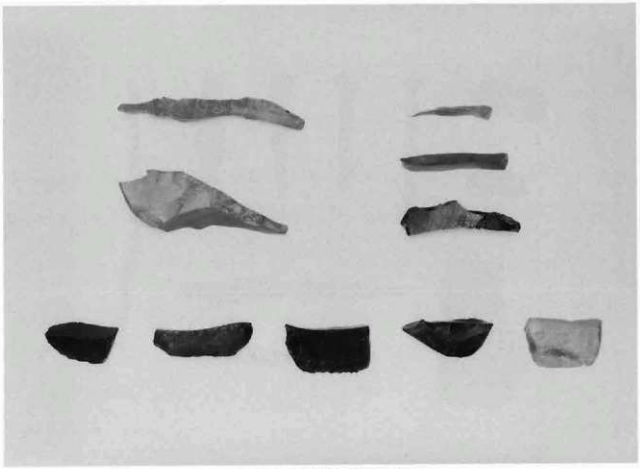
2　石器・石製品



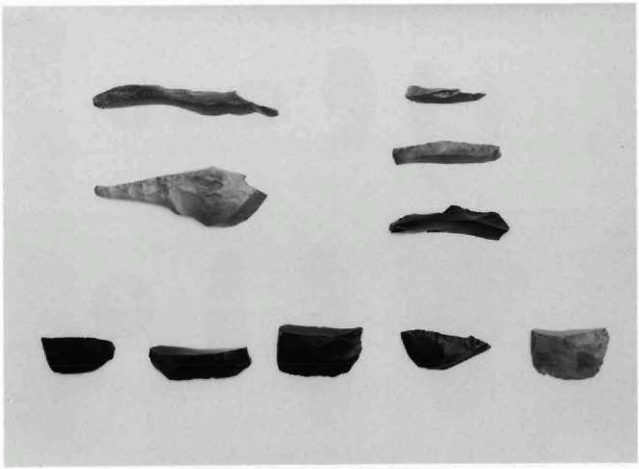
1 鉄部・鉄製品



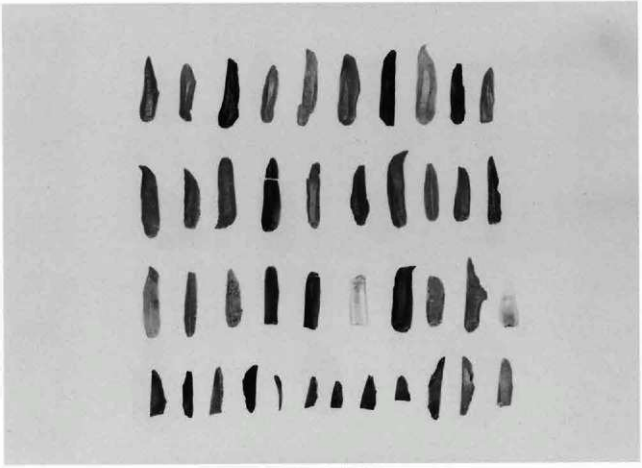
2 特殊遺物



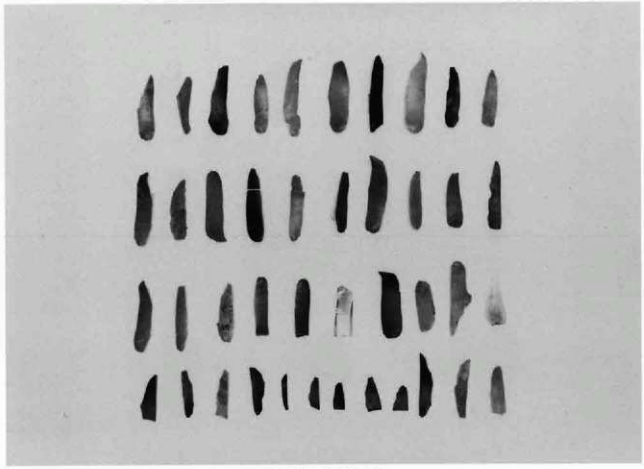
1　細石核・スキー状剥片・稜付剥片（表）



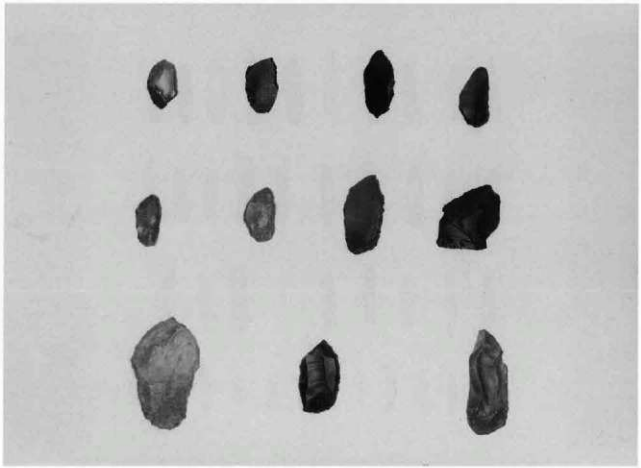
1　細石核・スキー状剥片・稜付剥片（裏）



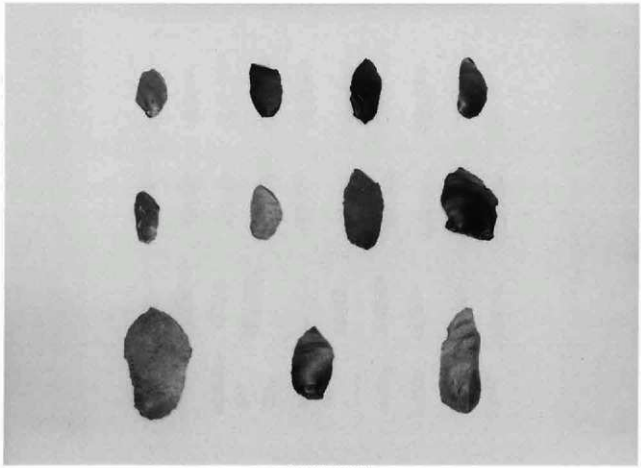
1　細石刃・彫器削片（表）



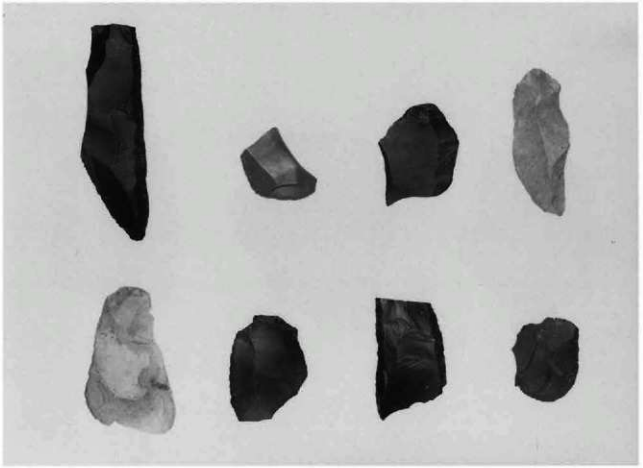
1　細石刃・彫器削片（裏）



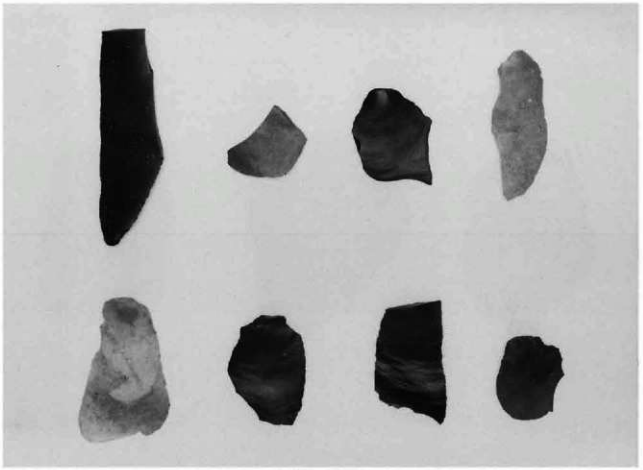
1　彫刻刀型石器（表）



1　彫刻刀型石器（裏）



1　削器・掻器（表）

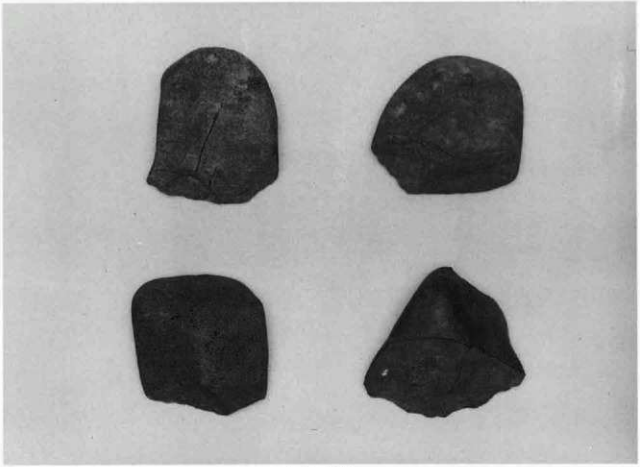


1　削器・掻器（裏）

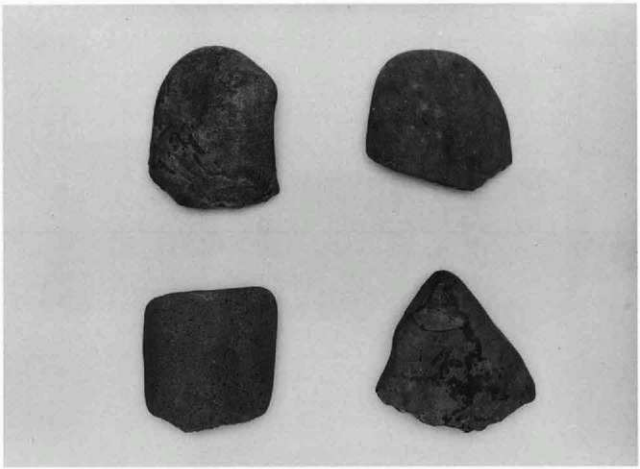
PL. 24

1 礫 器(表)

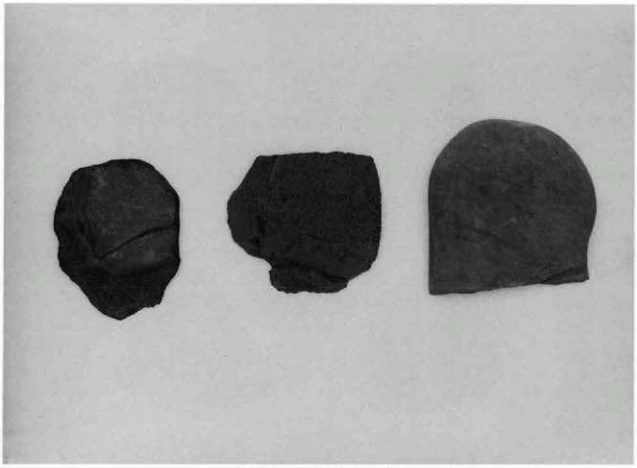
1 礫 器(裏)



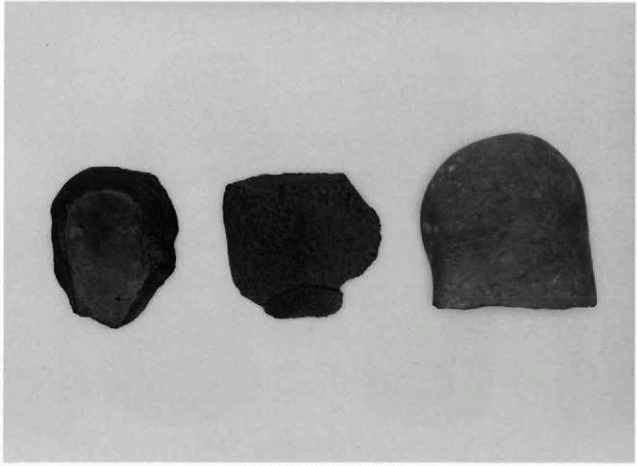
2 磯 器（表）



2 磯 器（裏）



3　礫器・ストーンリタッチャー（表）



3　礫器・ストーンリタッチャー（裏）

抄　　録

フリガナ	トットリフクゾウジニイセキ
書名	鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡
副書名	鳥取町土地改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	トットリフクゾウジ
シリーズ番号	2
編著者名	林　信也　福田　貴之
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371-0007　群馬県前橋市上泉町664－4
発行年月日	西暦1999年3月26日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	位置 北緯	位置 東経	調査期間	調査面積	調査原因
トットリフクゾウジニ 鳥取福蔵寺Ⅱ	マエバシシトットリマチ 前橋市鳥取町	10201	10C19	36°24′46″	139°06′35″	19980709 19990326	5,727㎡	鳥取町 土地改良事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鳥取福蔵寺Ⅱ	集落址 他	旧石器時代 ～中世	住居址　50軒 土坑　84基 溝址　5条 井戸址　1基 工房址　2軒 掘立柱遺構　9棟	旧石器、縄文式土器、土師器、 須恵器、灰釉陶器、鉄器・鉄製品、 石器・石製品、 他	旧石器分布域の 検出

鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡

1999年3月17日　印刷
1999年3月26日　発行

編集・発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市上泉町664－4
TEL　027－231－9531